が約一哩、花樹を植栽し將來は花のトンネルを現出せしむる計畫を立てゝゐる。遊歩道に添ふて水泳場があるが之はボート遊びと女子の遊泳場となつてゐる。水泳場には幾十の緋鯉、採色とりどりの鯉が悠々と浮遊し中央に架せられてゐる橋は嘗つて東(武)農林次官が來園した節竣功したので(東橋)と命名、橋を渡ると次の競技場がある

野球場　(四千坪)スタンドは三萬人を收容することが出來る

庭球場　(八百九十坪)バッタネット中コート四ヶ所設けられてゐる。

プール　(千五百坪)十八米に四十米の理想的のものであつて園の東方松林間に建設されてゐる。

水泳場　(二千一百坪)巾十五米長さ四百米

トラック　(五千坪)直面コース二百米、一週四百米で陸上各種競技を行ふことが出來るので縣體育協會の指定運動場となつてゐる。

大弓場　(六百坪)

角力場　(六百二十五坪)

子供遊戯場　(千二百坪)滑り臺、ブランコ、流動圓木を初め子供の喜ぶ運動設備をなしてゐる。

其他動物園あり、園内隨所に花壇あり、殊に松林九千五百坪は家族連れの散策道遙に適し又林中の高丘に立てば四邊の風光實に豁如たるものがある。更に事務所から空霧沼に通ずる遊覽電車の設備があり、湖月池畔には迎賓席、純日本風の松風亭がある。グランド脇には二階建の花月樓がある。又松林中四十八の石の階段を上り詰めた丘上景勝の池には京都伏見稻荷を遷宮し善男善女の信仰を蒐めてゐる。園内は高清水公園を背景として、風光明媚天然の美に惠まれ四季朝暮の變化に富んでゐる。附近の四圍は歴史的古蹟に埋りその一帶は古蹟に富み、史的思想を惹いて詩人の吟情を唆るものがあり、秋田市、土崎港町に來る者一日の遊樂に適する最高の地である。

將軍野　全縣民踊大會　東北一を誇る將軍野遊園地に、之も東北一の民謡踊の豪華版たる同大會は秋田縣最大のローカル名物として逐年盛大を極めて來た最近の名物で、元土崎に作踊(盆踊)といふものがあつたのを之を擴張して全縣的に統一すべく秋田廻新聞社によつて企圖され遊園地及電車會社後援で擧行されたが時流と縣民の嗜好に投じて計畫圖に當り、規模年と共に雄大なものになつて來た。絢爛、諷刺、道化等凡ゆる意匠に數十百金を惜しまぬ假裝を今ではお國自慢と驕奢を目指して大阪、東京及近縣から團體的踊の申込あり、一躍全國民踊大會の觀を呈するに至つた。會期は八月三十一日から五日間で、その雄大な規模と壯觀とは、見るものをして三嘆しむる斗りである。

つちざき　土崎

昨年土崎港を視察した大河内工學博士が、「日本海沿岸諸港も比肩し難い工業港である」と推讃し内務省も又「淺海は築港など出來ないとは昔の話で浚渫機の發達は遠淺な砂濱でも結構修築が出來る」と折紙をつけて港つ子を雀躍せしめたが土崎港も、當初の豫定通り、着々進行し、工業港秋田港としての活躍も近づいて來た。鐵道省土崎工場があり、日石秋田製油所があり更に新鐵管内隨一の貯木場が設置せらるゝ等續々好條件に惠まるゝ折柄昨年日石八橋油田の大噴油があり、工業港としての土崎港の使命愈々重大性を帶ぶるに至つた。此町は又縣下の何れの都市よりも現代に活躍してゐる多くの人物を輩出してゐる。曰く對支外交で、大活躍した前南京總領事の須磨彌吉郎氏、轎瀾川の人氣を浚つて關脇まで躍進した出羽港と文士としては小説家の金子洋文、小牧近江、今野賢三氏等あり、俳優としては一躍銀幕のスターとなつた竹久千惠子がある。ジヤーナリストでは魁から都新聞で鳴らした若松太平洞氏、東日旭川支局長の井上治出氏等も港の出身である。其他實業、教育、藝術各方面に亘つて俊才雲の如く現はれ地方、中央に活躍しつゝあるが、港の完成と共にこうした人物の飛躍によつて都の將來は前途まことに洋々たるものがあろう。

地勢　本町は西日本海に臨み雄物河口に位し縣の中央に在り廣袤東西十町南北二十八町〇、二七三方里で人口二萬に垂とし、戸數

三千四百を數ふる北日本有數の商港として三百年の歴史を有し古來商權の中樞であつた陸は僅に一里を以て縣首都秋田市を扼して雷車の便あり臭羽本線に臨み更に秋田市を以て羽越線に接し雄物の河運を結ぶ、海は四百餘萬の巨費を以て新築の途上を躍進する良商港を門戸として北日本海に臨接し北は樺太より南は臺灣に亘る日本海上交通の要位にあり陸海連商の樞路である。就中對岸北鮮諸港並に露領浦潮は直航僅四一九哩一晝夜半で達することが出來、商權頓に伸長しつゝある。

沿革　本町は元王朝時代永享八年安東康季の築城に係る湊城趾で慶長七年佐竹義宣出羽に遷封せられて此地に入城するや翌八年家康に請ひ久保田に新城を造るに及んで湊城は廢棄せられ後町民其の本丸趾に一社を建立す時に元和元年であつた。即ち今の縣社神明社で又御大典紀念公園である。明治二十二年町制を施行し以來幾多の變遷を經て今日に及んで居る。町史三百年の星霜を一貫して今日も尚其生命をなすものは連綿傳統の商權で、往時から海港と雄物川の水運に依つて、雄、平、仙、三郡の豊饒な産物と外は北海道より、酒田、新潟等の諸港を通じて外來物資の交易をなし縣下に於ける商業の中心地として永年殷賑を極め來つたが、河口水深の變遷に禍せられ盛なりし通商は漸く衰運に傾くに至つた、然るに政府は豫て本港の重要性を認識し明治四十年既に第二種重要港灣に指定する所あり次で大正六年雄物川改修工事に關聯して本港の修築となり大正十五年政府は更に本港築港計劃を決定し昭和十一年度を以て竣工せしむべく同四年愈々起工の運びとなり官民相協力して工事の進捗を急ぎつゝあり、然るに今や其の完成の日を目睫に控え各種業界の氣勢頓に活氣を加へ新工業の勃興し來つたことは往時に幾倍する盛況其現の日遠からざる證左であつて、加ふるに近來東北振興の聲漸く盛となり政府は之れが爲に一億八千萬圓の巨資を支出せんとす。東北地方港灣の使命愈々大を加ふるのとき本港又東北裏日本唯一の重要良港として急速に中央の認識を深めつゝあり絶好の工業港都として將來の囑望を負ふに至るべく町發展又逐年增伸して二十萬を起え商工業の現狀、教育、水道(消火)社會事業等の諸施設又既に昔日の比でない、更に港灣完成の曉は必然之に隨伴し來る通商産業其他の諸施設の伸展と相須て更に大秋田市の建設ともならんが將來の殷賑期して待つべきものである。

世帶と人口　世帶數　三、三七四　人口　男八、六四〇女九、一二九　計一七、七六九

主要生産

精油	七六、八五三	四・五三九、三七八
製材	一〇三、九〇〇石	一・〇七三、五〇〇
酒類	一、八五八石	一、六八、五四〇
鐵製品	——	——
鮮魚	七一、九四貫	一一〇、三八一
醬油	四、〇八八石	一〇一、八一四
木羽	——	八一、〇〇〇
菓子	——	八〇、〇〇〇
麵類	一〇〇、四〇〇貫	六七、二六〇
米	一、五二七石	四〇、四五九
計		六三八二、三三二

官衙公署及團體　土崎港町役場、土崎警察署、土崎郵便局、秋田區裁判所出張所、土崎森町郵便局、穀物檢査支所、水産試驗場、鐵道省土崎工場、仙臺煙草專賣局出張所、稅關監視署、土崎感恩講、土崎町農會、

各種商工組合

山　土崎港木材同業組合、土崎商店聯合會、土崎菓子業組合、土崎藝妓業組合、土崎料理業組合、土崎履物業組合、土崎電動力使用者組合、土崎港町魚業組合、相染新田魚業組合、土崎大工業組合、土崎米穀小賣業組合、土崎指物業組合、

學校

土崎第一尋常高等小學校　學級數　三〇　兒童數一、七六〇
土崎第二尋常高等小學校　同　二八　同　一、六五八
町立土崎高等女學校
町立土崎商業學校

新聞社　土崎新報社、秋田民衆新聞社、新興土崎社、秋田木材通信

私立土崎幼稚園　同園は大正六年五月元代議士近江谷榮次氏の計畫で設立を見初代園長は中山文太郎氏で、町で後援會を作つて寄附し加藤助吉、金澤松右工門兩氏が理事となり、最初は三十人そこ〳〵であつたが、現在では百三十名を收容するに至つた、昭和三年一月二代目園長土崎知善氏の死亡により町會議員として信望高き加藤助吉氏園長となり同氏の犧牲的努力により內容頓に改善せられ私立幼稚園として優秀な成績を擧げつゝある。

現在百三十名　議員五名、所在地本山町

銀行、會社、工場、有名商店

日本石油株式會社秋田製油所　近代國家の盛衰興亡は石油の產出額に支配されるといふ程重大工業として注視されるに至つた石油事業が近年各地の油田枯渇の狀態となり一時悲觀論を唱へられたが、昭和十年來の秋田油田の大噴油は從來日本一と稱された新潟全縣下の三倍にも達し、沈滯した斯界の空氣をカツ飛ばし我國石油史上に復興躍進の曙光を與へたもので、尙その發展性の偉大さは將來に繫るところ大きく大油田の亘疆は意外なものがあらうと謂はれてゐる。

沿革と現況　當製油所は明治四十一年旭川油田の開發に伴ひ明治四十三年七月起工、同十一年より製油作業を開始した當時は敷地面積四萬五千坪、蒸溜釜五十石一臺、二百石一臺、洗滌槽七十石二臺、汽罐四十馬力一臺、原油は旭川から三吋鐵管で受入れ極めて小規模のものであつたが旭川油田の增產と黑川油田の開發に伴ひ順次擴張し、大正三年五月には黑川五號井の一晝夜一萬石の大噴油があり、以後產油の激增に應して大擴張を行ひ同時に從來の製品たる燈油、輕油、重油の外、新に機械油の製造を開始した。次で大正四年に擴張を行ふと共に露人技師ガスパリアン氏を聘し原油蒸溜設備を連續蒸溜式に改めたがこれ本邦に於ける連續蒸溜の嚆矢である。大正六年及大正八年にも蒸溜釜の增設を行ひ大正七年からストレート、アスファルトの製造を開始した。大正十年十月日本石油、寶田石油兩社合併の結果、當社秋田縣產原油は全部當所で製油することゝなり、大正十一年連續蒸溜裝置一連を增設した外、再蒸溜釜、洗滌槽及汽罐等全設備の擴張を行ひ更に揮發油及ブローンアスファルトの製造を開始した。昭和二年コールトセットリングの設備をなし特種高級潤滑油の製造を開始し又昭和十一年機械油連續洗滌裝置を新設したもので製品はパラフイン、グリース等の特種品を除き揮發油からアスファルトまで凡ての製品を製出する

秋田銀行土崎支店

第四十八銀行土崎支店

土崎港遠

有限責任土崎信用組合　町民多數の熱望に基き、即ち中小商工業者に金融の途をひらき更生進出の原動力たらしめんとの柴田堅治、佐藤健之助兩氏の主唱と時の町長刈田義門氏其他有志一致協力の結果大正六年十一月十日創立されたものである。昭和十年度末事業成績は

組合員二、九四七人(相染町を除く)出資金二三八、五八〇圓(一口二十圓)貯金四四七、五二〇圓(この人員四五九三人)貸付金五一二、六九〇圓(この人員一、七七六人)諸積金一一七、五五〇圓にのぼり八拾七萬四千五百圓の運轉資金が間斷なく商工業者の間に圓滑に流用し組合員多數の產業資金として活用されてゐる。

組合長理事　刈田義門、副會長理事

野口回漕部　明治二十九年設立された秋田汽船株式會社船舶部の姉妹事業として明治四十五年創立されたもので大正十三年合資組織に變更し、野口貴平、同銀平、同周次郎三家の出資である。代表社員は野口貴平氏及同陽吉氏で築港完成後の活躍を期待される。

伊藤鐵工場　伊藤式ロービンタ竪井機の發明家で油田の神樣溫泉の神樣といはれてゐる土崎港驛前伊藤鐵工場主伊藤貞藏氏は、その

發明せる鑿井機の偉力により地方富源の開發に貢獻したこと實に莫大なものがある。最近の快ニウスは昨年四月茨城縣の四度ヶ瀑といふ日本十景の一たる觀光地を溫泉郷たらしたべく招聘され千二百尺の深度から日産五千石の大噴油に成功し今では入浴者毎日三千人に及ぶといふ。其他溫泉では、伊豆、湯ヶ里、新潟縣の鷹巣、山形縣の湯ノ濱、近くは市郊外秋田溫泉何れも伊藤式ロービングで發見或は更生、鑛山方面でも發展鑛山の油脂發見、岡山縣柳原鑛山は硫黄鑛鑛の埋藏釜測定等何れもその偉力に驚嘆してゐるが、更に氏は昨年「完全保溫木鐵管」を發明したが、之は從來の引湯配湯裝置は加熱の不便あつたが、此木鐵管を使用するときは源泉其儘の溫度で安心して引湯が出來ることいふ偉大な發明として溫泉者から感謝されてゐる。同鐵工所は其他一般鐵工製作業を營み軍需工場にも指定されて多忙を極めてゐる。

土崎驛前　電話一五八番

吉田鐵工場　識見の卓拔と任侠的氣慨に富み一旦引受けたか最後如何なる犧牲を拂つても、品質と期間を間違はぬといふ眞面目を顧客から愛顧され日石會社、旭石油會社其他の石油業者や横莊鐵道、各鑛山、各官衙、會社、酒造、製造業者を華客とし、縣鐵工業界を常にリードしてゐるものは土崎驛前に工場を有する吉田傳藏氏である。最近我國軍需工業の勃興と秋田油田並に諸鑛山の活躍土木事業殷賑の波に乘つて目覺ましい飛躍をなしてゐる。

昨年敷地五百數十坪を卜し三百數十坪の工場を新築落成し鑄造部、製罐部、機械仕上部、電氣溶接部の各部門に最新式機械器具を網羅し熟練職工五十餘名の從業によつて活動してゐるか、主なる種目は石油鑿井機、製油機械、鐵管、鐵槽、鑛山用諸機械、船舶と鐵材用機械、チルト車輪其他各種鐵工品が鑄造から仕上りまで注文に應し、期間まで廉價で完成するといふので信望を博してゐる。

土崎驛前　電話（自宅一三三番　工場二五八番）

吉田機械工場　土崎驛前に吉田鐵工場は二つある。一つは前記吉田傳藏氏の工場で、一つは吉田佐市氏の機械工場である。同場の營業種目は燃料界の革命兒たる專賣特許川原田式瓦斯發生機の製造元であり、小型發動機、鑿井機械、鑛山機械、諸機械製作業で非常な多忙を極めてゐる。場主佐市氏は明治二十七年十二月佐市郎氏長男として生れ、土崎小學校卒業後鐵道省鐵工場に入り、大正三年退場、同年上京して本場で腕を磨き、大正五年歸國して新潟鐵工場土崎分工場に入社旋盤職工長として、その卓越せる技倆を認はれたが昭和元年同場を辭し、同年獨立して現在の處に工場を經營、溫厚なる人格と獨特の技術を以て業界に知られ常に多忙を極めてゐる

土崎驛前二ノ堀　電話四九番

前田木材工場　土崎港町木材業界の大御所として、創立明治三十六年秋田木材に次ぐ古い歴史を有する前田製材工場は、治平氏の個人經營であつたが大正十二年事業を開放して株式會社となし、木材製材、卸小賣に大活躍をなし、東京方面に販賣するものは全製産高の八割を占め好評を博したもので、好況當時は製材石數百五十萬石に及んだものである。今日同町に於て業界に雄飛する田口長太郎氏や土田喜代治氏等當時何れも同家に於て活躍したものである。現在は令息和一氏主として活動してゐるが、同氏は土崎小學校から、秋田中學に入り、同校を出てから嚴父を輔けて家業に從事し、縣南横堀町に分工場を設け、更に昭和十一年六月から山形縣尾花澤に分工場を設置し、縣の内外に丸八二の良材廉價を以て好評を博してゐる。

田口樽丸工場　本縣特産秋田杉用材樽丸製品は從來長方形の半丸く製造してゐたものであるが斯くては重量増大し多大の運賃を要する斗りでなく雑片の無駄が多くなる爲採算に異狀を來し當業者の憾みとなつてゐた。茲に着眼したのは土崎港町譲、木材商田口長太郎氏（由利郡道川出身）で最新式機械數臺を設備し本縣最初の純粹樽丸製造に着手し作業能率と經濟的合理化で多大の成果を收め、ヒゲ田醬油製造元銚子醬油株式會社と特約し現在年額六十萬枚納入、將來百萬枚まで製作すべく工場の擴張を行つた。醬油容器は杉樽、鏈詰、壜詰の三種あるが秋田樽丸は最もよく、高價であつたが、氏によつて、この難關が容易に解決され、業界羨望の的となつた。尚ほ使用し切れない廢材を以て北海道行者樽は非常な好評を博してゐるが氏の烟眼、卓拔驚くものがあり、昨年成立した全縣商工會聯合會は氏の發案提唱によつて創

立されたものである。

味噌醤油　柴忠醸造工場　電話二〇四番

ヤマ○印醤油、味噌といへばその品質に於てその産額に於て本縣産の最高峰として普ねく知られてゐるが、創立は明治十六年現主人柴田忠吉翁の創業で大正十五年株式會社に組織を改めた。現在工場敷地二千六百餘坪建物約一千坪の大工場で、醤油四千五百石、味噌は十萬貫餘に及び、その販路は縣一圓と青森、北海道から、關東、東京に及び好評と地盤は年と共に強固なものがある。ヤマ○醤油が他品の追隨を免さゞる斷然たる優秀さを認められた原動力は、八郎湖名産の佃煮業者が廉價に仕上げる關係から醤油の品質を吟味したかのたのが、中央に於て變味、腐敗の失敗を現出したので同家令孫で大坂高工醸造部出身の吉治氏が、苦心の結果、化學的最新知識により佃煮專用醤油醸造法を發明し專売特許を獲得したのであつた。爾來一般家庭用調味用佃煮用としてヤマ○印の名一時に高揚するに至つた。尚ほ同家は現主忠吉翁八十六才夫人ハツ子さん八十一才、令嗣堅吉氏六十五才夫人ナヲ子さん五十八才、令孫青治氏三十九才夫人三十五才といふ幼な連れ三夫婦の揃ふて目出度い家庭として著名である。

舛屋藥舗　舛屋藥舗は文久二年創業、初代加藤助吉氏は秋田市の名家、那波家から分家として移住し同家の始祖となつたもので本縣業界中の老舗として知られてゐる。現代助吉氏は三代目に當り、東大藥學科の出身で、町會議員感恩講理事として重きをなし、同町築港問題には多年盡瘁した功勞者である。氏は本縣藥業界に於ても人格者として重きをなし秋田市土手長町に事務所をおく秋田藥業組合の創立以來の組合長として斯業の發展に貢献する處頗る多い、令嗣敏郎氏も東京藥專出の藥劑師で父子揃ふて藥業界其他に活躍してゐる。

川口商店　土崎港町の米穀問屋合名會社川口商店は明治三十三年先代川口豊吉氏の創業であるが、現代定吉氏に至つてからの飛躍は實に素晴らしい、現在の同家の精米工場は能力は年に二十萬俵に上る偉力を有し、得意先は北海道で十萬俵を超え酒造玄米として北海道、樺太に移出するもの二萬俵に達する盛況である。

カネブン　醤油味噌　土崎港町松田醸造所の醸造にかゝるもので、滋養豊富、醇良美味の逸品として近年の進出目覺ましきものあり、地場土崎港町は元より縣内では南秋、北秋、秋田市、河邊等に堅固なる地盤を持ち、縣外では青森縣に多數移出して好評を博し造石又造石の盛況である。現主文治郎氏は堅實主義顧客主義を信條とし品質の改善に挺身努力したのが今日の好評と地盤を築き上げたものである。

土田材木店　土崎港町木材界に彗星の如く出現した土田喜代治氏未だ少壯若冠の實業家だが、本縣内は勿論縣外各地に販賣網を構成し本縣木材界の爲に活躍してゐる。

名所舊跡　秋田城　風土略記曰く「今の土崎の湊といふ城跡あり平城にして水堀二重土手所々にあり、大手は申酉搦手は此にあり最初秋田城介殿の古城たり、六十年以前に破れたれば城内草木生ぜ茂り荒長けて道を塞ぎ、堀土手計見ゆ」永享八丙辰より廖長七年迄百六十六年とあり此文は德川時代に始めて書いたものであつて其頃の城を說明してゐる。秋田城介殿とは湊安東氏を指すので秋田城介を私稱してゐた爲である。此文中にある二重の堀も大方埋もれて内濠の一部分が神明社の邊に殘つて居るのみである。二重の堀があつたといふ記事は、今日土崎町に二ノ堀といふ所があるのでも分る、今下新城村岩城といふ所に岩城館といふ館址がある。其構造に於て金澤柵劣らぬ大きな館であるによつて考へると藤原氏の頃、豪族が居たらしいが其氏名を明かにしない。足利時代は岩城氏といふ豪族が此所に據つたらしいが、岩城は地名で元來は安部氏と稱してゐるが湊安東の一族らしい、岩城氏の菩提寺に淨福寺といふ寺がある。其所にある虚空藏菩薩は足利時代の作と判斷せらるゝ所から湊氏の勢力も考へ得られ

醤油味噌　**秋田文治郎**　醸造元　秋田縣土崎港町

る。又上新城村に五十丁といふ處がある、此所は湊城から數へて五十丁といふものらしい。

神明神社　縣社で湊城址の内にあり川口總次郎なる人が水戸から移して來て氏神となしたものであるが、土崎港の發展するに及び一般の鎮守としたものである。

三島神社　佐竹義宣は丑年生れ、守り本尊は虚空藏菩薩で、之は水戸に於て祭つたが遷封の際辭したのである。一般に虚空藏樣と稱してゐる。維新後伊豆の三島神社を勸請して神社となし、境内に地藏尊あり、錫杖寺の廢れたのを繼いだもので、此創立は萬治二年である。

愛宕神社　永享七年安藤太郎貞秀の建立で、廊長七年佐竹家に於て本社を保戸野に移して之をば、支社とした、本尊は迦羅山の地藏尊で茲登大師の作といふ。

秋田縣土崎港町小鴨町
合資會社　村山洋品店
電話六八番

蒼龍寺　曹洞宗鰐江山と號し應永三年秋田廊季の創立で開山は補陀寺十一代の天寶宗龍昭尚、秋田家の菩提寺である。明治四十四年二月失火燒失して古い史蹟は空滅に歸したのである。

善道寺　三禍山九昌院と稱し、淨土宗である。寶永三年萬岌上人の開山で、阿仁及酒田にある同名寺と共に三善道寺と稱されてゐる。

舊砲臺　佐竹家勤王の記念で、吉川忠行、忠安父子之を築いて外冠に供へ又操練した處である。

其他　滿船寺(淨)　嶺梅院(曹)　明稱寺(眞)　本住寺(日)　多聞院(天)　正善院(言)　正光寺(眞)　淨圓寺(眞)　實城院(日)　地藏院(言)　西船寺(眞)　金光寺(時)　興安寺(眞)　見性寺(日)　休寶寺(眞)

醫療機關

全科	土崎港町	岩谷賢助	電話一一九
全科	同	保坂銀藏	同　一四一
内科産婦人科	同	武田隆造	同　一二
内科耳鼻咽喉科	同	池田昇	同　二三九
全科	同	黒澤青雲	同　一五九
全科	同	草薙博臣	同　一三一
外科	土崎病院	後藤運忠	同　四〇一
外科	同	稻葉定義	同　一〇六
内科	同	井上節齋	
全科	同	關定得	同　三三〇
産婦人科	同	杉山政雄	〃　一〇〇
同		白石康人	
小兒科	棚橋醫院	佐藤京子	

船川線　分岐點、終點船川驛

追分　追分驛は奥羽本線と船川線の分岐點で、金足村にある。此村は人口五千そこ〳〵の村だが聖農石川理紀之助翁の出生地である。縣立金足農學校があり、年額百萬圓を産出する黒川油田があり交通の要路として村の活氣溢晴らしいものがある特に此村附近の梨は斷然味覺の覇王として著名である。

おひわけ

沿革　一に神足村といふ。神足は八郎潟に注ぐ小河の名で元慶の亂の當時秋田城北の賊地十有二村といふものあつて燒岡(本村)も其一なりといふ記錄がある。

世帯と人口　世帯數八六五　人口男二、五六八　女二、五七八　計　五、一四六

主要物産　米三六五、八七〇圓　石油九六一、九八〇圓　追分梨を特産とする

官公衙、會社、團體

金足村役場、巡査駐在所、日本石油工場、追分信用購買販賣組合

學　校　秋田縣立金足農業學校、金足西蘆常高等小學校、學級數八、兒童數六八八　同東蘆常高等小學校　學級數八　兒童數二八〇

名勝、社寺　男潟女潟の蓮花、村社金足神社、正傳院(曹)　常福寺(曹)　東泉寺(曹)　普明院(臨)

黑川油田

(年額十五萬石此價格百萬圓)、原油は鐵管で土崎製油所におくる。黑川油田の構造は我國油田中の模範と稱せられ、幅廣き稍圓形の背斜でその頂上に嘗て日産一萬石で有名なロータリー式五號井があつて、今でも少量の油を出しつゝある。このやうな模範的油田であるが、下部は堅い火山岩がある爲に、それ以下の深い處は未だ試掘されてゐない。しかしまた一面から見れば、この事は地震計採鑛法の實驗として無比の好條件であるから、我國で最初の實驗は昭和四年の夏此地で行はれ、豫期した成績を見ることが出來た。

偉　人

石川理紀之助翁

翁は弘化二年二月廿五日南秋田郡金足村奈良喜治の三男として生れ幼にして俊頴、青年時代農耕の傍ら學を修め實踐窮行の間に修養を怠らず、二十一才の時同郡豊川村山田、石川氏の養子となり家産の挽回に力めた。後縣廳に出仕して縣で農事の指導に任じ又四方に招聘せられて農村開發の爲身命を捧げ、農民から農聖と仰がれ農村の父と慕はれ其名普く天下に知られた。著書亦多く大正四年九月八日山田の邸に歿した享年七十一、朝廷特旨を以て從七位を授けられた。

おほくぼ
大久保

此町は八郎湖の東南隅に臨み田畑拓け、地勢概して高くない。**沿　革**　賴山陽が「鹿山粘水遠く模糊、幾葉の漁舟柳蒲に出づ、一睡何ぞ妨けん少時の睡夢魂飛んで入る洞庭湖」と激賞したのは此であると。現代の大久保は町こそ小さいが、産業頓に活況を呈し特に軍需品としての味噌漬あり、湖岸の佃煮は、近年著しく發展し土産品として好評を博してゐる。昨年南秋農村工業販賣購買利用組合聯合會が出來、農村の工業化を企圖しつゝある。

世帶と人口　世帶數 九一六　人口　男 二、五八一　女 二、六六五　計 五、二四六

主要物産　米一一七、四三二圓　アスファルト三〇〇、二七〇圓

佃煮の名産がある。

官公衙、學校、會社、組合

大久保町役場、大久保郵便局、第四十八銀行大久保支店、日本石油製油所、永井製油所、小倉石油鑛業部、販賣購買利用組合、大久保外四ケ村農業倉庫、大久保町信用組合、大久保蘆常高等小學校學級數一七兒童數一、〇四〇

名勝社寺　大久保の桃林、八郎湖の遊覽、住吉神社境内に清水湧き出で之を以て眼を洗ふときは眼病忽ち平癒しとて參詣者多い。月山神社、住吉神社、圓福寺(臨)

醫療機關

全　科　小野廣治　電話四〇番

全　科　高橋敏雄
全　科　佐藤龜太郎

銘酒　太平山
醸造元　小玉合名會社
秋田縣飯田川町

いひづか
飯塚

此驛は飯田川村の内にあり飯田川公園や銘酒**太平山**の本舗小玉合名會社があるので知られてゐる。

地　勢　大久保町の北につゞき、西は八郎湖に面し東部高くなり、西方には水田が多い。

沿　革　本町起源古い歴史を有してゐるが現に史實にあらはるゝ所詳でない。今を去る四百年前、天龜、天正の頃秋田城之介實季時代、和田五郎盛季大宮澤に鬼王館を築いて此地に土着した。和田妹川の名、これより生れたのである。當時飯塚に築掛館があつて飯塚越前この館に據つた、飯塚の名、これより起るといふ。

慶長年間佐竹義宣常陸より出羽に轉封するや、現在の本村地帶を狩獵地として屢々御狩野があつた、從つて二代義隆公の御休所は下虹川にあつた。之を城の内と稱して今日に殘つてゐる、虹川の名は年代不詳だが往古都人の法師委で此地によつた時、曳き來つた龍馬、川の淵に入つて失せ其鐙を流失したのから鐙川虹川の名起つたものであらうと。金山に古戸、宇瀬の兩氏あつたが、土着年代不詳である。往古佐藤治部金山に鑛業を營んだ時がある金屏畑として今廢處々に金屏あり、金山の名これから出たものといはれる。維新前本町は秋田郡下虹川村同和田妹川村同飯塚村同金山村と呼ばれ郡の代官の管する所であつたのを後、從來の郡制を改め區を設け、當地は第一大區とし、大區を秋田町に置き、大久保以北大川迄を十小區とし援所を濱井川に置かれた。而して肝煎を里正と改め後更に總代と改稱した。明治十一年大小區の組織を變へ郡役所は町村を監督した。此時下虹川、和田妹川、飯塚、金山、山田の五ケ村合して戸長役場を置かれたが、明治二十二年市町村制實施に際し、從來の區劃を改められ、山田村は豊川村に屬し飯塚和田妹川、下虹川金山の四ケ村を合併し、こゝに飯田川村の創設を見爾來着々として堅實なる進歩發達を遂げ昭和十年十二月一日郷民が年來の宿望たる町制施行の實現を見るに至つた。

世帶ミ人口　世帶數　七八八　人口男二二九〇女二　三二三計四、六〇三

主要物産　米　四七六七三九圓　製油四一一、九一九圓　清酒三六一、〇八〇圓　醤油七七、三〇〇圓　味噌七二、〇〇〇圓　藥王品五四一六六圓

官公衙、學校　飯田川町役場、秋田區裁判所出張所、巡査部長派出所、穀物檢査出張所、飯田川驛、飯田川郵便局、飯塚巡査駐在所、穀物檢査所飯塚出張所、飯田川尋常高等小學校、學級數一七兒童數九一七

會社、其他　小玉合名會社、飯田川酒造株式會社、湖東麹製造株式會社、飯塚運送株式會社、飯田川信用購買販賣利用組合

酒銘　**太平山**　縣南湯澤の銘醸と對抗し得るものは縣北に於てその造石數に於て、その品質に於て、而しその人氣に於て太平山であることは何人も否めぬ事實である。太平山の造石數は五千石を突破せんとしつゝあり、その販路は東北六縣から北海道に及び東京で日本一のデパート三越呉服店で販賣してゐるのを見ても如何に同酒が優秀であり權威あるかゞ知られる。太平山本舗を視察する人は、全國各種の品評會に於ける名譽賞優等一等賞の賞狀七十餘の額面で、さしも廣い事務所を圍繞してゐる壯觀に驚く。

同社ではヤマ久印醤油味噌は各地博覽會で名譽賞、首席入賞の連覇者で、色澤と風味は天下一品と稱されてゐる。醤油の造石數は五千石味噌は三千五百石といふ巨額に上つてゐるが猶ほ需用を充し得ぬ盛況にあるといふ。

名勝舊跡

飯田川公園　飯田川公園は大久保驛より十町餘り虹川東福寺の後園で自然の丘陵に加工して花樹を植栽し滿山の松風に蕭琴の響きを吹き八郎湖上の全景寸眸中のものである。狐舘と稱するのは春夏の候に男鹿より五城目の森山の邊に虹霓の如く白氣空中に顯はれ山河樹木の影、人馬の來往する樣忽然として出現するのであるが、蜃氣樓か鬼市の如きものである。

八郎湖遊園地　羽後飯塚驛から大排水に沿ふ道路を自動車で下れば、約五分で潟の波打際に至る。其眺望他に比類なく、又東方太平連峰の雄大秀麗なる景觀筆紙に盡し難いものがある。

ひといち

一日市

馬場目川の河口に位し面潟村を距てゝ五城目町に對し、地平平坦山地なし人口三千に足らない町であるが、かつては農民運動の根城として知られた町である。今は全縣體協の運動場として著名である。

沿革　町に青松寺あり「浦大町の城主三浦兵庫頭盛永の菩提所で天正年中、盛永檜山の大高相模守に殺さる。其子五郎盛末押切に居る即ち一日市なり、檜して盛末其臣小和田甲斐に弑せられ三浦氏絶ゆ、三浦氏の石塔のみ遺り世、石頭寺と稱しけるが其後青原と改む」（郡邑記）

世帯と人口　世帯數五七一　人口男一、五六二　女一、六二五　計三、一八七

主要物産　米一三一、八一五圓　繭一二八圓　佃煮製造と藥工品製造盛んである。

官公衙、學校、組合

一日市町役場、一日市郵便局、藥工品檢査出張所、穀物檢査出張所、羽後銀行一日市支店、販賣購買組合、一日市農業倉庫、一日市信用購買販賣組合、一日市尋常高等小學校學級數一四　兒童數六四二

名勝、社寺　三倉鼻の景勝、矢場崎遊覽場

醫察機關

全　科　小松秋明　電話一二番

附近名邑　山崎良造

銘酒　福祿壽

秋田縣五城目町

渡邊彦兵衛

電話三〇番

五城目町

町の沿革審かでないが、たゞ永慶軍記に天正十六年元南部の館黨たりし大光寺左衛門尉は不實に逆心の名を得て戰に利を失ひ津輕を落て比内の城にありけるが、五城目兵庫は主君秋田實季恨める仔細あり大光寺はかねて五城目を語らひ比内を南部の手に入れ我身の科をもゆるされ本領安堵せんと思ひ密かに五城目を語らふとあり、藩政時代は五十目村と稱し明治二十九年五城目町と改稱。

地　勢　郡の北部馬場目川流域に位し東南北三方は稍高くなつて中央に盆地を作つてゐる。

世帯と人口　世帯數　九〇五　人口　男二、二八二　女二、四七七　計四、七五九

主要物産　木材及鐵器の産地であるが、茲は福祿壽、矢留美人、秋田山等の銘醸の産地である。

官公衙、學校　五城目町役場、五城目警察署、秋田區裁判所出張所、五城目郵便局、町立職業紹介所、

五城目尋常高等小學校學級數一六　兒童數九四〇

會社、團體　第四十八銀行五城目支店、五城目販賣購買利用組合、五城目共榮信用組合

神社、佛閣　村社神明社、如來堂(眞)　了賢寺(眞)　高性寺(言)　珠嚴院(曹)　常濱寺(淨)　宗延寺(日)

交　通　一日市驛より約一里此間五城目軌道及バスの便がある。

酒銘　福祿壽　南秋田郡五城目町銘醸福祿壽、四ッ車の醸造元渡邊彦兵衛は氏は三百數十年前の元祿年間に創業した流れを汲んで今に盡きせぬ繁榮の下に連綿たる由緒深き酒造業を傳承し名醪いやが上に嘖々たらしめ先祖の名を恥かしめぬ健闘をなしてゐるが、同氏の信念は非常時日本の難局打開は官僚的イデオロギーでもたければ學者的研究でもない、たゞ道義化したる實業家の活躍と双肩にありとなし良心的醸造と良心的販賣によつて奉仕生活に滿足してゐる。されば品質は縣並に全國品評會において數度の優等賞入賞で名譽賞受賞がその反映であつて縣内は勿論東北六縣、北海道、東京、横濱、新潟等に擴張され造石高二千餘石に及び名實共に縣酒代表たるものがあるので聞こえてゐる。

酒銘　秋田山　銘酒秋田山は南秋田郡五城目町醸造元菊地鶴松氏が大正十一年に縣酒造界に乗出し不退轉の努力によつて築き上げた本縣代表的銘酒である酒質の芳醇さは熱心な醸造吟味によるもので直ちに嗜好界を風靡し年々歳々賣行增の盛況を呈し增石に次ぐ增石を以てし今や二千五百餘石に達し醸界の勇者として三嘆せしめるに至つた、されば東京の國産博覽會には逸早くもその品質を認められ記念名譽金牌有功章を獲得し京都市酒類商同業組合二十五年記念品評會において名譽賞を第十四回全國酒類品評會に優等賞を授與され縣内外に名醪を博し同十年縣品評會には連續優等賞入賞の故を以て名譽賞の榮冠を贏ち得て一段と躍進するところあつた、販路は縣内一圓は勿論東北々海道關東洲に國際酒として進出し積極の三都市に支店を開設し奮闘を續け關東洲に國際酒として進出し積極

進取の氣と吟醸は益々名聲を轟かし磐石の基礎を築いたが向後の飛躍こそ業界は刮目して期待するところである。準備

五城目醫療組合病院　一、**設立の動機**　本組合區域九ヶ町村は、人口貳萬五千六百人に對し當時醫師七名現在六名あつたが入院設備皆無で外科醫なく且つ信頼する良醫少い爲め秋田市其他に出でて治療入院する者多いので、醫療費高く民衆は權威ある治療と低廉なる醫療を渇望してゐた、茲に於て有志相謀り病院設立の議しば〳〵起つたが實現に至らず時恰も秋田醫療に次ぎ山本、平鹿の兩醫療組合設立の機運急速に興り、秋田醫療組合指導のもとに小區域の獨立した醫療組合設立の決意をしたものである。

二、**其後の狀況**　昭和八年五月十五日設立認可同年七月一日假診療所に於て開院十二月末まで六ヶ月で、第一年度は創業匆々の事とて金貳千百四拾圓貳拾六錢の損失金を、昭和九年第二年度は醫員十三名交迭したので金四千五百參八圓五拾參錢の損失を招いだ。然れども組合員の關心と理解は加入率全戸數の七割拂込額も七割以上に及んだので更生計畫を樹て醫局の編成替を斷行したるに昭和十年第三年度に於ては金四千六百四拾圓七拾八錢の剩餘を擧げ更生の基礎を確立するに至つた。現在に於ては拂込歩合八割二分に及び更らに一口の金額を拾圓に增額し自己資金の充實する計畫である。

設備建物延坪數　五城目本院三二〇坪、一日市診療所三二坪、病室は本院一九室收容ベット數三三である。而して現在組合員數は二、九五四名出資口數三、四八七口で十年度利用者は四七、二三四人といふ盛況を極めてゐる。◇組合長近藤泰治、院長外科醫學士澁谷三郎、內科小兒科醫學士金田晴司、産婦人科岩手醫學士佐藤良彦、內科小兒科岩手醫學士坂本三郎、內科小兒科醫學士村井德郎、藥局共立女子薬學士板倉一江

か　鹿　ど　渡

山本郡の南端に位し、西は八郎湖に面す。東より西に傾き南端には丘陵起伏して三倉鼻に迫つてゐる。**沿革**　七百餘年前、群鹿が男鹿から八郎湖氷上を渡つて來てから鹿渡となり鹿渡となつたものだと傳へられる。過去のこの町は餘り圓滿でなく、角の町と評されたが、近來の更生、飛躍目覺ましく、農業六割五分漁、商各一割の割合である。農、漁村であり乍ら野菜は能代から約八千圓代も買ふ矛盾に町ではその對抗策を講じたり、湖岸漁業や佃煮製造等奬勵したりして更生躍進工作に大童である。

世帶と人口　世帶數一、〇一六　人口男三、〇八一　女二、九六九　計六、〇五〇

主要物産　米二七三、一四六圓　繭二七一八圓　**鹿渡鮒**の名産がある。

官公衙、學校組合

鹿渡町役場、職業紹介所、鹿渡村信用購買販賣組合、鹿渡郵便局、鹿渡蠶常高等小學校　學級數一三　兒童數一、一八三

名勝、社寺　明治天皇御駐蹕所、八郎潟

も　森　た　り　け　岳

鹿渡町を南に控へ、八郎湖に面す、三谷川の下流を占め沼澤が多い。

沿革　元祿五年五月廿五日朝、此附近大地震ありて人家の倒潰、人馬の死傷、道路山岳の決潰等あつて盛岡村にも倒潰三十軒、內六軒潰、六軒半潰との記錄あり。

世帶と人口　世帶數五二六　人口男一、四七四　女一、五六七　計三、〇四一

主要物産　米一五一、一三二圓　繭三九二圓

官公衙學校、組合

森岳村役場、能代區裁判所森岳出張所、能代警察署警部補派出所、販賣購買利用組合　森岳農業倉庫

森岳疎常高等小學校　學級數一三　兒童數五八二

名勝、社寺　田村將軍陣屋跡、森岳城址、山口城址、鄉社八幡神社、弘濟寺(曹)　本光寺(日)　森岳寺(曹)

五能線乘換

はたおり

機織

機織驛は樺村地内にある。樺村は機織と大内田と相合せて樺村と改めたものであで。大内田村は二井田村といひ、倫勝寺あり、もと秋田家の菩提所國清寺の後で寺領百三十石を有した。播磨守は山伏で舊邑主淺野播磨守の子孫と稱す。後大河兼任なるものあり、其兄弟に新田三郎二藤次の二人ありしより之に因み仁井田村の名生まると。

機織の傳說

鵠の渡せる橋で年に一度の今宵こそ織姫と彦姫の語り會ふといふ七夕祭、五色の糸を笹竹にかけて乙女たちに乞巧祭の行事をやる。その織女星にたとへらるゝ機織姫が住んでゐたといふ小沼が樺村にある。機織驛下車東南へ十町小友沼を包む小丘の外側に周圍四、五十間岸一帶に蘆が生えてゐる細長い小沼がある、名づけて布洒沼といふ。其昔この小沼に妖艶な神女が住んで毎日のやうに沼の底にカッタンコットンと機を織つてゐたといふ。今の樺村柏子所、四屋、機織の三部落を機織村と稱し今日尙機織の名あるはこの傳說から來てゐる。機織村は元和元年(一說に四年)佐竹家の重臣梅津政景が開いたとも言はれてゐる。明治十四年秋明治大帝東北御巡幸に際し機織、藤田與八郎氏邸(現主稱四郎)に御休憩あらせられ機織の由來につき與八郎は恐懼して右の傳說を言上した、隨員故伯爵杉孫七郎翁は左の一首を詠んで藤田氏に與へた。

豐姫の浦のむかしを尋ぬれば
　たゞ機織の名のみのこれり

今も尙沼底から機の音の如く水の湧く音が聞えて居り如何なる旱天にも水量は減らぬといふ、最近この由緒ある沼に橋をめぐらし機織姫を祭り布洒沼から小友沼及小丘エッコ舘一圓を遊園地とすべく計畫中である。

この村の西は鶴形村に接し、南は檜山町との境に茂谷山あり。

地勢　南より北に傾斜し米代川に至つて極る。

世帶數と人口　世帶數三八五　人口男一、一三二　女一、一七一　計二、三〇三

主要物産　米一一〇、〇一八圓　繭三五圓

官公衙、學校、組合

富根村役場、富根郵便局、富根信用販賣購買利用組合、富根疎常高等小學校　學級數八　兒童數四三六

名勝、社寺　西ノ岱スキー場、德厚庵、不動山、湯ノ澤、村社愛宕神社、長德寺(曹)

富根温泉

奥羽本線富根驛に下車すれば驛の東方丘陵に緩かな坂が見える、これは富根温泉への入口である、此處を少しく登ると一大高原で眼下に米代の長江も見える眺望地で賑ふのも此處ら一帶の地である。此高原を下つて進むこと驛から二十町で温泉に辿り着く、此湯も秋田温泉同樣石油坑より噴湯して一躍温泉場と化した處で閑寂此上のない清淨地である。

交通　奥羽本線富根驛下車、驛より二十町徒歩

泉質効能　リウマチス、神經病、婦人皮膚病、胃腸病、痔疾、中風、打身、眼病、脚氣、痼氣、外主として痔腫撲傷に卓効がある。

旅館　一泊一圓五十錢以上自炊の設備もある。

ふたつる　二井ッ

沿革　村名は北井野と薄井の兩部落から井山間を成す小村である。

二つ井町は醫療機關としては醫療組合病院あり、火防では自動車ポンプを据付け、金融機關として公益質屋まで出來、種梅農倉も出來たが、飛躍、轉換の積極案は之から着々實現しやうとしつゝある。

世帶と人口　世帶數六三〇　人口男一、六一三　女一、七三六　計三、三四九

主要物産　米五二、六九二圓　繭二七圓

官公衙、學校　二ッ井町役場、能代區裁判所二ッ井出張所、二ッ井警察署、穀物檢査所出張所、二ッ井郵便局　二ッ井鑄常高等小學校　學級數一五　兒童數六六九

會社、組合、團體　秋田銀行二ッ井支店、、第四十八銀行二ッ井支店

名勝、社等

篠后坂　陸羽街道の坂路で山本郡荷上場村、北秋田郡七座村小繋に達する個所で兩郡に跨つてゐる。往時は頗る險難の地で、僅かに小舟を以て米代川を上下したが急轉折輕もすれば覆沒を免れたかつたのを明治十三年中本道開鑿し坂道を通し、十四年明治大帝聖駕北巡の砌り、御休憩遊され篠后坂の名を賜ふ由緒の地である。山上の眺望最も秀絶を極め米代、藤琴の二川、脚下を環流し白雲絲樹の間七座の鬼斧神工の奇を望み稀に見る奇勝である。

二ッ井驛下車十町乘合自動車廿錢、徒歩二十分

たかのす　鷹巣

此町は今こそ人口六千餘りの小都邑に過ぎないが、大正の末葉までは郡役所があり郡政の中心として時めいた町である。米代川に臨み、鷹巣盆地の中心に位し平野が多い。

沿革　鷹巣町は今から三百四十年前の天正年間に南部三日田村から兵部といふ人が來て開創し始めは狐岱に居住し、間もなく兄に當る刑部殿を誘ひ二人協力して開拓に努め、兵部羽立と稱して、約二十年間生活し、元和三年兵部羽立から今の地に移り、當時佐竹侯の治下に屬し、鷹巣村と改めたのもそれから間もないと傳へられ、寛文元年兵部の子齋藤伊勢が最初の肝煎役となつた。

町の現勢　郡制廢止によつて一時悲觀された此町は鷹巣自動車會社の創立、阿仁鐵道の著工等交通網の完備によつて復興躍進の機運を促進し、廢止の郡役所跡は各種團體事務所として復活し農業倉庫の創立、鷹巣實科高女の開校、住宅・地の擴張、或は職業紹介所、公益質屋の創設等々のうちに、待望の阿仁合線の全通となり、之によつて同町月並市場が汽車の便によつて更に盛況に拍車することゝなり、同町の躍進と發展の前途、まことに洋々たるものとなつた。

世帶と人口　世帶數一、〇四四　人口男二、七三三　女二、八〇八　計五、五四一

主要物産　米七二、〇〇〇圓　繭一、六八九圓

官公衙、（順不同）**學校**

鷹巣町役場、大館區裁判所鷹巣出張所、鷹巣警林署、鷹巣郵便局、木炭檢査所支所、職業紹介所、北秋田郡財務出張所、土木事務所、縣立鷹巣農林學校、町立鷹巣實科高等女學校、鷹巣鑄常高等小學校　學級數二一　兒童數一、一二六　成田直爾翁記念圖書館

會社、銀行、組合

鷹巣自動車株式會社、第四十八銀行鷹巣支店、第五十九銀行鷹巣支店　販賣購買利用組合鷹巣農業倉庫、鷹巣信用購買利用組合、河田家信用

たかのす　はやくち

購買組合、

新聞社　秋北新聞社

名勝、社寺

明治天皇聖蹟、成田重太郎氏邸内

村社鷹巣神社、淨運寺（曹）

醫療機關

			電話
全科	澤口正道		四三
全科	戸島德之助		六七
全科	奈良愼一郎		四六
耳鼻咽喉科	九島賢三		一〇四
外科眼科	私立鷹巣病院	藤原一	
内科	津島憲一		四
産婦人科	宮村三男		五
同	佐藤愼治		

ちぐやは　早口

北秋田郡の西北端を占め地勢南北に長い、三ッ森より早口起り、南に向ひ米代川にそゝぐ、西方は勾配急で釣瓶落峠、鑓掛峠連り、東方稍緩で、鳥帽子嶽、十ノ瀬嶽がある。

世帶ㇾ人口　世帶數　七五八

人口男二、三八一　女二、二六二　計四、六四四

主要物産　米一三七、四三二圓　繭一、六一三圓

官公衙、學校、組合

早口村役場、早口警察署、早口郵便局、早口尋常高等小學校　學級數一二　兒童數六〇七　岩野目尋常高等小學校　學級數八兒童數二九二

名勝社寺　明治天皇御駐輦所

長慶金山、村社神明社

秋田犬の本場

おほだて　大館

秋田晉頭では必らず眞先に「秋田名物八森鰕、男鹿では男鹿ブリコ、能代春慶、檜山ナット大館曲ワッパ」と歌ふのであるが、曲ワッパは今では、人口に膾炙される程の產業でも名物でもなくなつた。却つて忠犬八公のお蔭で、大館町は秋田犬の本場として折紙をつけられ一層有名となつた。大館は舊秋田藩支族太夫佐竹義純の采邑であつた。戊辰の役に盛岡の兵來襲十義純力戰して之に死す。邸第、市店悉く灰燼となる。當主義邈勤功によつて男爵を授けられた。

地勢　大館盆地の東部に位し交通の要路に當る、長木川に沿ふて地勢平坦である。

世帶ㇾ人口　世帶數　三、三二二　人口男九、〇五五　女九、一八一　計一八、二三六

主要物産　米一三三、〇八九圓　繭四七〇圓　曲ワッパ及釣針

名産

官衙公署

大館町役場、秋田地方裁判所支部、同檢事局、大館區裁判所、大館警察署、大館刑務所、大館警察署、大館稅務署、大館細菌檢査所、藥物檢査支所、長木川用水改良事務所、大館郵便局、同驛前郵便局

新聞　日刊北鹿新聞、秋田日日新聞

學校

大館尋常高等小學校	學級數三二	兒童數一、七四〇	
大館女子尋常高等小學校	同　三二	同一、六三一	
縣立大館中學校			
縣立大館高等女學校			

會社、銀行、組合

秋田銀行大館支店、第四十八銀行大館支店、五十九銀行大館支店、販賣購買利用組合大館農業倉庫、大館消費購買利用組合、大館信用組合

長木澤製材所

大館驛前長木澤製材所は日本財閥の覇者＝大藤田組の經營下にあり元長木澤國有林地元の二ツ屋にあつたが經營機構が大きくなつてくると共に作業關係のみで山間の奥地に引つ込んでをられなくなり大正九年十二月山を下りて現在のところへ進出、ひとり秋田杉のみでなく手を青森ヒバ材にひろげ、事業は日と共にしん〳〵として進み今や一ヶ年十四萬石の原木を消化して尚喰ひ足りないような潮をしてゐる。所長は北秋二井田村出身の菅原小太郎氏同製材所創立(明治四十三年四月)當時からの育ての親で實地から叩き上げた無類の經驗家だ、寡默よく二百數十名の部下を統率、高く産業合理化を掲げて原料の經濟、經費の節約、勞力の經濟化を計つて製品價格の低廉を期し、しかも製品の優良、規格の嚴選はもちろん、その引き渡し期日の正確をモットーとし今や藤田組のマーク

秋田縣大館町大町
花岡本店
同　支店
大館驛前

旅館

は全國的に斷然光つてゐるのは全く菅原所長の功績とされてゐる、即ちその販路は北は北海道から南は四國、九州の果てに及び全日本を席捲したかたちである。今その製品販路別及びその數量を見るに次の如くである

（單位石）

東京四〇、七〇〇關東地方九、六〇〇　北陸地方九、七〇〇　中部地方三、一〇〇近畿地方三、七〇〇中國地方一、六〇〇四國、九州一、八〇〇　北海道三〇〇東北一六、〇〇　縣内二、一〇〇計七四、二〇〇石（主として板、角材、小割材）

尚工場敷地、　工場建坪、原動機その他近代的施設は壯觀を極めてゐるがその冷靜な數字を次に掲げることゝする

工場敷地　一二、二〇〇坪工場建坪＝製材工場四四〇坪、仕譯工場一九二坪、原動機＝吸入瓦斯機關二〇〇馬力、電力二〇〇馬力（以下單位臺）製材機＝横切バンドソー一、大割バンドソー一、小割バンドソー一、大割竪鋸機一、テーブルバンドソー二、横式小割帶鋸機一、單式小割帶鋸機五、吊下横切丸鋸機三、大丸鋸機二、豪車付横切丸鋸機三、小丸鋸機二、耳摺小丸鋸機四、製函小丸鋸機三、計二九臺

自動目立機＝帶鋸自動目立機二、竪鋸自動目立機二、自動目打機一、丸鋸自動目立機一、丸鋸手摺目立機一、伸延機一、計八臺

その他の設備＝原木捲揚トロリーコンベア、製品運搬用ロープコンベア、製品卷揚トロリーコンベア、雜片及び製品搬出ベルトコンベア、鋸屑搬出ベルトコンベア

田村鐵工場

明治十四年といふと明治大帝が東北御巡幸の旅を重さねさせ給ふた忘れ難い年であつた。北秋山瀬村岩瀬に田村鐵工場か出來たのはその年の春であつた。勿論、鐵工場といふても今から見ればおたまじやくしにひとしかつた。その仕事も鍋、釜類の鑄掛か主であつて、その手も隣村までは及ばなかつた調はゞ農家の片手間にやつたに過ぎず、これを計畫した先代清松翁も今日の大を豫想しなかつたであらう、があの山村の不便な地にあつて屈せず孜々としてその業務を一歩々々廣げて行つた。こうして小さな山村の鑄掛屋さんが一進一退、鍋、釜專門の修理にかゝつてゐたが、俄然、明治三十三年頃から諸鑛山の機械仕事を引受けるようになり、こゝに始めて内部の施設もやゝ工場形態を整えるようになりこうして日露戰爭時代は所謂戰爭景氣の波に乘つて相當に儲けたといふが、戰爭後は反動の嵐を喰つて大打撃、一時は見る影もたき落魄時代があつたといふ。大抵はこゝで意氣沮喪するところだが流石今日「大」田村鐵工場として東北に覇を唱ふるに至れるだけあつて當時青年であつた現當主田村松助さんは美事にその難關を克服、三菱系の諸鑛山から山用の各種機械類の註文を取つて徐々に痛手をいやして行フォージド・クローム・スチールボール、クローム・スチール・ライニング、鑛山機械、喞筒、捲揚機械、鑄物品、銑鑄品各種であつて就中スチールボールの如きは日本全國その行かざるはたくその上朝鮮、滿洲等へも盛んに輸出、最早田村鐵工場は不動の地位を確保するに至つた。ところが主人松助さんは一見村夫子然として鄙幅を飾らず、そうして利益の大部分は公共事業にさゝげ鐵工場所在の岩瀬部落には殆んど同氏の獨力によつて小學校、郵便局、役場産業組合等の公共機關を集め進んで營林署を誘致し、寂然岩瀬國道筋か立派な近

代都市化した。そうして田村さんは、あんな不便なところに頑張つて大館方面に移轉しないのは創立が御巡幸のあつた年といふのと、田村鐵工場發祥の地であるからである。

名勝、名物

大館城趾

大館城は佐竹家一門の居城であつた處で佳城と稱し北羽の名城である。

阿倍貞任の臣川田治郎の居城で天文中獨鈷の城主淺利與市朝頼之を館し天正元年秋田城之介實季に亡された。實季の弟實泰之に居る、天正十六年南部家の臣北左衛門信愛に攻められ信愛の二男勝藏之に依り慶長七年佐竹家遷封せらるゝや赤坂下總守をして引渡の命を下したが、南部及淺利の殘黨蜂起して應ずる氣配なく佐竹義久をして打たしめた。その時淨應寺の僧順逆を說き兵を用ゐずに平定したが、義成佐竹四門の一として世々城代であつた。明治元年南部信民大擧して義純を攻め義純荷上場に敗走して城市共に灰燼となつたが肥藩の應援を得て漸く擊退した。當主義邈勲功を以て男爵を授けられた、今は外濠は稻田となり、本丸は苹果園と變つたが眺望絶佳の地である。岩神は大館町から二十町納涼の地に充てられてゐる。全山皆奇巖怪石突兀して巖頭には老松古を語り、春夏のつゝじ、秋の紅葉、全山燃ゆる斗り遠く森吉の高嶺近く長木川の清涼を掬する賞觀の遊客が多い。

秋田犬

秋田犬

忠犬ハチ公が生れた大館、ハチ公は死んだが、ハチ公の孫やその又孫たちが鼠算式に子を生んで行つて地に充たさうといふ勢だ。愛犬協會があつて會長は田山彌一郎氏である。協會が一致協力秋田犬の改良と繁殖に努めてゐる。昨年は東京から實業家木村泰治氏もやつて來て田山氏方を本部に愛犬家が集まつて何十代も前に遡つて各犬の系統調といふ大事業に取りかゝつてゐる。こんな具合で秋田犬の飼育が漸次紳士階級にも盛んになつて今では沼田信一氏や北木事務綠川賢策氏などもやり始め素人の域を脫しつゝあり、更に農村の副業として恐ろしい力で廣がつてゐる。仔犬一頭五十圓以下ないといふから大したものである。成犬のよいのになると天井知らずの相場であるといふ。

其他　大館公園　淨應寺の櫻、（小野妹子作聖德太子像、蓮如上人遺物等寺寶が多い）象樂園の櫻、岩神山、ざりがに棲息地（指定天然記念物）

神社佛閣　鄕社神明社、村社八幡社、同三吉神社、同愛宕神社、同部乘神社、淨應寺（眞）一心院（淨）玉林寺（曹）宗福寺（曹）巢莊寺（日）福照院（言）

醫療機關

全科	大館町	石塚綱國	電一一三
全科	同	石田尙輔	電一三五
全科	同	石田豐三	七四
全科	同	佐藤亮	
全科	同	伊藤成二郎	
全科	同	長澤春夫	
內科	大館病院	三神正藏	
內科	同	熊坂晃吉	
眼科	同	山田隆	
產婦人科	同	飯島俊雄	電一〇番
外科	同	松川金七	
小兒科	同	太田文雄	
	同	大松澤經雄	

しらさは

白澤

おほだて

此驛は矢立村白澤にあり次の驛陣場驛も此村にある。本村は大館盆地の北に連り矢立峠を距てゝ青森縣に界す、北方には高峰並びて溫泉地多く、下內川中央を南下して、國道及奥羽本線に沿ふ。

沿革　稗史にて有名なる相馬大作（下戸

来秀之進將頭)が津輕侯を要擊せんとして待構へたる矢立峠は此なり、吉田松陰曾て詩あり曰く「兩山屹立如屏風、一溪屈曲流其中、山窮水極欲無路矢立之塁當其衝、杉檜掩天晝亦暗、天以絶險繼二州、聞說文政辛巳歳、津輕就藩此際、南部遺臣米將監、糾徒欲要遏興衝、幾日徘徊武人瘦、敗謀忽突數年計、地利人和兩得人、自謂謀畫方無遺、休言奇變出意外、一時往與白鷗隨、君不聞蹈鈴柔存一句、初知幼女後脫兎」

住民と人口　世帶數四五〇　人口男一、四三一　女一、四五五　計二、八八六

主要物産　米八七、三三六圓

官公衙、學校、組合

矢立村役場、白澤營林署、白澤郵便局、矢立信用販賣利用組合

矢立尋常高等小學校　學級數八　兒童數　四四一

長走尋常小學校　同　三　同　一〇六

新聞社　矢立村報

旅館　安宍旅館、日景別館

名勝社寺

男神女神の靈峰、長走風穴、高山植物(指定天然記念物、植物)矢立鐵泉(含鐵炭酸泉)、元、赤湯溫泉といつた

じんば　陣場

日景溫泉　(北秋田郡矢立村)奥羽本線陣場驛で下車すると日景溫泉の案内所があつて何くれとなく世話をして呉れる。此處には何時も列車の到着毎に輻馬車が待ち構えてゐる。これは日景、矢立兩溫泉への乗合馬車である。日景溫泉は、茲から下内川に沿ふて國道を北上する事十五町更に國道から左折して五町を上り詰めると溫泉場につく、四圍は鬱蒼たる下内淮國有林が生へ茂り幽邃なる仙境の氣分が湧く、而して附近には櫻樹も相當多く春嵐漫の頃は新緑の美林と相和して日景獨特の風情を釀し夏は又涼風常に木の間を流れて暑氣を忘れしめ、秋は南方一帶の雜木が紅葉して傍への新緑に映へ浴客の足を留めしめ、冬のスキー又克く常にスキーの絶えることがない。四季を通じての變化を居乍らにして確然として滿喫し得る境地である。此溫泉は勅定の藍綬褒賞を賜はりたる日景家の祖、日景舞吉翁の發見開拓したもので、明治二十二年磐梯山破裂の時から湧き出したものである。湯は流化水素含有硫性硫黄泉で○、三八マッヘのラヂウムを含有して居り這入るとピリ〳〵と肌に浸みる程で其湯の熱さは、草津や那須の湯などより數等優り爲に相當頑固な皮膚病や梅毒等も忽ちにして快癒してゐる。即ち此所は「三日一週り」の湯として全國的に聞えてゐる有力な湯である。近年新館をも建て設備萬般成り交通又至便だので清遊に療養に格好の地である。

交通　奥羽本線陣場驛下車、驛より乗合馬車片道二五錢

泉質効能　鹽類性硫黄泉、鑄氏三十八度、皮膚病、梅毒、胃腸病、神經痛、リウマチス、性病一般、結人病、痔疾諸病、梅毒性諸病、腺病、切傷、冷込み痛氣、

旅館　日景家の獨立經營で旅館二棟、設備もよく整ひ、旅館は宏莊で清楚な建築、一日三食付二圓より三圓五十錢迄、客舍四棟四疊半、六疊、八疊等百室、食器等の自炊道具は全部設備しあり、無料で貸しつける。室料は特等一人一日六十五錢、二人壹圓拾錢、五人壹圓九十錢、一等一人五拾五錢、二人九拾錢、五人壹圓五拾五錢、二等一人四拾五錢、二人七拾錢、五人壹圓三十錢、三等一人四拾錢、二人六拾錢、五人壹圓五錢但し室料は滞在日數二週間以上七分、三週間以上一割を割引く、尚夜具料は貸貸、又食料品は賣店があつて些の不便を感じない。

附近名勝　明治天皇御駐輦所、相馬大作の跡、藤原藤房卿の古跡、風穴、男神女神山、日景神社

鐵道省指定旅館
天然カルス泉　矢立溫泉
秋田縣北秋田郡矢立村
陣場驛下車
北二十丁
秋田縣北秋田郡矢立村

じんば　ふただ　ふなこし

矢立温泉　カル、ス泉として近來メキ／＼頭角を顯はして來た矢立温泉は交通は日景温泉と同じく旅館には安宍旅館がある。一泊三食付一圓八十錢より三圓迄、自炊一日三十錢より五十錢

船川線

ふた田

二

この驛は天王村に屬し、八郎潟の湖口を扼し、對岸は男鹿半島の船越町である。日本海に面して土地低く海岸は草地砂地で屈曲に乏しい。

沿革　濱名湖上の辨天島のやうな地で、元對岸の船越と同一の名であつたが其後牛頭天王の稱呼により天王村と改む、曾ては濱名の橋にも等しい長橋であつたが、何時かの戰爭に取毀され六町餘の間、舟渡しであつたが明治十一年再び橋を架した。天王を一に典長ともいふ。

世帶數と人口　世帶數一、二四二　人口男三、七五四
女三、七一九　計七、四七三

主要物産　米一七三、〇七五圓

官公衙、組合、團體
天王村役場、巡査駐在所、追分郵便局、二田郵便局、職業紹介所、天王村信用購買販賣利用組合

名勝、社寺　八郎橋、縣社東湖八坂神社、自性院(三)

ふなこし船越

男鹿半島の東端八郎湖に臨み對岸は天王村である。船越町といへば昭和八年九月五日の暴風に廿餘名の青年が八郎湖の藻屑と消えたことがあり、更に十年十月には二百戸を燒く大火災に見舞はれ、町は打ちつゞく慘事に傷められてゐるが、現太田町長就任以來町民一同の努力で著しく復活しつゝある。半農半漁であるが近年商業特に佃煮の生産が盛んで、一面張切網、魚釣、鴨狩場として有名である。

世帶數と人口　世帶數五七一　人口男一、五〇五
女一、五九九　計三、一〇四

主要物産　米九五、六七六圓、佃煮を特産とす。

官公衙、會社、組合、學校
船越町役場、秋田區裁判所船越出張所、船越郵便局、第四十八銀行支店、船越購買販賣利用組合、男鹿農業倉庫
船越鎮常高等小學校　學級數一四　兒童數五五八

名勝、社寺
八龍橋、八郎湖と日本海を連接した銚子口の架橋で、橋の長さ二百八十間餘眺望頗る佳し。縣社八坂神社、圓應寺(眞)、蕘林院(日)、青松寺(曹)善行寺(眞)善昭寺(淨)龍門寺(曹)

わきもと脇本

此村は船越町と船川港町に狹まり前面は日本海に臨み、北西に寒風山がある。

沿革　脇本城は脇本村西四、五町許、一名大平城といふ、元亀、天正の頃安東五郎修季の居城であつた。海上に突出すること數丁、屈竟の要害なりしを天正年間秋田城之介實季之を落した城墟は、分内狹くなかつたが、永應二年海濤に打碎かれ、又文化七年の大震に缺落つて前後四百間餘の地海中に沒したといふ。

世帶數と人口　世帶數九三七　人口男二、五六九
女二、八〇〇　計五、三六九

主要物産　水産三〇、〇〇〇圓、米一九九、七二圓、石材一三五、〇〇〇才、薪二九八圓

官公衙、學校、組合
脇本村役場、職業紹介所、脇本郵便局、脇本信用購買販賣利用組合、脇本鎮常高等小學校學級數一六　兒童數七四七

名勝、社寺　大平城址、脇本濱、寒風山、偖心二重式構造を有し頂上に二個の火口趾がある。山頂からのパノラマ式風景は、この山獨特のもので、變化に富む。村社菅原神社、八幡神社、西念寺(淨)善法

わきもと　はたち　ふながは

寺(眞)・宗泉寺(曹)・大龍寺(曹)・高境寺(曹)・資光院(臨)・本明寺(曹)

ちたは羽立

船川港町地内にある。

はがなふ船川港

沿革　男鹿名勝誌によれば延寶の頃までは一町餘潮に居村したが漸々激浪に打たれて地陷り山を開墾して居村とす、戊辰の役の秋、軍艦の來泊に始まつて爾來汽船の往復絶ゆることなし、廢砲臺二所港の左右にあり、明治三年藩主之を建造せられしが幾年ならずして停止すといふ。

地勢　男鹿半島の東南部を占め地勢西北より東南に傾斜し海岸線は屈曲少い、男鹿の島巡りは此港から行はれる。

世帶と人口　世帶數　一、二九二
人口男三、三九三　女三、六三〇
計　七、〇二三

主要物産（船川港移出入貨物）總額七六〇、八五六圓　林產九四、一五〇圓　水產二二九、五〇〇圓　工產一五〇、四〇〇　米八二、九三五圓

官公衙、學校　船川町役場、船川警察署、船川郵便局、秋田區裁判所出張所、船川稅關支署、船川築港事務所、船川燈臺、町立職業紹介所、船川港防波堤燈臺、船川尋常高等小學校　學級數一九　兒童數一、一二八
比詰尋常小學校　同　同　一八〇
仁井山尋常小學校　同　同　一七三

會社、銀行、組合　秋田銀行船川支店、第四十八銀行船川支店、船川信用購買利用組合

神社、佛閣　村社石戸別神社、洞泉寺(曹)　嶺德院(曹)

名勝史跡

男鹿半島

日本海々岸でも屈指の奇勝で、その豪宕壯快な光景は頼三樹三郎の男子一度探雄男鹿島、松洲始覺驅妖纖　ぐらいでは悉されてゐない、唯々自然の鬼斧縱横その大規模にして放膽、怪奇なる彫刻振りに啞然として呆るゝより外ない狀態である。男鹿探勝は先づ船川上り舟行(加茂)五里半に至り日歸りするのが普通となつてゐる。けれども充分の探勝を試みるには、更に戸賀に至り(加茂から二里半)或は北浦まで(同上)六里も行かなければならない、尤も阿字ヶ島、藻琴の窟、大橋棧等人口に膾炙した奇勝は門前から加茂迄三海里餘りの間に在るから日歸りでも一通りの探勝は悉される譯である。門前は即赤神神社の門前の意で北方一里半、本山々上にその本社がある。元紀州熊野の本宮、新宮に擬して築昌を極めた社で今尚ほ殘る仁王門、多寶塔、五社堂、聖師堂などに昔の俤が偲ばれる。殊に聖師堂の頂上筏越の眺望は雄大その比を見ないと言はれる。本山、眞山は男鹿山國有林に屬し、全山鬱蒼たる亘杉の純林を以て覆はれた壯觀は、山林國と呼ばれる本縣でも特に屈指のものに屬する。

五能線

始點　終點五所川原　秋田縣終點岩館間

沿革　東洋一の木材會社、秋田産業の能代春慶で名高い此町は山本郡第一の都邑で米代川の河口にあり上古からの港で齊明天皇の四年淳代郡の大領沙尼具那の居つた處である。天正年中秋田實季の臣大高相模守野代城代として來り治めたが慶長以後は佐竹侯より野代奉行を置き之を治めた此地は山本、北秋田の二郡及陸中の鹿角郡から出る米穀、貨物の集散地である爲に船舶の出入、土崎港に次ぎ商業甚だ殷盛を極めてゐる。

木材で名高い

の し ろ

能代

地勢　米代川の河口に臨み兩側は東雲村柳谷である。南方に山林があつて稍豪地をなし、西方海岸方面は草地である。

ふなかは　のしろ

世帶と人口　世帶數四、九一六　人口男一、二三一五　女一三、四四一　計二五、七五六

主要物產　能代港移出入貨物總額四一、三八〇圓　農產六七、二二三圓　畜產九三、六二八圓　工產一一、二四五、一九一圓　米七、六八六圓　果實二二二、七一八圓

名產　能代春慶、翁飴

官公署、學校　能代港町役場、能代區裁判所、能代警察署、能代稅務署、能代營林署、能代郵便局、能代驛前郵便局、縣工業試驗場、職業紹介所、能代土木事務所、山本郡財務出張所

學級數	一六	兒童數	九三〇
同	三六	同	二、二七六

淳城第一尋常高等小學校學級數二六同一、七四一

淳城第二尋常高等小學校

同　縣立能代中學校

縣立能代工業學校

縣立能代高等女學校

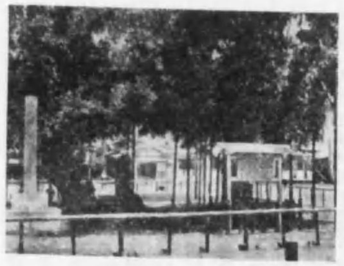
會社、銀行　第四十八銀行能代支店、秋田銀行能代店

秋田木材株式會社

能代といへば先づ第一に木材を思ひ木材を想起するものは直ちに秋田木材を聯想するである。それ史能代の秋木が、秋木の能代かと言はれる程著名である、本社の創立は明治四十年、能代挽材、秋田木材、秋田製材の三社を合併して井坂直幹氏によつて創立されたものである。現在同社の資本金八百貳拾五萬圓本社を能代港町に置き東京、大阪、名古屋、青森、北海道、樺太の各地に出張所を有し一ヶ年の木材取扱約二百十萬石、その賣上高壹千萬圓の巨額に上つて我國木材界の最高率を極めてゐる。就中同社能代製材所は大秋木發祥の地として同社創立の目的たる秋田杉開發の使命を果してゐるもので、その資材は殆んど秋田營林局管内の國有林に仰ぎ一日の生產高一千石、一ヶ年の資材消費高三十萬石、その販賣高貳百五十萬圓を超え實に同社の主體をなすものであつてその製品は我國製材界の寵兒として絶讃を博してゐる。◇現在同社役員取締役社長相澤治一郎、常務取締役大岩　岬、木場貞二、取締役大倉喜七郎、井坂建男、武村儀市、白井兵庫、監査役根本瑞男、安岡長四郎、相談役門野重九郎

株式會社 杉本木材店

杉木材木店は明治四十一年の創立、現在一般製板から同社獨特の化粧板を製作しその營業の堅實と隆盛さは昭和木材と鼓稱されてゐる。殊に原木主義、秋田杉の多角的利用の見地から特許を得たつぎ柾目の國華板製作に乘出し各地の好評を博するに至つたので、更に一大分工場を設置し大量生產の準備を整へつゝあることは注目されてゐる。社長杉木國太郎氏は靜岡縣に生れ、一介の木材人から今日の大をなしたのは、そのエネルギッシエな奮鬪と線の太い政治的手腕の所產といへやう、その一例としてあの六ケしい樽丸組合長の地位を自由にこなし、東木問題の時などよく粘りに粘つて更生に導いたなど、杉本氏ならずして出來得ないのである。材界人として政界人として料亭の主人として文字通り八面六臂の活動をなしつゝある。なほ同店には俊敏の田邊氏信情の久喜氏等の俊才を擁することも他に見られない強みである。



能代　神藤

東北木材株式會社

東北木材株式會社は昭和三年三月創立されたものであるが當時營林局發表の大合同案に基き柳谷製材工場外五ケ工場の合同と四ケ工場の買收により資本金一百萬圓拂込七十五萬圓の株式會社として設立したものであつた、しかしながら間もなくあの憂ふべき不況が來た大木には風があたる、つひにこの大世帶も不況の嵐のため昨年末には崩壞の危機に瀕したがこれを徹底的に整理し更生をはかつた結果資本狀態も一新せられ會社の基礎頗る堂固となつたのは喜しい限りであり。即ち社長には本縣材界の重鎮大塚勇助氏、常務取締役には誠實にして頑張リズムの

横溢してゐる能巻喊治氏を迎へ老練と努力の名コンビのもとに一大飛躍を期してをり同社の將來は刮目に値しやう。

同社は創立以來製材機の改良製品の改善に努力して來たが時勢の推移に適應すべく大英斷をもつて從來の製材方法を根本的に改革することになり目下六萬圓からの經費を投じて工場の改裝製材作業の合理化に着手してゐるが完成の曉は模範工場たるを自負し得やう。

現在の資本金は全額拂込み濟みの三十六萬圓、製品の販路は關東關西は勿論遠く九州にまで延びつゝあるがとまれこの更生の熱意革新の活氣は社業の隆盛、發展をもたらすことけだし當然であらねばならない。

昭和木材株式會社

嵐の多かつた製材界に少しの危ない氣もなく順風滿帆の姿で堂々行進譜を奏でゝゐる會社に昭和木材株式會社がある。同社は昭和二年十二月資本金拾五萬圓で創立されたものであるが、社長館岡篤氏の進歩的なしかも積極的な實踐によつて社業頗る隆盛となり昭和三年には秩父製材所を合併して貳拾五萬圓の會社となり昭和三年には大塚製材所、播磨製材所を合併して資本金三拾萬圓に膨脹、更に昭和十年には能代木材株式會社を併合して一躍四拾五萬圓拂込三拾三萬八千圓の大會社を實現した。

館岡氏は大館中學出身、控目のうちに一面滿々たる覇氣を藏し材界を透視して積極的にその抱負を實踐に移した果斷の人であつて、つとに秋田杉の多角的集約的利用を唱導してゐたが、今回秋田杉ベニヤに進出し、抱負の一端を實現しやうとしてゐる。氏は又郡政治界にも輝かしい存在となつてゐるが、今春能代商工會副會頭に推擧されて居り能代中小工業への貢献を期待されてゐる。なほ又同社は能代木材社長たりし深井市三郎氏を專務の椅子に迎へ館岡氏の進取果斷に配するに深井氏の深慮遠謀の聰明をもつてし社業いよ／＼盛大なるは喜ばしい限りである。

秋田杉材株式會社

秋田杉材株式會社は昭和五年十一月相澤材木店の事業一切を繼承して創設された會社でその創業年數わづか五年を數へるのみであるが業界に印し來た足跡は非常に大なるものがある。同社專務取締役社長の相澤卯衛門氏は將來の資材不足を見越し製材技術の研究でこの集約をはからうとした。この建前から同社は鋭意薄鋸機の使用、製材機の改裝に研究を進め常に業界のトップを切つて薄鋸を使用しリードした。即ち昭和七年にはつひに二十七番を設置し業界をアッといはせたが當時この薄鋸を米國に注文した米國では「何に使ふのか」と照會し來たほどで世界一の稱さへあつた。かゝて昨年からはゲージ三十番といふ驚異的な薄鋸を使用するまでになつた。

この結果として挽減りは減少し原木の極端なる節約を見るに至つたが一方製品は美麗なる挽肌を持ち一分八厘板は他社の二分三厘板と同等に仕上ると云ふわけで好評を博するに至つた。

なほ同社は秋田杉本目天井板の製材方法も研究し一昨年來賣出して各地で歡迎されてゐるが需要に應じ切れぬため大量生産を企圖し着々準備を進めてゐる。

塚本製材所

能代町塚本久兵衛氏經營の塚本製材所の歴史は非常に古い同家は代々久兵衛を襲名してゐるが四代前の久兵衛氏時代から既に手挽製材をはじめてゐたものでそれが產業革命の波に乘り完備した製材機械による製材會社を興すに至つたのは大正六年の六月であつた。爾來現主久兵衛氏の堅實な經營と溫厚な性格が反映して事業は漸次擴大され昭和三年には秋田市の小林製材所、新屋町の新屋製材所を合併して今日に至つてゐる、材界の名門に生育した塚本氏は餘りにも隱和なそして圓滿な人格の持主である。教育の普及した現代には智識や才能の士はあり餘るかも知れないが圓滿な人格の人は少い、新奇に走らず堅實に伸長されて行く事業はこんな人のよく成し得る所である。なほ同製材所には山の材積計算にはその比を見ないといはれる桂田氏がありその介添役も大いにあづかつて力強いものがある。

安岡木材株式會社

本社は大正十四年創立、最初は專門に醸造用容器業經營してゐたが原木主義的製材の關係から製板業をも經營し秋田杉の多角的經營へと出發した。しかしこれが集約な經營は困難であるとの見透しから樽丸業を殘し酒造用容器業を現在の秋田銘醸容器株式會社へ譲渡した。

ところへ昭和八年の不況が來た同社も一時この不況の嵐に抗し難く整理斷行の餘儀なき破目に陷り工場は撤廢他郡に併合と云ふ悲運に逢

着したのだ。この時現社長の安岡易太郎氏は「能代から一産業を失ひ多數の勞働者を失業苦に突き落すことは忍び難きことだ」と且つは又前社長高橋父子救濟も考慮し一時的の大犧牲を忍び債權者の損失を防止して敢然事業を繼續したものであつた。

爾來早くも二年の歳月を過つたが最初の前途不安を吹き飛ばし一氣に眞實の軌道をひた走つてゐる　社長の安岡氏は安岡長四郎氏の三男秋中卒業後木材に關興すること十六年、その冷利な商才と多年の經驗をよく傾けて瀕死の會社を今日の隆盛に甚かしめた將來ある新進實業家である

同社は薄鋼使用に專念しその製品秋田杉一分八厘天井板は全國的に認められベニヤ板を壓倒して賣行は非常に良好である。板の挽膚の美麗なるはいふに及ばず同社一分八厘板は京阪地方の實需者から賞讃の的となつてゐる。躍進能代の一役を買つて出た安岡氏の事業に永久の榮を祈念せざるを得ない。

銘酒　樂泉　銘酒「樂泉」醸造の西村醸造店は縣内でも古い歴史を誇る老舗でその創業は二百五十年前の寶暦時代といはれ當主西村哲也氏まで十三代目となつてゐる。この三百數十年の間同店は十年に一回の率で火災に見舞はれて來たが不撓不屈、よく焼け濱がりの實例を見せて繁榮して來た。そして往昔の港町の寵兒が年移り人變つても相變らず産業都市能代の人氣をさらつてゐるのだ、殊に同店は不況も漸く遲刻となつた昭和八年幸町の大火に類焼の憂目を見た、一時はどうなることやらと危惧の念で見られてゐたが西村家では「この機會に」とばかり酒造部、醤油醸造部の充實をはかり科學的な新設備を完了した

酒造部　銘酒「樂泉」の外「喜多正宗」「勝開」を醸造、醸造石數二千石、間口六間、奥行十三間の貯藏庫二棟有機物除去のウオターライト、水壓機三豪等の優秀設備で酒質の向上に全力を傾注地味な商法により乍らも壓倒的に大衆の人氣を博してゐる。販路は能代中心の山本郡内に限られてゐたが最近は北秋、南秋方面迄進出してゐる。

醤油部　明治三十年頃から醸造開始、施業設備は酒造部と共に縣内業界に誇り得るもの、醸造石數は八百石であるが（マル西）の商標はその品質の優秀さを誇示する高らかな旗幟となつて南秋、北秋、遠くは由利郡迄も進出し五能線全通と同時に津輕地方の席捲を期待される。

明治四十年大日本ビールの郡内特約店となり今日に及ぶ。

當主の哲也氏は秋中卒業後北大豫科に學び更に京都帝大に學んだ有爲の人父の亡き後二十歳にしてよく類焼の際の危機を切り拔け着々その抱負を實現してゐる勝れた才幹の持主で將來の能代を背負ふ少壯の一人である。

醫療機關

内科、小児科、婦人科	能代港町大町	石田春輝	電二五六
泌尿生殖器科	同	織田信英	
内科　小児科	同	織田信也	一六
外科	同	富	
内科　泌尿科	同	川村德五郎	三一〇
外科　生殖器科	同	驛前九島惠太郎	二四三
産婦人科　小児科	同	大町山内龜藏	一三七
耳鼻咽喉科	同	上後町松野一也	二六
産婦人科　泌尿生殖器科	同	松野朝造	四〇八
外科	同	小川卯一郎	四五一
眼科	同	同馬喰劣町皆川東雲	二六八
内科　産婦人科	同	皆川忠友	
同	同	上町渡部武雄	五二四
耳鼻咽喉科	同	畠町白坂義高	三六九
内科　小児科	同	同　菊地清一	二二四
内科　小児科	同	柳町津荷瀧一郎	三五三
皮膚科　泌尿科	同	畠町小林武櫻	
眼科	同		

山本醫療組合病院　農村醫療問題が喧しく提唱されてゐる今日創業わづか四年でその使命達成に努力が山本醫療組合がある。昭和七年創業早々非常な犧牲を拂つて郡内權威の地五ヶ所に分院を設け能代本院の優秀なる綜合設備と連絡して着々効果を擧げ、全國的模範組合として賞揚せられてゐるものにわある。

五萬組合員家族の診療を行つてゐる。殊に最近は本郡の最も僻遠の村下岩川に診療所を設けるなど醫療網の農村浸潤への努力は全く敬嘆を表するに値する。

同組合の陣容は田代勝淵博士を醫長として村上博士外十一人、幹部は產組の先覺者田中親政氏が組合長、副組合長には木材界の重鎮深井市三郎氏を配し、更に實際の經營は松田專務が内部の業務を一切きり廻し高隣專務は又外部接衝に圓滑を期してゐる。その他分院所在地には五名の理事が常務として監督し醫局との融和を計つて堅實たる統制を見せてゐる。

病院も醫者も赤字に苦しんでゐる今日この組合のみは、積極的な醫療救護を開始し、全郡的に二十七回にわたつて無料巡回醫療をやり醫師にかゝり得ない四千三百人からの人々のため醫療をやつたなどは特筆すべきものである。組合の現況は左の通りである。

◇組合員八、九二六人、出資總額一〇〇、九一〇圓、設備費本院四八、九〇〇圓、分院二六、四〇〇圓、建物坪數一、〇〇八坪、入院收容七十三人

郡内六ケ所に分院

昨年中の業績を見れば診療人員延數で十六萬四千人、一組員當り十八人九分、この診料金十圓八十錢でこの成績は我國でも數のない利用率である。この診療は縣内患者の過半數を扱ひ治療費は半額に輕減されたといはれ貧しき農民大衆の恩惠は至大である。分院及び診療は左の通りである。

二ッ井分院、東雲診療所、森岳診療所、親海診療所、藤琴診療所、扇淵出張所

のしろ　しののめ

陸軍飛行場となる

東雲

本村は本縣唯一の飛行場、東雲飛行場で知られてゐる。川を距てゝ能代港町に對し、西は日本海に面して居る。東部は地勢稍高くなつて常盤村に接し、北には竹生川があつて西に向つてゐる。

世帶ご人口　世帶數一、〇五四

人口男一、六六一　女一、六五八　計三、三一九

主要物產　米一七〇、八七七圓　繭、一五三〇圓

官公衙、學校、組合

東雲村役場、東雲郵便局、東雲飛行場、東雲信用販賣購買利用組合、向能代蚕常高等小學校　學級數一四　兒童數七二八

朴瀬蚕常小學校　同　六　同　二五八

竹生蚕常小學校　同　六　同　二二八

名勝、社寺　志賀城址、朴瀬の梅、眞壁地の紅葉、村社稲荷神社、同熊野神社、德昌寺（曹）

東雲飛行場　秋田縣隨一の飛行場として知られて來た同飛行場は、裏日本空の護りとして近年頓にその利用價値を高めて來たが愈々陸軍飛行場として國家で經營することになつたが、同地は十一萬餘坪の廣茫たるものであり理想的の飛行場である。

さはめ

澤目

此村は水澤川の流域を占めて東北より西南に長き地形をなす。西方海岸は屈曲に乏しい。

沿革　澤目の名は水澤目名潟より取る、一時水水銀山を以て聞えたが近來はその盛觀を見ることは出來なくなつた。

世帶ご人口　世帶數六四二　人口男一、七三八　女一、九三八　計三、六七六

主要物產　米二〇四、〇九九圓　繭八四二圓

官公衙、學校、組合

澤目村役場、能代區裁判所澤目出張所、澤目郵便局、澤目信用購買販賣利用組合

名勝、社寺　池ノ俗　雄山觀音　（天武天皇御字慈覺大師開基）　盛澤寺（曹）　豐應院（日）

はつもり　八森

秋田晉頭にある「八森(はつもり)」男鹿では男鹿ブリコ」で名高い八森村は陸村岩舘村と組合町村で、郡の西北に位し西南は日本海に面す、東北には二ッ森、鳳瀬川泊川の源をなし概して地勢高峻で海岸に急斜してゐる。

世帶と人口　世帶數九九八　人口男二、八一五　女二、七七二　計五、五八七

主要物産　米一一二、三九二圓　繭五二〇圓　清酒六八、〇〇〇圓

官公衙、學校　八森郵便局、茂内郵便局、職業紹介所、八森信用購買利用組合　八森疎常高等小學校　學級數八　兒童數三九八

觀海疎常高等小學校學級數三　兒童數七三

名勝、社寺　八森、岩舘兩村及附近は風光明媚に富み縣觀光協會支部が設置され、觀光宣傳、遊客接待に努めつゝある。

泊濱海水浴場、椿鎭山、本城址、雄島白布の瀧、三千釜の景

村社白瀧神社、松源院(曹)林德寺(眞)龍泉寺(曹)眞行寺(眞)

つばき椿

つばき驛は八森にあり椿鎭山の所在地として知られてゐる。

いはたて　岩館

本縣の西北端に位し、八森村及青森縣に境す。北部には山脈連つて地勢峻しく海岸に迫つて屈曲に富んでゐる。

沿革　文政の頃、勘定奉行松前から鍊の孕みたるものを移し、之を岩舘邊海に散布したるに追々繁殖して嘉永年間、岩舘で初めて鍊を漁し後男鹿の邊でも漁し、爾來大に漁法を改良して當時已に藩内の需用に充て宏益を見るに至つたといふ。

世帶と人口　世帶數二二四　人口男五八八　女六三七　計一、二二五

主要物産　米九、二一二圓　繭一、九八四圓

官公衙、學校、組合　岩舘村役場、岩舘郵便局　岩舘疎常小學校　學級數　五　兒童數二〇六

名勝　大間越　須郷岬

岩館海岸

本縣最北西の海岸景勝地で山本郡岩舘村に占め、日本海全望を眼前に公園設置せられ、奇巖男鹿の雄大さには及ばないが、幾千萬の星霜を重ねて精緻を凝らした巧妙の自然の美觀を感ぜられる。其景奇巖の妙を異にし濤波に碎くる絶景は又本沿岸の特趣である。奥羽本線機織驛乘換五能線岩舘驛下車約二丁

阿仁合線　姉發驛鷹巣　終點阿仁合

かみおほの　上大野

上大野村は大野平の中心に位置し米内澤の北一里半の所にあり、鷹巣盆地の南に連り、地勢略平坦で大野俗をなす原野多く處々に沼澤がある。

世帶と人口　世帶數四六八　人口男一、三六三　女一、四一九　計二、七八二

主要物産　米四四、九四七圓　繭二二七六圓

官公衙、學校　上大野村役場、上大野信用購買販賣利用組合　上杉疎常高等小學校　學級數　一〇　兒童數五〇五

名勝社寺　太平寺(曹)

米内澤町は鰺巣町の南方大阿仁川に沿ひ、川を挾んで兩側は山地となつてゐる

沿革　戊辰の役に米内澤城を乘り取らんとして、南部藩の斥候德太郎、三治郎ほか數十名が勝岡を揭げて石坂附近に出沒したのを監視中の城主嘉成氏の下役に發見されて合戰となり、斥候長德太郎、三治郎の兩名は串ざしとなつて燒き殺されたと傳へられ唄にまで作られて有名である。**町の現在**　この町は大阿仁部、小阿仁部の中心地で、定期市場開設する外阿仁鑛山の鑛石中繼場として樞要の地で鐵道開通前は阿仁自動車會社、二十臺もの車を以て便宜を與へてゐたが、町勢は逐年膨張を來し警察署の新築、阿仁川米内澤橋の完成等只管鐵道開通を待機のうち昭和十一年十月阿仁合線の開通を見るに至つた。しかし阿仁前田迄の開通期間の阿仁鑛山鑛石輸送景氣は全通によつて奪はれ一時淋しさを感じたが、現北林町長の一路更生に對する奮闘は着々功績を擧げ、又阿仁部因作町村聯合して更生に進み農村工場も操業を開始し、米内澤ほか廿四分工場からの出荷は、米内澤に集め、中央市場に輸出され、更に大野岱の縣營開墾などが實現される等、同町の前途には黎明の曙光がさしかけて來た。

世帶と人口　世帶數九三二　人口男二、七六一　女二、八一四　計五、五七五

主要物産　米九九、九五六圓　繭三、四五六圓

官公衙、學校　米内澤町役場、職業紹介所、米内澤警察署、大館區裁判所米内澤出張所

米内澤尋常高等小學校　學級數一七　兒童數八七〇

浦田尋常小學校　同　三　同　一五〇

會社、銀行、組合　羽後銀行米内澤支店、米内澤信用購買利用組合、本城信用購買利用組合

名勝社寺　鞍山紅葉、大蛇鼻、青松、浦田神社、大野岱躑躅、村社米内澤神社、同本城神社、源昌寺(曹)孝普院(日)　淨福寺(曹)寶泉寺(曹)龍淵寺(曹)

よないざは　米内澤

沿革　として、南部藩の斥候德太郎、三治郎ほか數十名が勝岡を揭げて石坂附近に出沒したのを監視中の城主嘉成氏の下役に發見されて合戰となり、斥候長德太郎、三治郎の兩名は串ざしとなつて燒き殺されたと傳へられ唄にまで作られて有名である。**町の現在**　この町は大阿仁部、小阿仁部の中心地で、定期市場開設する外阿仁鑛山の鑛石中繼場として樞要の地で鐵道開通前は阿仁自動車會社、二十臺もの車を以て便宜を與へてゐたが、町勢は逐年膨張を來し警察署の新築、阿仁川米内澤橋の完成等只管鐵道開通を待機のうち昭和十一年十月阿仁合線の開通を見るに至つた。しかし阿仁前田迄の開通期間の阿仁鑛山鑛石輸送景氣は全通によつて奪はれ一時淋しさを感じたが、現北林町長の一路更生に對する奮闘は着々功績を擧げ、又阿仁部因作町村聯合して更生に進み農村工場も操業を開始し、米内澤ほか廿四分工場からの出荷は、米内澤に集め、中央市場に輸出され、更に大野岱の縣營開墾などが實現される等、同町の前途には黎明の曙光がさしかけて來た。

世帶と人口　世帶數九三二　人口男二、七六一　女二、八一四　計五、五七五

主要物産　米九九、九五六圓　繭三、四五六圓

官公衙、學校　米内澤町役場、職業紹介所、米内澤警察署、大館區裁判所米内澤出張所

米内澤尋常高等小學校　學級數一七　兒童數八七〇

浦田尋常小學校　同　三　同　一五〇

會社、銀行、組合　羽後銀行米内澤支店、米内澤信用購買利用組合、本城信用購買利用組合

名勝社寺　鞍山紅葉、大蛇鼻、青松、浦田神社、大野岱躑躅、村社米内澤神社、同本城神社、源昌寺(曹)孝普院(日)　淨福寺(曹)寶泉寺(曹)龍淵寺(曹)

かつらせ　桂瀬

此驛は前田村の内にあり前田村は小作爭議の發甚地として知られた處である。北秋田郡南部の奥地を占め森吉山、柴倉岳、小繋森等南北より迫り地勢峻險で森林が多い、小又川瀧瀨をなして西に向ひ流域に湯ノ澤溫泉がある。阿仁前田に至つて大又川と合し此邊稍々平野開けてゐる。**沿革**　郡邑誌に前田村大川に神成の渡船場あり、古城は鳥海某の居せると天正の初めに加成資清之を亡ぼせり、今八幡宮の社地即是也　小又川

此邊にて阿仁川に遇ふ

小又或は衣田と書く

世帶と人口　世帶數八五九　人口男三、一四五女　二、七六二　計五、九〇七

主要物産　米一九五、一五〇圓　繭九一七圓

官公衙、學校　前田村役場、前田郵便局、前田村信用購買利用組合

前田尋常高等小學校　學級數　一六　兒童數八四二

森吉尋常小學校　同　八　同　二七七

名勝社寺　湯ノ澤溫泉　鄕社森吉神社　福壽寺(曹)

あにまへだ　阿仁前田

こふち　小淵

小淵驛は阿仁合町の一部落中にある。阿仁合町は阿仁鑛山を以て著名である、町は大阿仁川の中流を占め所々に山岳あつて地勢高く山間小都市をなす。

沿革　草　淳城即ち今の能代に水運で遠征を試みたといふ當時のアイヌ首長阿仁なるものゝ名を以て呼ばるゝに至つた**阿仁**は院内と共に秋田に於ける銀鑛を以て夙に世に知られた。

阿仁鑛山　鑛山は德川四代將軍綱吉時代大阪の商人小澤某が鑛脈を發見したのに始まり、その後佐藤信淵の祖父信景の著書「山相秘錄に」よつて啓發さるゝこと頗る多かつたといふ。山は佐竹氏の有より明治初年官營に移つたが、明治十四年古

河家の經營に屬し、大正四年頃は、最も阿仁銅山の全盛時代で年産額二百二十三萬一千七百三十七斤を上げたが漸次産額減少し、昭和二年には九十九萬斤臺に激落同六年には遂に休山の已むなきに至つた。休山後の同町は全く火の消えたやうな寂しさと變つたが、山本町長等の奔走と現鑛山長立石巖夫氏の金鑛脈發見により俄然、鑛山の復活となり、發見後日尚は淺いが、年産額金鑛一萬一千五十七トン、五十萬七千三百餘圓を産出するに至つた。

あに　阿仁合

世帶と人口　世帶數六九五　計四、〇〇八
人口男二、〇五〇　女一、九五八　計四、〇〇八

主要物産　米四三、五九四圓　繭一二五圓
官公衙、學校　阿仁合町役場、大館區裁判所阿仁合出張所、阿仁合營林署、阿仁合郵便局、小澤局　阿仁合藏常高等小學校　學級數一八　兒童數七九一
會社、組合　古河林業部阿仁合出張所、阿仁合信用購買利用組合
名勝社寺　阿仁鑛山、鄕社山神社、善勝寺(眞)善導寺(淨)

あふざだ　扇田

米代川に沿ひ大館町の東南に當り、東は十二所町大瀧温泉に接して居る。

比内の舊邑で、戰國の頃は豪族の據つた所で一名長岡といひ長岡城趾がある。現在のこの町は、鐵道、自動車等交通文化のお蔭は却つて扇田部八ケ町村から生産される凡ゆる物産は、近くの大館町に集められ、捌かれて行く有樣で町の發展は十年一日の如く遲々たるものがある。

花輪線　始發驛大館　終點好摩（秋田縣終點湯瀨）

ひがしおほだて　東大館

此驛は大館町内で、元秋田鐵道の始發驛であつた。

世帶と人口　世帶數九七七　人口男二、四三七　女二、六七二　計五、一〇九

主要物産　米五九、〇四五圓　繭二、七五一圓
官公衙、學校、組合、新聞社
扇田町役場、大館區裁判所扇田出張所、扇田警察署、扇田營林署、扇田郵便局
扇田藏常高等小學校　學級數二二　兒童數一、〇一一
東京、札幌長距離電話中繼所、北鹿朝日新聞社
名勝社寺　長岡城趾、明治戊辰の戰場、鄕社神明社、寂光院(日)壽仙寺(曹)正覺寺(淨)長泉寺(眞)德榮寺(眞)

みなみあふざだ　南扇田

扇田町の南にあり、扇田驛より僅か一粁二分の距離にある。

おほたきおんせん　大瀧温泉

此驛は十二所町の入口にあり、歴史的の温泉で、曾ては佐竹侯が、年々入浴せられた地である。春は驛前から櫻のトンネルを潜ると坦々たる十和田道路に出て、温泉街は米代川の急流に面して、典雅な旅館が建てられ、川向には丘陵性の山がある。春夏秋冬情趣を異にし、遊覽保養の理想的仙境である。奥羽本線大館驛乘換、花輪線で當驛に下車、大館より乘合バス二十五錢貸切二圓五十錢

旅館　花岡旅館、前田館、藤島館、奈良館、瀧澤、鶴藤館、五郎八、大瀧館、、新潟仙波館

じうにしよ　十二所

この町の位置は、北秋田郡の本部を占め東は鹿角郡に境す。西は大瀧温泉で扇田町に接してゐる。

沿革　佐竹家の臣、白川主膳一萬石の領地で、藩政頃は南部領の鹿角に直接してゐる爲、十二所口と稱して兵備を置かれた地である。

廢藩置縣後、町の多くの士族は生活更生の爲、養蠶を營み縣内屈指の養蠶地として知られ、縣是製糸の分工場も出來たが、同社の不況は一時此町を悲境に沈淪せしめたが、町民は奮然蹶起して更生に躍進し、漆樹の奬勵から實行組合の結成、其他下駄工場、地織工場、ジヤケツト工場、タオル工場等異色ある工場が設置せられ活氣が町の隨所に漂ふやうになつた。

世帶と人口　世帶數七七七　人口男二、三九一　女二、三八九　計四、七八〇

主要物産　米一六七、三五二圓　繭一一、八八一圓　馬産九、五〇〇圓

官公衙、學校　十二所町役場、十二所郵便局、十二所信用購買利用組合

成章尋常高等小學校　學級數一七　兒童數九二七

名勝社寺　（アルカリ性鹽類泉）　大瀧スキー場、村社神明社、長興寺（曹）本光寺（眞）

さはじり
澤尻

十二所町の地内にあり、十二所驛より三粁の距離にあり。

をさを はざり
尾去澤

この驛は鹿角郡錦木村にあり、彼の昨年十一月ダムの決潰で全國民を驚かした尾去澤鑛山は、尾去澤村にあり、却つて花輪驛に下車するを便とする。

すへひろ
末廣

此驛は錦木村にあり、錦木村は錦木塚で有名である。村は花輪町と毛馬内町に挾まれて東西に細長き地形をなす。大潟川、小坂川、米代川集り會して水田よく拓け、交通の便亦よく毛馬内盆地の中心に位す。

沿革　松山の東一里に錦木塚あり塚は方四間高さ三尺餘、錦木の傳說は古來幾多の文書にも殘りて頗る有名である。其由來區々として一定しないが兎に角男女の關係にかゝるローマンスである此邊一帶を挾布の里といふ。

世帶と人口　世帶數五三七　人口男一、七九二　女一、七〇一　計三、四九三

主要物産　米一八四、三三八圓　繭五一〇圓

官公衙、學校　錦木村役場、錦木尋常高等小學校　學級數　八　兒童數三六七　末廣尋常高等小學校　同　五　同　二〇六

名勝社寺　錦木塚、村社猿賀神社

けまな
いま
毛馬内

天下の絶景十和田湖の秋田口の關門として、天下の碩學内藤湖南博士の生地として知られてゐる此町は、花輪町と小坂町の略ぼ中間に位し、東は大湯町に連り、北は北秋田郡に境す、町の中央部以西は山地となつて茂谷山聳え、以東は大潟川小坂川集つて平野となる此平地一帶を毛馬内盆地といふ。

沿革　往古の地名を豊岡といひ又狹郡の里といつた。天文年中南部大守二十二代馬頭、政康の五男武田駿負穴佐秀篤三戸より移り三千石を領した、明暦三年櫻庭兵助光英代つて之を領し、寛永九年十二月藩廳の直轄となつた。當時藩代官を置き柴内以北の地を統轄した廢藩置縣の際三戸縣に屬せられ次に江刺縣に轉し明治三年秋田縣の管轄となり扱所を設置し統治したが、十年に至り扱所を廢し各地に事務

所を置いた、二十二年町村制實施に際し瀬田石、岡田、毛馬内を併せて毛馬内町と改めた。

世帯と人口　世帯數八四三　人口男二、四三九　女二、五八三　計五、〇二二

主要物産　米一七八、〇〇八圓　繭二、一三九圓　清酒七三、〇〇〇圓

官公衙、學校　毛馬内町役場、大舘區裁判所毛馬内出張所、花輪營林署巡査部長派出所、毛馬内營林署、穀物檢査所支所　學級數一五　兒童數九八四

毛馬内農商高等小學校

會社、組合　秋田銀行毛馬内支店、毛馬内産業組合、毛馬内町商業會

名勝社寺　大湯温泉、毛馬内權之助居城址、小貫木鑛山、縣社月山神社、常照寺(眞)、誓願寺(淨)仁叟寺(曹)本光院(法)善德寺(淨)

大湯温泉

(鹿角郡大湯町)國立公園十和田湖の咽喉を扼してゐる大湯温泉は本縣最北の温泉であると共に本縣唯一の温泉境である。花輪線毛馬内驛より大湯川を渉り、來滿街道に沿ふて行くこと二里で到着する尙ほ此處より四里二十二町で十和田生出に達する。此間は大舘から延長のバスが運轉されてゐる。來滿峠の道路開通以來は青森縣八戸市との往來漸く頻繁となり旅客の輸送に物産の運搬に異常なる賑ひを呈してゐる。温泉の湯は荒瀨の湯、上の湯、下の湯、河原の湯の四區域に分れ何れも湯量豐富で大湯川の清流に沿ふてゐる。東は來滿山の一帶を望み北は黑森山の雄姿を仰ぎ西南は平原高峰の起伏によつて毛馬内、花輪等に連り山河の形勝脈々として渡打ち、靈韻豐かな別天地である。

交通　花輪線毛馬内下車(秋田、毛馬内間三等片道壹圓九拾六錢所要時間四時間)毛馬内町から大湯まで、自動車三十錢又大舘驛から定期バス八十錢

泉質効能　原泉は四ッあるも何れもアルカリ性弱鹽類泉で湯量豐富、七十三度、消化不良、胃腸病、便秘、肝臟、脾臟、腺病、呼吸器病、婦人病、皮膚病、慢性梅毒等に卓効あり。

旅館　大湯ホテル、千葉旅館、鳥屋旅館、丸井旅館、岩ノ湯倶樂部、仙峯屋、中村、高島、一泊三食付壹圓以上三圓迄(大湯ホテルは茶代廢止)

貸席　岩の湯、丸井、千葉、岡部、かめや、谷地、師天、つるや、大里、中村、高島、馬淵、佐々木等で室料一日五、六十錢。以上は何れも内湯あり其他浴槽を有しないで貸間するのは至る所にある。共設浴場も三ヶ所ある

附近名勝　十和田湖(四里二十町自動車まで一時間)大清水開墾地、(紅山櫻の名勝地)銚子の瀧、中瀧、止瀧、三段瀧、雄瀧、雌瀧、黑森山(眺望地として又スキー場として知らる)大圓寺の杉(一千餘年の老大樹)相馬大作遺跡、鹿角城址(先住民族の遺蹟地)四ノ岱グランド

名物　蔓細工、ロクロ細工、果物、蜜蜂、風俗木彫人形、大湯燒、盆踊(毎七月十六日より)

十和田湖

新日本八景の一、國立公園に指定された吾等がなるは世界的稀有の勝地とまで呼ばるゝに至り、周圍を繞る山林は總て原始林に掩はれ、紺碧の水を湛え太古から斧鉞を入れざる處女美林、清澄なる湖面に映發し靜寂幽邃なる俱に神秘境として山を愛し水に親しむ者の恍惚たる絶景である。毛馬内驛に下車して大湯川の流れに沿ひ左顧右眄風光を掬しつゝ發荷峠に登る。右手に高岳臺左手に紫明亭、全望眼下豈只だ絶叫！發荷を下つて左折湖畔生出俗稱追手に至り湖の南岸より中山、御倉の二牛島北に向ひ突出し小峰起伏相連り幾多の小島奇巖あり、惠比壽、大黑島を初め奇島悉く青松千古の綠を堪え焯礁の雅趣、青嵐自ら渡るの感がある。湖底を探れば又幾多の奇觀あり、水色藍より濃く深淵の碧水狹き絶壁の間に油の如く漂よひ、安山岩の岩肌には老木枝を交へて色取り〳〵の觀を呈し神秘の感正に行人の眼を奪ふ。特に淀綠の紅葉の十和田、最も美觀を極む、又本湖特產の國鱒を釣魚するも觀客をして興を深からしめる。休屋には湖主南祖坊の傳說による十和田神社、鉛山には十和田開發功勞者和井内貞行翁を祀る和井内神社、生出には國鱒の和井内孵化場がある

湖の周圍　六六粁(約十六里)東西一二粁(約三里)海拔　四三九六米

水深　三九九米

湖上遊覽　一周所要時間、二時間乃至六時間（モータ）一人片道八十錢往復一圓二十錢

交通　花輪驛毛馬内驛下車、各列車毎に自動車連絡湖岸生出迄約二六粁（六里半）（一時間五十分）

省營バス　毛馬内――生出　一人　九十錢

乘合自動車　同　一人　一圓廿錢

貸切自動車　同　片道一臺　七　圓

省營バスは毛馬内驛より大湯を經て發荷――生出――休屋――字樽部――子ノ口――奥入瀬――焼山――八田山――青森驛と連絡する。

奥羽本線　大館驛乘換へ

（奥羽本線）毛馬内驛下車（花輪線）大湯温泉を經て生出に至る。

東北本線　古間木乘換（東北本線）三本木

から

驛下車（十和田鐵道）焼山を經て子ノ口に至る。

旅館　十和田會館（生出）　大陽閣、安野館（休屋）東湖館（字樽部）

十和田湖の傳説

往昔鹿角郡の草木の村に久内といふ者の子に八郎太郎と呼ぶ男があつた。身長は七尺に餘り怪力又非凡で人を驚かしてゐたのであるが、常に深山幽谷に入つては樺の皮を剝き、又鳥獸を捕へて町に賣りその生計をたてゝゐたのであつた。或日仲間の者と共に來滿峠、小國山を超え、奥瀬の十和田で剝小屋に泊つて飯炊き番をしてゐた時、水を汲むため桶を手にして谷の流れに下つたのであつた、處が大きい「イハナ」か三尾居るのを見、之を捕へて小屋に持ち歸り三人の夕餉の料にしやうと先づその一尾を串刺にして蒲焼にしたところその香味芬々として鼻をつくので堪へ切れず先づ一尾を食つた處、餘りの美味しさに二人に馳走する積りの分まで食盡して了つた。その時遽かに喉の渴きを覺えたので小屋にあつた水を飲んだが、飲み足らず谷間におりて腹這ひになつて飲み續けたのであつた。不圖水の面に映る我姿を見れば、こはそも如何に身は蛇身と化し、谷を傾けて飲めども其渴きは依然として止まらず、山を刺き岩を開き水を堰き止めて一大湖を作つて心行く迄飲むべく湖中に棲む身となつたのである。かくして今の十和田湖が出來たと傳へられる。其後清和天皇の貞觀十三年綾小路關白藤原是頼は其子行鄕夫婦と三人、讒者の毒舌に觸れて流浪の身となり三戸郡斗賀村權現の別當廉原式部といふ者の所に身を寄せてゐたのであつたが、熊野神社に祈願して一子を擧げ熊之進と名つけ寵愛したのであつた。此熊之進は永福寺の月巒和尚の門に入つて南祖の坊と改めて諸國行脚の途に上つた、そして紀州の熊野神社に參詣すること三十三回、千歲萬歲迄も死を免れしめ給へと大願望をかけたのであつた。一夜熊野權現の神夢に「此の山の麓に草鞋有るべしそれを履きて諸國を巡り草鞋の切れる處を汝の永久の住家とすべし、ゆめ疑ふ勿れ」と果して山を下れば草鞋があつた而も金の草鞋であつたが、南祖坊は之を履いて諸國を巡錫し十和田に來たら遂にその緒がプツツリ切れたので、此地を永住の地とせんと身を龍身に代へて飛び込んだので、湖の主八郎太郎は愕き且つ憤り互に銷を削つて戰ふうちに、南祖坊が之まで讀誦した經の文字が悉く口となつて咬みつくので、八郎太郎も負けてゐず曾つて人の世にあつた時、身につけた裳の編目が口となつて相讓らず戰を交へ千變萬化の秘術を盡して七日七夜の戰鬪をつゞけたが遂に八郎太郎は力竭きて敗走したのである。其途次毛馬内山に立寄つて普門山を背負ひ毛馬内富士米代川を堰き止めて鹿角全土を湖水たらしめて我が住む潟を作らうとしたが鹿角四十三ケ所の鎮守稻荷、大湯、關神等近所の宮に大評定を開いた結果、各方面から石を投げつける等一大修羅の巷と化したが遂に郡外に追ひ出されて鹿角は兎に角安全なるを得たのであるが、今毛馬内の町端れに散在する石塊は當時投げられた石だと傳へられてゐる。八郎太郎は詮方なく轟て男鹿村に走つて現在の八郎潟を作り永住し田澤湖の辰子と想思の仲となり、鴛鴦の契り淺かに南祖坊を渎ませてゐるといふ。この傳説は秋田の三湖に關係した神話として傳へられてゐる。八郎太郎は秋の彼岸から翌年の春の彼岸まで、田澤湖の辰子姫と同棲してゐるといふ。その爲に田澤湖は寒中も水が凍ることはないが、八郎湖は寒中は主の不在の爲め毎年水が凍つて、八郎太郎が彼岸に歸れば、堅い氷も一夜で解けるといひ傳へられてゐる。

しばひら　柴平

此村は東に中嶽、四角嶽外山鑛山によつて岩手縣に境し、西には米代川南北に流れ毛馬内盆地に入り耕地拓け、鹿角街道及花輪線は米代川に沿ふて村の西端を通り花輪町に至る

世帶と人口　世帶數六七二　人口男二、三六一　女二、三八三　計四、七四四

主要物産　米二三八、二五〇圓　一八四圓　栗一六、八〇〇圓　牛一二、四〇〇圓　馬四四〇〇〇圓

官公衙、學校、團體　柴平村役場、柴平信用購買利用組合　柴内尋常高等小學校　學級數　一一　兒童數五五三　平元尋常高等小學校　同　七　同　四〇〇

社寺　村社八幡神社、同神明社、同八幡神社、同稲荷神社　圓福寺(曹)萬松寺(曹)隆昌寺(曹)

はなわ　花輪（うちくり）

花輪町は本縣を代表する政界の巨人川村竹治氏の出生地である、位置は鹿角郡の中央部を東南より西北にかけて細長く占むる町、東は皮投嶽があつて岩手縣に界し、西は尾去澤鑛山に接して其間を米代川貫流してゐる。

沿革　藩政の頃は盛岡藩に屬し、毛馬内を合せて二萬石の領地で代官所があつた。

町の現況　郡役所こそ廢止となつたがすぐ近くの尾去澤鑛山あり湯瀧温泉の發展と省線花輪線の開通によつて、素晴らしい躍進をなし、昭和三年には、八萬金を投じて實科高女を縣立高女に昇格同四年に職業紹介所を設け、同六年には花輪線の全通式を擧行、更に七千餘坪の大グランドを作り、同七年には、公益質屋、圖書館、幼稚園の設置を見、昭和十年には多年懸案であつた家畜市場の統一も實現したが近年打續いた冷水害因作に對しては、養豚、藥草品等の副業を以て對抗し好成績を擧げてゐる。

世帶と人口　世帶數一、四九一　人口男四、五六九　女四、六五四　計九、二二三

主要物産　米三〇〇、〇四五圓　繭一、六四七圓

官公衙、學校　花輪町役場、大館區裁判所出張所、花輪警察署、鹿角郡財産出張所、土木事務所、職業紹介所　縣立花輪高等女學校　學級數三〇　兒童數一、八一〇　花輪尋常高等小學校

會社、團體、新聞社　秋田銀行花輪支店、第四十八銀行花輪支店、花輪販賣購買利用組合、鹿角新報

名勝、社寺　南部吉兵衛居城址

尾去澤鑛山　花輪町より一里三町で縣道に通ず。**沿革**　小坂、院内阿仁と共に縣下に於ける鑛山で其採掘は遠く和銅年間にあるが應長年間より專ら採掘し、明治二十二年以後三菱の經營に歸した。鑛區面積百十九萬坪に及び本邦著名の鑛山であるが昭和十一年十一月二十日澤更鑛滓ダム決潰して多數の生靈を奪つたが、全國の同情と三菱の努力により恒久對策完成し復興を見つゝある。

醫療機關

全科	大里周藏	電話	一四
全科	山口幸吉	同	一〇九
耳鼻咽喉科	木村義平	同	七四
内科	井靜雄		
外科	川原達三		
内科	松本健爾		
内科	紅谷健治		

あづざは　小豆澤

此驛は宮川村にあり村は鹿角郡の南端で、東南は岩手縣二戸郡に界し西及南は夫々曙村及田澤村に接す。土地は高くして西北に低く火山脈通り處々に温泉湧出す、原野及山林多くして熊澤川南より北に貫流す。

沿革 南部藩花輪代官所の支配で大里、小豆澤、湯瀬長嶺、谷内、川部の各六ケ村であつたのを明治九年大里、小豆澤、湯瀬三村を以て宮麓村とし、長嶺、谷内、川部の三村を以て長谷川村とす。明治二十二年町村制實施に際し兩村を合して宮川村とす。谷内川上流の蛇谷にあつて山中溫泉多く、能澤の異瀧等其一たり、また小豆澤に五宮權現、一に大日堂といふのがある。舊傳天皇の御願で建立せりといふ、由緒は此地田山といふに靖鈴長者あり、其娘京に上つて天皇の宮妃となり皇子を生みしも故あつて母子故郷に歸り五百反の地を賜はる、皇子遷して後之を大日と祭り、妃の紅顏を模して面を作り禮拜す。坊家六人公家の衣冠で祭禮に仕へ、其式他所に異なれりと傳へらる。

世帶及人口 世帶數七三一　人口男二、四九二　女二、三九五　計四、八八七

主要物産 米二三一、六四八圓　繭二、六六二圓

官衙、學校 宮川村役場、宮川郵便局、長谷川郵便局、宮川圖書館、宮川信用購買販賣利用組合

名勝、社寺、湯瀬溫泉（硫黃泉）蒸の湯溫泉（硫黃泉）大日堂、姫子松、傘松、八幡平、曾利瀧、浦志內瀧、鬼城、七龍、後生掛、劍ケ峰、地藏岩、品蟲、天狗橋、細瀧、淺ケ卷觀音

八幡平 奥羽アルプスの一角、海拔一、六六七米の廣漠たる高原で二大沼がある。其景觀雄大で總て原始林一里餘、岩手縣秋田縣の縣境に横はり背森トド松の自然林の美、高山植物の群生「クマゲラ」の棲育一入である。頂上數百歩の豪地狀此處にある觀晴臺に登り北東岩手山を越えて太平洋の大海原を望み西北岩木山を經て、渺茫日本海に對し八甲田山の後に津輕海峽に仙波を眺覽する雄大なる展望一望にあり、八幡沼、源太森を始め奇景に富む、附近一帶は溫泉鄕で登山者の旅情の勞を浴し得る好適地である。

登山 探勝 小豆澤驛か湯瀬溫泉から坂比平を經て一合目まで自動車の便がある。蒸湯迄一里、八幡平まで一里半、鹿湯まで三里半、玉川迄五里、田澤迄五里の里程である。奥羽本線大館乘換花輪線小豆澤驛下車

村社大日靈貴神社、同天照皇御祖神社、吉祥院（曹）延命寺（曹）大德寺（曹）

ゆ

湯 宮川村にあり東北第一を誇る湯瀬溫泉の所在地として常に殷賑を極める。

ぜ

瀬 **湯瀬溫泉**（鹿角郡宮川村湯瀬）東北本線と奥羽本線を繞ぐ花輪線の開通により湯瀬溫泉は急速に發展を來し一躍日本の湯瀬溫泉となつた。此急激なる發展は交通に惠まれたこと勿論であるか更にその設備の宜しきと附近の溪谷美に恢つ處か多い、同溫泉は花輪線の丁度中央に位し大館へも好摩へも汽車で二時間で行ける。又花輪町からは岩手縣へ通ずる縣道を米代川に沿ふて溯ること二里二十町途中峽谷には奇石亂立し、地藏岩、劍ケ岩、姫小松、岩峯松等の奇景多く、抱返り溪谷に比しても劣らぬ溪谷美である。而して春は櫻に、カタクリ、一輪草などの花か一時に咲き亂れ、鶯の囀る聲や晩春岩間の躑躅、懸崖の藤、又蕨狩り等興深く、夏は青葉を渡る薰風に送られる鶯の聲、米代川の淸流に河鹿のなく聲の美さは著さを知らせぬ。更に秋の滿山の紅葉は東北隨一と稱され年中過じて最も浴客の多い時である。又山野への鳥狩も面白く晩秋の耳の味は此處獨特の味覺である。冬はスキーに乘つて附近の山々を征伏しては炉燵酒に寒さを忘れしめ四季とり〳〵の趣向がある。旅館は何れも溪谷にのぞみ、時に鄙びた「湯瀬村コ」の民踊が流れるかと思へば又都人の三味に合せて唄ふモダン味も洩れて來る遊覽慰藉を兼ねた溫泉境である。

交通 奥羽本線大館驛又は東北本線好摩驛から花輪線に乘換へ湯瀬驛に下車（秋田湯瀬間三等片道二圓二十錢所要時間、大館より二時間）又大館驛から定期バスがあり八十錢

ジャパンツーリスト ビューロー 加盟
茶代拜辭
秋田縣湯瀬溫泉
湯瀬ホテル
電話（花輪）二七番

泉質効能　アルカリ性硫黄泉、六十四度、皮膚病、リウマチス、胃腸病、神經痛、貧血症、慢性脈病等に卓効がある。

旅館　**湯瀬**ホテル　姫の湯、上の湯、菊の湯、中の湯、田中屋、高見湯、鹿ノ湯、一泊三食付一圓五十錢以上五圓迄（湯瀬ホテル、姫の湯は代表的旅館）日炊三十錢乃至五十錢

料理屋　花本、初音、鶴家、吉野屋、高見、竹家、鶴屋、松家、ふた葉、松風亭（イロハ順）

施設　公園、テニスコート、撞球場、温泉プール（千人風呂）大弓場、ブランコ、辷り臺、ピンポン

【附近名勝】、　米代川に沿ふた一里の溪谷には露出した巨岩の峻立したのや斷崖絶壁の物凄さや、紺碧の深淵などが數多點在してゐる。内でも長者の前、多々良大瀧、姫小松、七かまど、傘松、餞渡瀧、細瀧、獅子淵、天狗橋、吊し懸、地藏岩及小豆澤の大日堂、吉祥院と三大老樹等は特に有名である。

十和田——湯瀬温泉から自動車で遊覽し東北本線一の連絡も出來る。汽車で毛馬内に下車、それより自動車で坂比平（四里）に行きここから徒歩又は乘馬で、お晝頃までには、八幡平の頂上に至ることが出來る。

八幡平——湯瀬温泉から自動車で坂比平（四里）に行きここから徒歩又は乘馬で、お晝頃までには、八幡平の頂上に至ることが出來る。併しそれでは貧の八幡平を味ふことが出來ぬから日返りの登山も出來る。併しそれでは貧の八幡平を味ふことが出來ぬから先づ蒸湯、藤七、後生掛か何れかの温泉に一泊するか又は少し遠いが燒山を經て鹿湯温泉まで行を延して一泊するのも得策である。【名物】郷土人形、紫根染、茜染、南部鐵瓶、羊羹、あまちこ、清細工

小坂鐵道線　始發驛大館　終點小坂

小坂鐵道線の始發驛大館と終點小坂との中間四驛は全部長木村にある。一村四驛あるは稀である。長木村は大館町の東に連り郡の東北部を占む、北に裏塚森、東つて大館盆地に至る、平地少くして地勢險しい。

岱野

小雪澤

殷山、黒森鼎立して長木川を發し南より西に向

新澤

沿革　橋　溪南の東遊記に秋田藩の一節がある曰く「秋田城下より十里斗り距りて長木澤といふ所ありて其澤に生ずる蕨長さ六、七尺に及び太さ平皿に滿る程なり」と長木川は津輕の界嶺に出て南に下り、赤澤に至り西に轉じ大館市街の東を流れて下内川に入る。長さ八里、山谷の林木頗る美なり」

世帯數人口　世帯數五三三　人口男一、八七八　女一、五七一　計三、四四九

茂内

主要物産　米一一四、七七一圓、木材、藤

官公衙、學校　長木村役場、巡査駐在所　長木尋常高等小學校　學級數一二　兒童數六三四

名勝社寺　澤利氏城址、村社雪澤神社、同諏訪神社

こさか

こ　小坂

小坂鑛山によつて其名天下に知られた、此地は四周山嶽を以て包まれた邊隙の地だが、鑛山の爲め衛衛をなした地故、日用百般の物資備らざるなく、電車、電燈水道亦設けられて、山間別墺の一都會をなしてゐる。本山の始掘は文久元年であつたが、其後幾多の變遷を經て、明治十一年、大阪藤田一家の經營に移り當時未だ土鑛、黒鑛を産する斗りで又もや廢坑の危機に瀕したが、後に銅鑛、鐵銅鑛、硅鑛等を發見するに至り、益々精錬法を改進して、著々業務を擴張したので、今や銅山としては足尾、別子を凌ぐに至つた。本山の東南四里半を距つる大湯川の上流にある銑子瀧及止り瀧の下に發電所を設き水力電氣を利用して諸作業の原動力としてゐる。産出した金銀は大阪造幣局へ貢納鑄造の原料として輸送し、銅は海外輸出を主としてゐる。製錬所には六座の大熔爐を置き自熔法によつて晝夜作業を續行する、附帯事業として煉瓦製造、製材、精米、諸工作に從事する。【地勢】鹿角郡の西北端で青森縣に界し、東西北三方は山嶽並び立つて山林地となる、此間小坂川源を發し、南に向つて平野拓けてゐる。鑛山は町の稍々東南部にあつて地質は火山岩及

成層岩である。

世帶と人口　世帶數二、七二六　人口男七、三五〇　女七、六六二　計一五、〇一二

主要物産　米一三五、九七三圓　酒二一、〇〇〇圓　金七二〇、一〇四圓　銀六三五、七七二圓　銅六五八五、七八八圓

官公衙、學校　小坂町役場、小坂元山郵便局、小坂郵便局、職業紹介所

小坂尋常高等小學校　學級數三一　兒童數一、九〇五

小坂本山誠常高等小學校　學級數一四　兒童數　九〇七

小坂川上誠常高等小學校　同　五　同　二四一

町立小坂實科高等小學校

會社、銀行、組合　秋田銀行小坂支店、小坂鑛山購買組合、小坂町信用購買組合、

名勝社寺　小坂鑛山、噴泉塔、（天然記念物指定地質鑛物）村社出羽神社、鎮得寺（曹）

羽越本線　始發驛秋田　終驛新津　秋田縣終點小砂川

うど　牛島町は河邊郡の首邑として郡制廢止前迄は、郡役所があり郡制の中心であつた、同町は河を距て、直ぐ秋田市に接續し郡制廢止前と雖、秋田市

まじしう　島　内と同樣の觀にあつた、大正十三年四月一日秋田市に編入した。

あらや　新屋

現代では銘醸地として、黄金井、勝平等の日本的銘酒を出して縣南湯澤と對抗する町、相撲新海を生んで、相撲の秋田を紹介してくれた町、國立倉庫問題では、十倍に餘る秋田市を取つて投げた躍進の町も、舊藩時代は、一面廣漠たる砂地で草木生せず暴風土砂を飛ばして、人家を埋め、歴代藩主その防止に腐心した、國定教科書に掲載されてゐる栗田定之亟は苦心慘憺、防砂林を大成してこゝ新屋をして安住の地たらしめたので、此町では追慕敬慕の爲、昭和十年栗田神社が新築された。新屋町の今日あるは、外廻を安全に建設した栗田大人の力とその内廻の充實の爲に勸農殖産、民風刷新に一生を捧げ盡した老農森川源三郎翁の功績は偉大なるものである。森川翁は新屋町の爲のみならず、全國を行脚して勤儉を勸め農法を說き、石川理紀之助氏に次ぐ精農として敬仰された、こうした偉人を生んだ町だけ、活氣横溢、各種の施設着々として實現され住みよい新屋が實現されつゝある。

世帶と人口　世帶數九八九　人口男二、四九〇　女二、七九二　計五、二八二

主要物産　米五五、八一五圓　藁工品二〇、〇〇〇圓　蔬菜

名産銘酒

官公衙、學校　新屋町役場、國立倉庫、秋田區裁判所出張所、巡査部長派出所、内務省新屋機械工場、公益質屋、職業紹介所、新屋郵便局

優等賞受領

勝平

秋田縣新屋町
醸造元
渡邊幸四郎
電話一〇番

日新誠常高等小學校　學級數二〇　兒童數一、〇八二

會社、銀行、組合

秋田銀行新屋支店、新屋信用購買組合

銘酒　勝平　芳醇　勝平は地元新屋を代表する斗りでなく、東京、北海道、新潟等の縣外に於ても、自熱的歡迎を受けてゐるが、抑も同酒の今日あるは先々代幸四郎氏が明治廿二年創業以來、その釀造家としての天禀と努力とが嶄然業界に頭角を表はし全國清酒品評會に於ける優位入選は枚擧に遑なく、こうした堅實な基礎を繼承した先代から新進氣鋭の現代幸四郎氏に至り造石數急激に增加するに至つた。即ち最新の釀造知識と設備の改善により酒質は朝に精練され取引先及愛飲家の滿足を圖つてゐる爲、販路は益々擴張されて容易に需用を充し得ぬ盛況にある。殊に縣内では小坂鑛山初め日石會社其他會社、工場等の大量取引の得意先を持ち、この外、一般では秋田市を中心に縣下到る所に特約店を持ち好評を博してゐる。年少の當主幸四郎氏を補佐する渡邊哲太郎氏が犧牲的努力が預つて力あり同家の將來の發展は期して俟つべきものがある。同家では、毎年舊年末に際

し、酒造米から出る「米の粉」一俵宛を送り正月の餅用に施與する篤志家として感謝されてゐる。

銘酒 黄金井　酒の品質と人氣を決定する清酒品評會の迎覇者黄金井は、流石に好評全國に嘖々たるものがある。

創業は當代高橋清兵衛氏が明治四十四年で、此短日月に於ける躍進振りは驚嘆に値するものがある。即ち全縣清酒品評會に於て、優等賞十五回入賞、東北六縣品評會に最高優等賞連續三回入選に入り、昭和六年名譽賞獲得、全國清酒品評會では優等賞二回で名譽賞候補が期待されてゐる。言ふ迄もなく酒質の醇良が愛飲家の熱讃を博し、逐年增石の盛況にあり、工場の設備は正に模範として推奨に値するものがある。秋田市土崎を中心に、旅館、青森、仙臺方面に鳳雲を擴け、最近販路擴張の爲、秋田市河周商店と協調し別に「鳳星」を河周を發賣元として賣出し好評を博してゐる。

名所舊蹟、社寺

新屋海水浴場、全縣綴一と稱されてゐる。勝平山、榎の老木、柴の渡、松壽園、寫砲臺跡、柳の湯、縣社日吉神社、栗田神社、忠專寺(餓)大龍寺(曹)實相寺(日)

名譽賞受領
銘酒 黄金井　秋田市外新屋町　醸造元 高清本店　電話六番

精農 森川源三郎翁　翁は興農、教化の權化として如何に偉大であつたか昭和八年八月五日町民によつて建立された頌德碑除幕式に於ける武部知事の祝辭によつても知ることが出來る。

地方振興の先覺者森川源三郎翁の碑成り茲に除幕の式典を擧ぐるに際し所感を陳へ且つ翁の遺德を追慕する機會を得ましたことは時局柄最も意義あると共に欣幸この上なきところであります。

翁は明治大正時代に於ける地方振興に貢獻せられた偉大なる經世家であり、不言實行刻苦勉勵一生涯を自力更生に範を示された世にも得難き人格者でありました。

非凡の資を以て和漢の學を修め武道の奥義に達して民風の作興に農事の研究に殖産興業の實を揚げ備荒貯蓄の組を作り特に郵便貯金制の公布せらるゝや率先これが奬勵に努め本縣はじめての功勞者として表彰されました。

宜なる哉其の功績天聽に達しまして明治三十七年勅定の綠綬褒章を御下賜になられました次第であります。

還曆の年を迎ふるや一切の世事を離れて最後の奉仕を念じ世に稀なる田園的植林公園を二見山に創設し自力以て人手を煩らず躬ら鍬鎌を採り二十個年にして山地を開拓すること二十餘町植樹數六萬五十餘本或は感謝の塚を盛り或は觀賞の亭を設け今や鬱蒼たる森林は自力更生の象徴ともなり善美を極めた公園ともなりました。雨の夕風の旦翁の精神理想を永久に物語ることであります。

今や時局は非常なる國難に際會し內外共に多事多端でありますがこれが解決進出は一に國本から進れる自力更生の意氣に俟たねばなりません。特に翁の如き偉人の業蹟及精神を地下に喚ひ起して奮起激勵を促すは世道人心を稗益すること大なると共に難局打開の最善なる國民的態度と申さねばなりません

一言祝辭と致します。

昭和八年五月七日

秋田縣知事正五位勲四等　武部六藏

しもはま
下濱

下濱は海水浴場として知られてゐる。寧ろ海水浴で、もつてゐるといふ位理想的な浴場を控へてゐる。秋田から近いので毎年頗る雜踏を見せ、こゝの青年團は縣命に善旋に努めてゐる。秋田から三十分で驛から下りると直ぐ飛込める程近くである。

世帶と人口　世帶數五二二　人口男一、五〇一　女一、五七五　計三、〇七六

官公衙、學校　下濱村役場、巡査駐在所、下濱郵便局、下濱尋常高等小學校　學級數一二　兒童數六五〇

みちがは

はがちみ 道川

下濱と共に海水浴場に賑はふ處である、海濱に小川が流れてゐて浴後の清拭にも便利である。下濱に比し設備が少し遲れてゐる觀もあるが、道川に繁昌を奮はれてゐる觀もあるか、空氣清澄、氣候もよいので縣立の療養所まで設立された、秋田から四十分、驛から海水浴場迄二丁

世帯と人口 世帯數五六五　人口男一、六一六　女一、六六一　計三、二七七

官公衙、學校 道川村役場、巡査駐所、道川郵便局　道川尋常高等小學校　學級數一五　兒童數六四三

うどかめだ 田龜

龜田町は往昔より岩城家二萬石の首都として本莊藩と並び稱せられ繁華を極めた小邑であつたが地勢上の不便のため廢藩後は漸次衰頽を來たして居るのは深く遺憾とされ、識者間に其復興振作を研討されてゐる。この驛は深轉系統の關係で午前二時五十分下り列車が停車する。

沿革 慶長九年岩城修理太夫吉隆が信州川中島から遷封され二萬石を賜つた、吉隆の父貞隆は佐竹義重の三男で佐竹義宣の後を襲ひ義隆と改む、かくて佐竹義重の四男宣隆の子重隆、吉隆の後を襲ふて岩城家を嗣ぐ

世帯と人口 世帯數六六四　人口男一八六二　女一、九四〇　計三八〇二

特産品 干饂飩、ぜんまい織、竹細工、芭蕉煎餅

官公衙、學校 町役場、郵便局、警部補派出所、登記所、種馬所　龜田尋常高等小學校　學級數一七　兒童數八〇〇

神社、佛閣 天鷲神社、村社熊野神社、月山神社、金峰神社、八幡神社社、神明社、白山神社、禪勝山龍門寺曹洞禪宗にして岩城家の菩提寺である。

太平寺、西方寺、龍王寺、龍安寺、正念寺、西圓寺、長照寺、長應寺、妙慶寺、神宮寺、

會社、銀行、組合

羽後鶴田織物株式會社

保證責任龜田信用販賣購買利用組合本組合は大正十年の創立にかゝり、昭和十一年六月現在で、加入組合員四五九名、其出資額 貳萬七千六拾圓、積立金 壹萬五百參拾五圓、貯金 拾八萬四千四百拾四圓、貸付金拾貳萬四千參百七拾圓、預ケ金 七萬參千九百六拾壹圓となつてゐるが、本町唯一の金融動脈だけに信用部の活躍は目覺しいものがある。

銘酒『清正』と『天鷲』『加藤酒屋でつくる清正』――

「凡そこれ位わかり易しい標本もメッタにあるまい、連綿百六十年、加藤三藏氏の醸造にかゝるが同家ではこの外に舊城趾につなんだ『天鷲』といふ酒もかもしてゐる。【販路】は龜田藩主の采配下に確固たる需用あつたが最近は海岸つたへに縣市へ進擊して素晴しい成績をあげてゐる。

史蹟、名勝

赤穗津城址 高城山上にあり由利十二頭の一人なる赤穗津孫九郎の居城であつた。

龜田城趾 天鷲城とも稱し高城山麓にあり、戊辰の役に兵燹にかゝり今は桑田榮圃と變つてゐる。

不動瀧 字瀧俣にあり高さ六七十尺

醫院 渡部醫院　佐々木醫院

旅館 丸半旅館

うどいはや 岩谷

此村には赤田の大佛といふ大佛がある、北内越村字赤田正法山長谷寺壇内にあり。開祖是山憚師自作の二丈六尺十一面觀音の立像を安置してゐる。驛より東南二粁二、もう一つの名所は桶正家の墓である。

かめだ　うどいはや

世帯と人口　世帯數五五一　人口男一六〇八　女一六四八　計三二五六

神湯瀧鑛泉　冷泉として本縣唯一を誇る神湯瀧鑛泉は俗に瀧の湯とも稱し羽越線岩谷驛より東一七里半、中五里は自動車の便があり二里半は徒歩か馬による。尚此處から採集される湯華は廣く關西方面まで移出され大にその効能を讃へられてゐる。**【泉質効能】**アルカリ性鹽類泉、痛風、打身、切疵、痲氣、脚氣、リウマチス、消化不良、胃腸病

官公衙、學校　岩谷村役場、巡査駐在所、岩谷郵便局
岩谷縣常高等小學校　學級數一二　兒童數五九八

うやじんほ本莊

應仁元年(紀元二一二七年)將軍足利義政、關東武士のうちから有爲のもの十二名を選拔して當由利郡に分封したが其一人なる子吉氏がわが本莊を中心として領有して居つた。慶長七年全郡が最上氏の所領となり、同十五年に其家臣楯岡豐前守滿茂赤蘭津(現龜田町)より移り來つてこの地に城を築くに及び其藩治となつたが元和八年最上氏領土を沒收され、翌九年八月六鄕兵庫頭政乘が常陸國府中より轉封となり二萬石を賜つた。爾來繼承十一代政鑑に及び明治四年の廢藩置縣に至るまで二百七十五年の間その治下にあつたが、廢藩と共に本莊縣となり次で秋田縣に併合された。明治十三年由利郡の行政區域に編入となり、同二十二年四月町村制施行と共に石脇村(舊龜田領)を併合して本莊町と稱するに至つた。

世帯と人口　世帯數二、八九四　人口男六、八五六　女七、六二〇　計一四四七六

驛勢圏内の特産品
清酒二〇〇〇石、諸越一〇〇〇貫、苺三〇〇〇貫、メロン一五〇〇〇貫

官公衙
本莊町役場　美倉町　區裁判所　警察署　表尾崎町　稅務署　肴町　營林署　裏尾崎町　同　同町　土木事務所　中町　郵便局　上横町　石脇局　石脇上町　驛前通　發物檢査支所　中町　羽後本莊驛　出戸町　本莊保線區　同　町立圖書館　同　美倉町　郡農會　同　郡木炭同業組合　同　郡種牛馬區　中町　郡産馬衛生組合　同　執達吏役場　同

本莊の學校
縣立本莊中學校
縣立本莊高等女學校
町立青年學校
町立女子青年學校
本莊縣常高等小學校　學級數二二　兒童數一、三二五
本莊女子縣常小學校　同　二二　同　一、二八六
私立本莊幼稚園
私立二葉幼稚園

職業紹介所　町役場に事務所を置く。昭和三年の創立以來めまぐるしい活躍をなし利用者に感謝されてゐるが、昭和十年一ヶ年の統計を見ても、求人數男一、三八五名　女二二九名　計一、六一四名、求職に於て男一、四四七名、女二一八名　計一、六六五名そして就職したものは男一三五名　女二一八名の　計三五三名である。

日展勞働者が延べて三萬一千百五十九名が紹介されて働いてゐる。

尙は事務主任の佐藤憲藏氏は欽意海外雄飛を慫慂され其紹介に依つて一〇世帶七二人の家族がブラジルの天地に狷介不屈の努力を以て運命を拓いてゐる。

公益質屋

本莊町の公益質屋は昭和九年一月設立されたが、非常なる躍進振りで現在の倉庫が狹隘を告げ更に增築する事になつてゐる。縣下數十ケ所のうちには開店休業の向もかなりあるが其成績は秋田市に次ぎ郡部では首位である。

昭和十年の成績を見るに貸付の延人員は一萬二千二百三十五人、點數四萬一千三百七十一品、全額總計が三萬六千五百九十二圓二十錢で、還償の方では人員延べ一萬三百八十五名、點數三萬五千四百四十二品、金額三萬一千五百四十四圓三十三錢で利子一千四百五十八圓二十七錢である。

而して之れが利用人員は一千六百名に上り昭和十一年は總てが三割以上の增加を見る模樣である。主任太平林之助氏と經驗に富む富田氏がよく機能を發揮し其使命に努めてゐる。

商工會

事務所を町役場内に置く本會は大正六年創立にかゝり、三百名の會員を擁してゐる。事業として第一に指を屈すべきは觀櫻會の主催である。

溫暖の由利海岸は餘程花が早く咲くが、殊に當町鶴舞城趾の櫻は名を知られ本縣の花は本莊がトップを切るのである。商工會は鐵道當局とタイアップして多大の經費をかけて之れが紹介宣傳に努め遠近に呼びかけるので會期中は全く綺羅のルッポとなるのであるから、町内の各業者の亨ける慶福は大なるもので永い冬眠から覺めた町民はその年の景氣は觀櫻會からとの待望も尤である。

尙本會は盆暮に加入會員の賣出しを主催して其振興發展を圖かり、或は優良店員の表彰を行ふなど、萬事が積極的な活動をなして躍進途上にある本町のため重要なる一役を買つてゐるが、毎秋、全郡の物産展覽即賣會をも開いてゐる。會長は老舗江幡呉服店主江幡嘉太郎氏、副會長には同じく代表的洋品雜貨店主伊藤久吾氏と屈指の資産家たる辻彦五郎氏である。

本莊の新聞

本莊時報（月六回）　鳥海新報（月六回）
由利新聞（月六回）　秋田大衆新聞（月二回）
人生往來（月三回）

銀行、會社、組合

銀行　秋田銀行本莊支店　第四十八銀行本莊支店
羽後銀行本莊支店　兩羽銀行本莊支店

無盡

由利殖産無盡株式會社
横手共益無盡會社支店

會社

株式會社本莊倉庫

株式會社本莊倉庫　本莊町看町二五番地にある。同社の前身たる本莊倉庫株式會社は明治三十三年の創立にかゝり本町倉庫業の鼻祖である。現在の事務所と共に文政年間に建てられた三棟の倉庫で營業してゐたが星霜幾春秋のうちには所有者や經營の變化があつたが、安田銀行から財産の全部を讓受け資本金拾萬圓となして磐石の基礎をつくり、驛前と横荘西線前郷驛に支庫を設立した。大正十五年に政府米保管倉庫に指定され次で酒田米穀取引精算受渡倉庫に認定される等躍進又躍進の一路を辿つて現在では倉庫四拾六棟を擁し一ケ年貳拾萬俵の本莊米を取扱ふの盛況にある。

社長龍澤潛、重役、池田力三郎、柏崎平吉、小田勘兵衛、牧野芳樹、小島定藏、辻彦五郎、田口雄二郎

酒銘『由利正宗』　名は體を顯はすとはこの事か、創立以來三十年位よりならないそうだが、今や其名聲は遠近に轟き其味色深く賞されて品評會審査會に出陳さへすれば必ず受賞しない事がない。齋藤彌太郎氏の吟醸にかゝり牢固たる地盤を擁し振進一路にある。

製材組合　『本莊の木材はわしが國さにあつて一城の覇を唱ふるもの』すべもきのがない。

そのかみ、古雪港の華かなりし頃に幾百千の船はこの木材の積出に輻湊して居つた、本莊は古雪で持つて居り其古雪の繁華はこの木材で

持つて居たといふかたちであつたのだ。

否た其思出話をするまでもなく、本莊驛に尋ねたら木材は依然移出の首頭を承つて年約一萬一千噸に達するそうだ。汪洋たる子吉川を挾んで散在する各製材所附近に山積される木材や筏に組れつゝ河岸に繫がれてゐる材木を見るとなる程と頷かれる。朝夕夕な一齊に鳴し出す汽笛は明朗本莊を表徴し、その高き煙突からは町産業の先驅として萬丈の氣を吐いてゐる。本町製材業者の手で取扱はれる木材は大凡二十萬石で、製品の五割は東京方面、三割は北陸地方で殘り二割は縣内の需用である、總額五十萬圓乃至六十萬圓の仕事が關係者を潤してゐる。

もと木材協會といふのがあつたが昭和十年晩歲、製材業者のみが一丸となつて本組合を組織され、町議吉田隆之助氏が其世話役をかつてゐる。

組合員は毎月巨額の出金をなし積立てゝゐるか、聽てには原木の共同購入か出荷統制などに資するそうだ。

現在の組合員は左の諸氏で、いづれも腕一本で今日の事業を造りあげた仁達たけに活氣旺溢、悉く第一戰に立つて健闘をつゞけてゐるのも頼もしい。

吉田製材所	電一一九	鳴海製材所	電二一二
共榮製材所	一六〇	佐木由材木店	二三〇
代表者工藤善吉	一六一	工藤製材所	五八
佐々助製材所	一六四	齋藤製材所	
佐藤製材所		工隆材木店	二一〇
佐藤松次郎	出呼 五八	吉田材木店	二一七
伊藤製材所	二六五		
正田材木店	一六四		
佐藤材木店	二三		

鳴海製材所

情緒豊かなる古雪港に地利を占め盛業中の同製材所は、機械完備し一〇〇馬力の電力を以て年百卅萬才内外の製材をなしてゐるが、全國的に名高い「本莊貫」の質量と聲價の昂上に努め木材王國秋田のため萬丈の氣焔をあげてゐる。主人鳴海五三郎氏は北秋出身で年少の頃から辛酸をなめ大正十三年當地に住するや、堅忍不拔遂に今日の大をなしたが、あくまでも進取の氣魄を揮ひ、令嗣に店務を委して山形市に支店を開設し孜々として活躍してゐる。

嗣息一男氏は廿有七歲の少壯ながら專念經營に膺り其業績は同業先輩を瞠若たらしむるものがあり。本莊中學卒業後拓殖大學に學びしだけに極めて進歩的な考へを有し、仕事の一切を請負制度となし出來高に依つて給金を拂ふ爲め能率頓に昂つてゐる。而して一面に於ては恩愛を以て遇してゐるので殆ど他に轉就する者もなく、常に瀛然たる勞資の協調振りは他に範とすべく其手腕力量共に卓越し將來を嘱目される。

秋田壽木箸製作所

本莊町石脇　電話三二三番　經營者湯田卯一郎氏は屈指の富豪であるが多年町役場に奉職し、細民の窮狀を悉知されて、其救濟のため全然算盤を度外視しての企業であるから、一定の從業員數もなく又其製產高も隨つて定量はないわけである。

醸良
銘酒　由利正宗　秋田縣本莊町
齋藤彌太郎醸造
電話一二番

只、其仕事振りの眞劍と瀛然たる雪國策は氏に對する感謝となつて反映し此處には珍しくも『搾取なき生產』が如實に行はれてゐる。創り出す一本一本が感銘の處產であるから果然各方面より異常の歡迎を受け今や注文殺倒して其需用に應じ切れない程の隆盛にある。

併し依然湯田氏の收得は極めて尠なく、其反對に細民の潤澤となる處愈增加するといふほゝ笑ましい狀勢にある。

醫療機關

由利醫療組合病院

『醫療の民衆化』運動は此處四五年の裡に燎原の火のやうに全縣に風靡した。わが由利醫療購買利用組合もその間にはぐくまれた一つであるが、人口二萬たらずの町なのに大小二十の醫師が居る本莊町に設立するのだからなみ大抵の苦難でない、かてゝ加へて郡醫師會の提唱にかゝる『保險組合』が全郡に蟠居する醫師と町村當局にわたりをつけて對遮的に設立されたので其辛苦は加重されたのであつた。

組合長加藤傳一郎氏は殆ど病院事務所に寢泊りして采配を揮つて組合員の糾合に努め昭和八年五月漸く設立許可を得、内には醫局職員の詮衡協和に人知れぬ苦心をなめて今や軌道に乘つたのである。

組合員六千五百名を擁し日に月に增加一方であるが昭和十年だけで利用の延人員が七萬四千二百三十人で其收入が五萬壹千圓に達し縣内でも優秀なる成績を擧げてゐる。

矢島町に分院を置く外僻遠の地たる川内村笹子村に診療所を設けて療藥に惠まれざる同胞のため圖るなど、あくまでも本來の使命にむかつて邁進してゐる。醫師はいづれも少壯の學徒で新進の學術と健全なる診療振りには深く信賴を受けてゐる。

本莊町議藤谷吉三郎氏聘されて專務理事となり、其數計經理の才能は愈以て本組合の基礎を確固たらしむるであらう。

本院、院長佐藤　巖博士を首め關口、横瀨、澁谷、佐藤各學士
矢島分院、成田、嶽間澤兩學士
川内診療所、川島學士
笹子診療所、石川學士

由利保健組合　由利全郡三十一ヶ町村悉くに組織されてる保健組合の機構と現實は本縣は勿論、全國的に異常の關心を嘆り、雖てそれが醫療の普及を促進する拍車をなすものとして注目されてゐる。

而してこの保健組合は町村を單位として結成し、正會員は毎年十錢の組合費を負擔する無產勤勞大衆、準會員は比較的生活の安定してゐる者で年二十錢の負擔となり、賛助員は組合を支援する爲めに一ヶ年に金三十錢を出金する。

特別會員とあれば組合費免除の極貧者である。そしてこの會員證を持つてさへ行けば郡内六十餘名のお醫者さんの誰もが快よく診療して夫れ〳〵の經費を以つて應じて吳れるから有難い。

組合の事務は町村役場で取扱つて居り、郡内の開業醫は一切の折渉契約を郡醫師會長に委任してゐるから煩勞もなく百方圓滿裡にあることも嬉しく、組合加入者も夥しい數に上り本莊町だけでも約二千世帶が加入して居り全郡では幾萬人といふ大衆を擁してゐる。

之れを提唱されたのは本郡醫師會長黑田利盛氏であるがこの卓見が要路當局の知るところとなり數次の調査研鑽をなしたが庶政一新を旗幟とする國策の一として法制化するも近き將來であらう。

耳鼻咽喉科	岩谷光喜	電話	一八
内科外科	邊渡良七	同	一二九
内科皮膚科	加藤儀三	同	一三〇
外科	藤賢次	同	一〇八
外科	内藤並三		
内科	黑田利盛	同	一三八
小科	松雄三	同	四二
小兒科	笹木修三	同	一八
内科	作左部大八	同	三一四
内科性病科	日髙環	同	一三九
產婦人科	進藤利正	同	三八
内科	鈴木利七郎	同	五六
產婦人科	早川賢太郎	同	二六七
内科	小柳千足	同	二二三
内科性病科	小川恭德	同	二八
眼科	岩谷千代子	同	
外科產婦人科	莊司榮彦	同	三二五
眼科	佐々木巧善	同	八
内科（本莊町由利郡醫師會内）	佐藤巖		
外科	關口篤之助		
耳鼻科	横瀨丈夫	同	三五四
產婦人科	佐藤勝信		
全科	澁谷浩三		
内科	笹子診療所櫻井七郎		
全科	矢島診療所嶽間澤正三		
全科	同成田敏男		
全科	羽川診療所大庭忠夫		

公園、名所、名物

鶴舞城 應長十五年植岡氏が築いたが元和九年六郷政乗移封されて之を繼承し居城とす。尾崎城とも稱し要害堅固の城池として知られ規模宏く今男女兩小學校の建てられてゐる處は内郭の一部である。明治四十一年町は六郷子爵家から借り受けて公園としてゐるが、四望開豁、瓦甍を脚下に俯瞰し、東南雲表に鳥海の靈峰を仰ぎ更に俯して萬頃の田圃を眺め、西北子吉の清流を隔て新山の翠巒に對し、遠く岩倉左近守の據りし城址に懐古の一ときを割き眼界の盡くる處に水天一髪の蒼波を觀る。今や幾千の櫻樹育成し早春縣下に魁けて娟麗を競ひ、觀櫻會には隣邑は元より遠くから蝟集して一大歡樂境となる。

眺望を擅にして丘を降れば即ち御手作堤である、漫々と湛えたる水に浮ぶ麗人雅士のボート・滿孕と咲亂れし岸邊の櫻樹の下を靜かに廻歩するも一興である。

勤王碑 公園一の丸にあり、大正九年六月除幕式をあげたが、閑院宮載仁親王の揮毫、文は三島博士、書は伊藤天海氏で、畏しくも宮内省からの金三百圓の御下賜金を頂いてゐる。

子吉川河畔の行事と名物

花火大會(七月下旬)、實業端艇競漕(毎年花火大會の日)、本中ボート、魚釣り、本荘濱の海水浴、菖蒲園(町續きの濱の町にある)藤森(藤の花の名所 酒田街道を行くこと十町) 光風園(鶴舞城址續きの丘上にある)

神社佛閣

官祭 招魂社、公園内にあり、戊辰戰役の殉難者及日清、日露、日獨及滿洲事變の各戰死者を合祀す。

縣社 八幡神社、谷地町にあり、祭神は譽田別命、息長足姫、玉依比賣姫命を合祀し毎年九月十五日例祭を行ふが古代の嚴粛なのを特記すべく、境内凋く老樺茂り森閑として神寂びたる處亦一勝地でもある。

鄕社 **本荘神社** 公園内にあり、祭神は健御名方命外四柱神と藩祖政乗公を祀り毎年五月八日に祭典を行ふ。

新山神社 石脇區新山々上に在り今は小公として風光に富み祭神は豊宇氣比賣神外に七柱神を合祀す。

淨土宗 常然寺 (藩主六郷氏三目の弟夫妻の菩提寺である)。天然寺

曹洞宗 **永泉寺** 舊藩主六郷家の菩提寺で什物に空海筆心經唐沈德炤の畫を藏し山門の壯麗なるを知られてる。

東林寺 郷土の開祖楢岡豐前守が寛永八年に植栽した老櫻あり、枝垂櫻にして『不斷櫻』と命名され三百年餘の星霜を經るも尚燎亂と咲誇る。郷人相謀り名木愛護會を組織して其保護宣揚に努む

長禪寺、泉流寺、藏堅寺、大泉寺、瑞林寺

眞宗 願永寺、廣誓寺、了善寺、寗德寺、壽應寺、圓照寺、超光寺、專念寺、松林寺、正福寺、西念寺

日蓮宗 大寶寺

時宗 蓮化寺

本荘の旅館 小國旅館【驛前】 指宿旅館 森川旅館 鶴當部

交通

横荘鐵道西線 横荘鐵道會社(本社横手町)經營の當西線は、羽後本荘驛を分岐點とし、子吉、鮎川、黒澤の各驛を經て前郷驛に至る。一一、六キロ、本荘、前郷間三等金三六錢

鳥海山麓を開發する新線 前郷驛より矢島町に至る一一、五キロは鐵道に於て建設起工中にて其間に西瀧澤、川邊の二驛が設置される。昭和十三年春には開通する見込なるが其曉には前記西線は勿論横荘全線が買收されるものと非常なる關心を寄めてゐる。

横荘鐵道會社のバス 由利郡より雄平二郡に通ずる東線へ連絡するため本荘老方驛間の縣道七里半(約三〇キロ)を毎日バス三往復する。料金九十錢なるも連絡切符を購入すれば本荘横手驛間壹圓五拾錢であるから、奥羽線廻り(秋田經由)より二十錢安く且所用時間短縮されるので此を利用する旅客が相當多い。

本荘、鳥田間のバス　本荘町日の丸自動車會社の經營にかゝり海岸沿ひに鳥田町に通ずる約四里を毎日三往復運轉する。料金三十五錢

市内バス　鳥輪社及日の丸會社が十五錢均一で運轉してゐる。驛と町との定期バス　驛から町まで二十五丁あるが、佐々木自動車商會の定期バスが殆ど毎列車に運轉する。料金拾五錢

本荘との定期バスがある。

横荘西線　起點本荘——終點前郷

本荘驛を發してから最初の停留場で本荘驛から二軒である。

くすし師　**名勝**　**優婆明王**　停留場から約七六〇米、藤崎正乘寺境内にある。寛政年中僧唯心、海中から現出した大日の尊像を祭つたが靈夢によつて白髮老婆の何處よりか現はれ我は唯心僧の所持せる大日像の一休分身である。速かに其像を我腹中に納むべし然るときは汝の願望成就すべしと、依つて優婆明王の像を彫み大日の尊像は其腹中に納めた。後世姙娠、安産、良緣を祈願するに靈驗顯著であるとて婦者常に多い。

よしこ吉子　**名勝**　稲荷神社　驛より約五五四〇米由利十二頭の一人由利忠八郎の城址である。

宮内八幡社　驛から一、〇〇〇米源義家奥州征討の折、休息せる所と傳へ、直筆の短冊を納む、其詠に

さなきだに我古郷は戀しきに
何を詫しく時鳥啼く

又由利忠八郎が京都南禪寺より選したといふ寶物、武器、茶器其他多數ある。

あゆかは鮎川　**名勝**　**慈雲山瑞光寺**　驛から一、六〇〇米あり、鮎川地頭の祈願所で慈覺大師の作といはれる地藏菩薩、布袋、優婆明王の像がある。

くろさは黒澤　**名勝**　**名木千年櫻**　鮎川村打越の館にある。停留場から約一千米、前九年の役、源義家貞任を打ち此地に立寄り小憩し、其風光を賞し紀念として櫻樹を植えたものと傳ふ、同所には瓊々杵尊の娶れる木花咲耶姫を祭れる新山神社がある。附近一帶眺望に富み靈泉があつて夏期一日の勞を慰するに足る。

まへごう前郷　羽後本荘から一一、六粁、東瀧澤村前郷にある。人口三千餘矢島町に通ずる要路に當り商業盛んである。

名勝　**日枝神社**　驛から約七〇〇米、元同村飯澤に鎮座し瀧澤兵庫頭の崇敬社であつたが元和八年落城後現今の位置に奉遷し、明治六年郷社となり社殿莊嚴境内幽靜である。

瀧澤城址　驛から約八〇〇米　瀧澤兵庫頭の居城であつた。

三光神社　瀧澤舘址にあり、兵庫頭の崇敬社で、腹痛又産婦の守護神として遠近の參詣者絶ゆることがない。　傳說曰く　某農夫かあつたが自分の作つた小豆を窃取された處、近隣に住んでゐる仁藏の幼兒が赤い飯を食べたとの話をきゝ、之を疑ひ其罪を責めたが仁藏の妻は赤い蝦を混へた飯で、小豆飯でない由を辯明したが聞き入れず、已むを得ず幼兒の腹を割いて其潔白を證し其靈を祭祀したといふ。祈願するもの小豆を斷食し、又小豆を神前に供ふるを例とすと。

矢島町　前郷から一三、〇八〇米、定期自動車の便がある。寛永十七年濃岐高松から移封せられた生駒侯の城址で人口七千餘、商業盛んで米、木炭、木材類を多く產し近年石油堀鑿事業盛んである。又地此は、鳥海登山の順路で山頂まで二二、四七〇米ある。

鳥海山　一名出羽富士或は秋田富士といはれ高さ、二三〇米、國幣中大物忌命を祭り、仁明天皇の嘉祥三年宣化天皇の曾孫、比良衛、田良衛兄弟二人美濃國から來て山麓に小徑を開き往來規則を定めて荒海に住す。新田を開拓し農事を奬勵す、之れ實に矢島開創の祖である。

に　西
し　目
め　村

此村は政黨政治華かなりし時代、縣政界に重きをなした元縣議佐々木孝一郎氏の出生地である。

彼氏議政壇上にあつた頃は民政黨の闘士猪股謙次郎氏と縣會に於ける討論は相撲なら常陸、梅の取組にも似た壯觀であつた彼氏政界を去つて難命に村の更生振興の爲に餘生に捧げてゐるものゝ如くである。さればこそ村の近來の躍進に素晴らしい成績を擧げつゝある。

世帶と人口　世帶數六七八　人口男一、七三七　女二、一二四　計三、八六一

官公衙、學校　西目村役場、巡査駐在所、西目郵便局　西目尋常高等小學校　學級數一四　兒童數七八八

名　勝　西目村海上剝土、**中高屋海水浴場**　海濱のだゞつ廣い砂原の中に取り殘されたやうに點在した部落で、一に越前の遺雜漁夫の子孫とも云ふ、こゝが古代民族の石器、土器の發堀される所である。實に勝地の名に背かない所である。

ひらさは
平澤

平澤町は往昔より仁賀保部の中心地として繁華な小邑であつたが、近年隣接の院内油田の開鑿發展に伴ひ更らに活氣つき殷盛を極め停車場構内の如きも狹隘を來たし其擴張を叫ばれてゐる。

沿　革　元和九年仁賀保兵庫頭擧誠が常州武田より移封せられ壹萬石に封せられて鹽越城に住したが、其後寛永三年に及び其二子內藤誠政、內記誠次に三千石を分知して平澤に住してより其所領となり爾來連綿として明治維新に至つたが、戊辰戰役には微力をも顧みず敢然大義名分を明にして王師に盡瘁した。

明治三十年に平澤町と改稱町制を布かれた。

世帶と人口　世帶數八八四　人口男二、二八五　女二、五一七　計四、八〇二

△**官公衙、學校**　平澤町役場、平澤警部補派出所、平澤郵便局　平澤尋常高等小學校　學級數一六　兒童數九四六

△**教　育**　本町の特異とするところは小學校を尋常科だけより設置せず

△**公益質屋**　昭和三年の創設にかゝり『平澤町庶民金庫』の名のもとに漸次利用者を增加してゐるが昭和十年四月より十二月までの業績を見るに、貸付一二三一口其金額　一萬一千五百七十五圓三十三錢で辯濟は一二一四口、一萬一千四百六十圓四十四錢になつてゐる。

會社、銀行、組合

△**金融株式會社羽後銀行平澤支店**

△**保證責任平澤信用購買販賣利用組合**

明治四十年の創立にかゝり、當時は組合長故齋藤恭太郎翁邸の一室に於て專務を執る程の微々たるものであつたが翁は親ら其經營の任に膺り、本町の先覺者たる故齋藤宇一郎大人と共に經濟の『道德化』を高唱し易贊するまで十有八年孜々として其發展に努められた。

其爲めに大正二年には秋田支部長より、又翌三年には中央會平田會頭より優良組合として選彰され、次で大正十年には翁も亦縣知事から其功績を彰されてゐる。現組合長齋藤雅雄氏は實に翁の令嗣であり、專務理事佐藤久太郎氏は就任月淺きも內外の信望をあつめて恪勤進展

に努めてゐる。

一方事務所は舊に復し漁業倉庫を修理移轉してゐたが狹隘を來たし、ひいて事業の支障をも招來するに至つたので現在の處に宏壯なる事務所を新築中であつたが愈竣成しこの十月から移轉執務してゐるが、所謂居ながら氣を移すとで役職員は協力一致、清新の氣に滿ちてゐる。

而して現在の業績をあぐれば、昭和十年末現在で、組合員七九八名其出資拂込金一萬六千百九十一圓八十四錢、準備金及積立金等で六萬七千三百圓餘、貯金高は實に約四十萬圓といふ堅實振りを如實に表現してゐる。

各部はそれ〴〵全機能を發揮してゐるが、購買部に於ては肥料、飼料漁網類から荒物百貨まで取扱つて利益千二百二十圓をあげてゐるが、其他に利用部の二千九百餘圓、漁業倉庫からの二千三百圓など續ふて其成績昂上に努めてゐるが一切が躍進又躍進の際昌振りである。

無限責任平澤町漁業協同組合

明治三十八年の創立であるが昭和十年末現在で組合員三百十九名を擁し同年丈けの剩餘益金が三千四百八十五圓の成績をあげてゐる。此の長年月に亘り役職員の精勵よく努めた爲めに治績あがり、大正十五年には縣水産會より表彰され、次で昭和四年には縣知事より選彰されてゐるし更に昭和十年六月には畏しくも高松宮家より褒賞御下賜金を賜つてゐる。

其事業としては共同販賣、製造加工、共同購買、漁業資金の貸付及救恤事業其他共同施設は總て整然たる統制のもとに各々見るべき成績をあげてゐる。其片鱗を覗へば昭和十年度の販賣高が十二萬圓、製造加工に於て二萬五千三百圓であるがそのうち竹輪の一萬八千圓、鮟油の四千七百圓、鮟粕の約一千圓等は主なるもので例の支那料理の寵兒たる鮟鱇が約九百圓の輸出である。尚ほ本組合の手を通して鰰が三萬三四千圓、鰯が七八千圓と鯛が一萬圓以上各方面に移出されてゐる。斯樣に惠まれた漁獲を持つてゐるので沿海漁業の爲漁場の保護取締や漁港改修も國縣の補助金も這般決定したので愈本格的な續工々事に取

かゝるか昭和十三年には完成の見込で、この漁港の完成と相俟つて文字通り洋々たる前途にある。

仁賀保電氣組合　本組合は大正六年に、平澤、金浦、小出、院内の四ヶ町村の組合事業として設立したもので、最初は金浦町役場に事務所を置き金浦町長を管理者として事業を開始したが、大正十二年に至り故齋藤宇一郎氏が組合長となり現町長伊藤貞平氏副組合長に就任一切の事務を平澤町役場に移して鋭意内部の刷新を圖ると共に增設工作をなして今日に及んだのである。近年院内油田の勃興に依り需用激增するにいたつたので今次小出村蛇見澤に三十二萬圓を投じ一〇〇〇馬力の發電所を增設する。

昭和十年十二月現在の需用狀態を見るに其家數二千三百十三、十萬五千百十四燭光で外に大口の供給電力には日石、中野興業、旭、大日本鑛業の各會社並丸新製油所へ合計一二〇〇キロの需用となつてゐるので到底自家發電のみでは應じ切れず、お隣の鳥海水電から十四萬圓も買電してゐる程である。

更らに電力の農村化を高唱して料金を低廉にしてゐる關係上小型電動機の利用者著しく四ヶ町村で約五百ケもあるが秋から冬季にかけて、どこの小村に行つてもこの小型のモーターを廻して稻扱や籾摺に驅命になつて居り其能率的な工作を見てはひとりでに微笑ましくなつてくる。

元々他の營利會社と異なり、倒迄も組合員の福利を主標としてゐるだけに電力料金の低廉なること、需用者に對して懇切なる點は他の追隨を許さない。又其料金の徵收方法の如きも加入町村役場に委托してゐるが其徵收手數料は其村費に繰入られるなど總てが合理的であり、電力の國營とか國家管理とかの說が喧しき昨今、各方面から視察調査に來るものが激增してゐるのも尤である。

組合長は齋藤雅雄氏で昭和六年以來の就任であるが、事業進展に伴ひ昭和十年三月、中山政五郎氏を聘し主事兼收入役として實際の掌に當つてゐる。

銘酒『飛良泉』と『仁賀保正宗』

本郡を四分して最南部に位する仁賀保四ヶ町村に君臨してゐる、銘

酒『飛良泉』と『仁賀保正宗』と共に本町齋藤雅雄氏の醸造にかゝり其草創は寛政年間にして實に百五拾年をさかのぼる。

連綿今日に及んでゐるが、現在は日本一の油田たる院内小國の石油地帶に進出して確固たる販賣網を擴げてゐるので著しい増石高を示し、風味の芳醇と相俟つて益々賞讃を博し躍進一路にある。

當主雅雄氏に砲兵中尉で溫厚篤實の士、年齒漸く不惑を越したばかりの少壯ながら家業のかたはら、同町郵便局長、軍人分會長、信用組合長、仁賀保電氣組合長等の要職にあり、各其主務者を宰して刷進向上に努められてゐる。

△**名勝史蹟**

仁賀保公園　舊領主仁賀保家邸趾を解放して公園としてゐる。老松殘濠等に依り當年の面影を偲ぶべく、本町の生める偉人故齋藤宇一郎大人の銅像も此處に建てられてゐるが、あらゆる犧牲を拂つて『住よき町』の建設に盡瘁した氏の風姿端嚴なるを仰慕し低徊去るに忍びないものがある。

芹田舘　字芹田にあり、由利十二頭の一人なる芹田伊豫守の住せし處。

丁双塚　正應年中由利五萬八千石の旗頭と仰がれ武威を鄕郡に振ひし由利政春の遺孤丁双丸の碑にして一は丁双森の西麓にあり、怒風海潮の浸蝕に任せ、一つは同町淸水小路淸泉の邊にあつて悲風徒に竹葉を慄かしむ。

琴ケ浦海水浴場　海淺く永淸く好箇の海水浴場として世に稱せらる。

このうら
金浦

沿革　金浦町は元和九年より仁賀保氏の領土で寛永八年同氏逝去の後上地となり酒井氏の領土となる。同十七年生駒氏之を領し、後六鄕氏に代る。廢藩置縣に迫んで本莊縣に編されたが明治廿二年金浦村となり次で卅五年町制が布かれた。

漁港の修築完成以來水産物年額二十二三萬圓の漁獲を見るに到り、五百町歩に亘る美田と百町歩に垂ずる良圃から收穫する農産物と相俟つて内容の充實活氣旺溢の小邑である。

世帶と人口　世帶數八九四　人口男二、四〇六　女二、五一二　計四、九一八

官公衙、學校　金浦町役場、巡査駐在所、金浦町郵便局　金浦尋常高等小學校　學級數一五　兒童數七九一　大竹尋常小學校　同　五　同　一五三

會社、銀行、組合

株式會社羽後銀行金浦支店

保證責任金浦町信用組合　本組合は昭和三年に御即位大典記念事業として計畫されたもので日は淺いが、内容の堅實と組合本來の使命を如實に表はしてゐる點に光芒陸離たるを見る。

『金を借りに來た人を空手では戻さぬ』といふのが組合長佐々木彦治氏の一大信條であるといふ五百圓までは無擔保、無保證、自分の判コ一つで貸して戻される。共存同榮と相互扶助が全日本を一貫しての組合精神でありながら『パンを望んでゐる者に石を與へる』理事者の多いのにかくも簡單に貸付けて戻れる組合當路者に對しては自ら敬虔の念が湧く。

それか日に二百件前後も取扱つて居り現在十八萬圓も貸付けてゐる。

又曰く『貸出をすればこそ貯金も集つて來るものです』と。なる程貯金も十九萬圓に垂々とし今上半期だけで(昭和十一年)既に一萬九千圓を突破するの飛躍的な集り方であるがそれで尙ほ五六萬圓も餘裕金を擁してゐるといふ綽々振りである。

佐々木氏は創立以來風雨寒暑の別なく里餘の部落から通勤し挺身以て其經營に膺る其熱誠が深く信賴をかけらるゝに到り今日の隆運を見るわけだが此處にも『事業は人』なりの感を深うする。

△**保證責任金浦町漁業協同組合**

大正十二年第一期起工以來二十有三歳の星霜を重ね、全町民の血と

汗で築上げた漁港が完成したので、果然、漁獲高も昂り從來六萬圓程度の水揚げ高が今や二十萬圓を突破するに及び其恩惠に浴する者甚大であるか之れが取引は本組合直營の共同販賣所に於て行はゝのである。

夕闇せまる頃から遲くは九時十時、沖遙かに發動機の音も勇しく歸り來る。少ない時で十二三隻、多く出漁すれば三十餘隻がいづれも山と積んで景氣よく岸壁に着くが、待ちわびる家族に手傳はれて賣場に順序よく並べられる。

鐘て合圖の鐘かなり響く――。地元商人はいはずもがな本莊、秋田、酒田、鶴岡の商人が懸命になつて買値を釣上げる。ソタ(一)ブリ(二)ギリ(三)……それが專用の隱語であるが瞬く間に取引されて仕舞ふ。量が多いので深更に及ぶが其活況實に素晴しく海國日本の誇りを遺憾なく表現し、ナギした日(出漁日)には一千圓乃至三千圓の取引が行はれるのである。

試みに昭和十年度の水揚げの主たるものを拾つて見ると、鰤の六萬三千貫十萬五千圓を始め鮟の八萬貫、一萬七千圓、鰈の五萬七千貫、三萬六千圓、鱈の三萬七千貫、一萬二千圓、鯛、小鯛の二萬七千貫、三萬三千圓、平目の一萬七千貫、二萬八千圓等である。

組合長は金浦漁港の父と崇敬される北能喜一郎翁であるが理事佐藤亥之助氏專ら一切の執掌にあたり、わが組合は斯くして悠然たる大翼をひろげ壇なる躍進振りをつゞけてゐる。

△保證責任金浦町購買販賣組合

明治四十四年に共同倉庫を建てゝ事業を開始したのが本組合のはじまりで大正十二年には産業組合法に依り組織を改め購買部販賣部を併せ、更に昭和十一年に保證責任と變更、益々基礎を固むると共に事業の擴張を圖り五ケ年擴充計畫を樹て全町全組合員をモットーに其具現に邁進してゐる。

購買方面では肥料は全町使用量の全部を引受け約二〇〇噸二萬圓に達し其他木炭雜貨から家庭藥まで親切に取扱つて果れ、販賣事業としては米の販賣奪旋に努め一般生産者の投賣防止に力を致してゐる。倉庫業では使用倉庫四棟で毎年三萬俵内外の收容呑吐をなしてゐるが其の八割は東京方面に移出され、神奈川、愛知、北海道等にも進出して寄託者の滿足をかつてゐる。

現組合長は佐藤甚八氏であるが、大平榮喜氏專務理事として朝夕之れが伸張のため渾身の努力をはらはれてゐる。

名　勝

鵜至公園　縣下の春は此處の櫻によつてトップを切られるが湖畔を廻りながら西國三十三觀音參りするもすが〳〵しい心持になる。

中央公園　後に鳥海の秀嶺を仰ぎ前に洋々たる青海原を眺める夕陽の一ときは筆紙に盡し難い。

沖の島公園　多年心血を注いだ象港の一部で、白瀨南極探險隊長の偉功碑が金浦文化協會によつて建てられてゐる。又海岸近くに北能喜一郎翁の壽像もあり完齋として長閑を撫してゐる。

神社、佛閣　村社金流山神社、目白山神社、同御嶽神社、須賀神社耕傳寺(曹)　天松寺(曹)　淨光寺(淨)　圓通庵(淨)　淨蓮寺(淨眞)村　社　八幡神社、同樂師神社、稻荷神社
曹洞宗　龍雲寺(曹)　高昌寺(曹)　常泉寺(曹)
眞言宗　安樂寺

醫　院　猪股醫院、須田醫院、高橋醫院、櫻井醫院、小松歯科醫院

き　象
さかた　潟
たか

沿　革　應永年間(五百三十餘年前)より仁賀保家の所領なりしも其後一時最上義光の有に移り元和九年再び仁賀保氏の領に復さる。寛永八年其家嗣絶えて沒收され鶴岡城主酒井氏之を併領し同十七年生駒家の領に移つたが直ちに六郷家の封土となり慶應三年歸後廻漕村と稱ひしを明治廿九年に象潟町と改稱した。

世帶と人口　世帶數八三四　人口男二、〇四八　女二、一四三　計四、一九一

官公衙、學校　象潟村役場、本莊區裁判出張所、象潟警察署、象潟

郵便局、

象潟尋常高等小校　學級數　一五　兒童數八二二

會社、銀行、組合

兩羽銀行支店、羽後銀行支店、象潟上郷上濱購買販賣利用組合

名勝史蹟　古來、所謂文人墨客に依つて紹介された象潟は一面植物の分布廣いので知られ、昭和九年一月史蹟名勝天然記念物に指定された。名刹蚶滿寺を繞つて九十九島、八十八江、松島と競ふた景勝も文化元年の震災に損じ長汀白砂は見るを得なくなつたが、鵜島は今尚ほ風雅な老松と奇巖を存し、五月雨頃には往昔を彷彿たらしむるので轉た感懷懷古の念を禁じ得ないものがある。

蚶滿寺　仁壽三年（千八十餘年前）慈覺大師の開基で師が自刻の地藏尊を安置し、古色蒼然たる山門を潜つて境内に入れば、南國氣分豊かな巨大な夜泣きの椿、鐘樓と高きを競ふ大芭蕉などが目につく、紅蓮尼の碑に頌いては可憐なる其生涯に想を馳せ、御開山傳法の松や最明寺時頼の手植の鶯蹋、果ては猿丸大夫委見の井戸、西行法師の歌櫻から芭蕉、白雄の句碑など津々たる感興は盡ない。

奈曾の瀧　象潟驛から四キロ餘、靈峰鳥海の麓上郷村小瀧部落にあり、文部省から名勝地の指定なつてゐるが壯觀を誇る。

鳥海山　秋田山形の兩縣に跨る鳥海山は海拔實に七千三百五十九尺、奥羽第一の名山である。千古の白雪を戴く其雄姿は崇敬の標識となつてゐるが國幣中社大物忌神社鎮座し、頂上より觀望する時は羽越の山海は悉く寸眸の裡に蒐り、遠く表日本の蒼海をも望み得べく。之が登攀には山形方面では蔵岡、吹浦の二ヶ村、本縣からは矢島口と小瀧口である。

小瀧口から登るには象潟驛で降り小瀧を經て頂上まで二十一キロ（五里九丁）あるが、途中の眺望の變化に富む。

矢島口　羽後本莊驛から分岐せる横莊西線前郷驛で下車し矢島町まで乘合自動車で行き、そこで準備を整えて登るのであるが、同町には觀光支部があつて何かと便宜を與へて呉れる。

こさがは

小砂川

小砂川は風光の地を持つて知られ上濱村にあり此地に縣觀光協會支部がある。

世帶と人口　世帶數五二二　人口男一、五一三　女一、五五五　計三、〇六八

官公衙、學校　上濱村役場、巡査駐在所、上濱郵便局、

上濱尋常高等小學校　學級數一三　兒童數五九六

名勝

小砂川海

本縣西南に位する由利郡上濱村小砂川にあり同地海岸一帶は怪石奇岩疊々絶壁をなし怒濤之に激して不斷の花、沖天に散る壯觀さを呈してゐる。小舟を操つて仰見るによく又松間林道傳ひに探勝するも奇である。中央の灣は海水浴場になつて居る。沖邊近く飛島を眺め背後に鳥海の秀峰雲表に見ゆるのは同地景勝の特色である。

小砂川海水浴場

小砂川海岸は風景美に於て郡内随一と稱せられ男鹿の景勝を凌ぐとまで禮讃さるゝに至り近年、鳥海登山及海水浴で非常な賑はひを呈するやうになつた。

小砂川驛を出て下方に新装を凝した松本屋旅館が見え、之より南方曲折裂しく海岸線に物凄い斷崖をなし、遠く三崎峠の古戰場が見える、東の方には靈峰鳥海山が掩ひかぶさるやうに臨み、北の方には白砂青松の象潟海岸が長々と望まれる。

西方指呼の間に飛島が夢のやうに浮いてゐて、海水浴場は此の斷崖に包まれた入江にあり稀に見る綺麗な砂濱と遠淺た點は恐らく縣内にも珍らしいと言はれてゐる。

一度此處に遊ぶ人は必らず再び見えると土地の人が言つてゐるのを見ても頷くことが出來る。空氣清澄で別莊地として好適の地であり、浴場附近の高所に瀟洒た別莊が、ポツ〳〵出來てゐるのが見られる、これだけの景勝が望外的に餘り知られて居ないといふことは、抽元民が常に見馴れてゐて無關心たゝるか、熱が足らなかつたのか、或は中央から遠かつてゐた關係であつたかも知れないが、抽元の人々は、この天惠に感謝すると共に天下に紹介するやう努力すべきである。

旅館　清水屋旅館、松本屋旅館、橋本屋旅館

○秋田、小砂川間約二時間半　料金一圓廿一錢

○鳥海登山　里程　五里强　○飛島遊覽一人一圓五十錢（團體食費付）

花柳界と民謡

湯澤の花柳界

近年湯澤の花街が素晴らしい評判となつて來た。好景氣時代に全縣中で全盛を極めた湯城花街も彼の財界パニックをエポックとして落調の悲哀から當時の湯澤には過ぎたと、言はれた彼女たちも、一人減り二人減して詩るに足らない元の姿に變つたが、昭和八年、十年に一度廻つて來た農民祭と近年稀有の豊年萬作を見越し、全國を斯けめぐつて上玉を集むる一方藝の練習に拍車をかけた處、農民祭は何處での催しよりも天候に惠まれ利へ豊年萬作で當時湯澤花柳界はたゞ〳〵湯澤小唄の文句でないが黄金の波が漂ふたのであつた。此頃から湯澤花街の品位はゲット復活向上、而も大事な酒は灘をノックアウトした湯澤酒の本場である、料理家の大物は八千代倶樂部、割烹石川、美どり家、嬉し野などは、何れも華麗な座敷と味覺自慢の庖丁の冴えを見せ、之につゞく大小旗亭、カフエー、食堂十數軒、藝妓、半玉合せて約四十名であるが、近年位粒の揃つたことは珍らしい。それは既述の種苗交換會の餘勢と雄勝は何といつても小野小町の生れ在所だ、しかし湯澤藝者は雄勝の者、至つて少く、かつては和光(先代)翠、千成などの北海道運が巾を利かし、今では却つて内地連の全盛時代といひ得やう。よい酒と美人それに何とかいふ新聞にあつだが湯澤程宴會費の安い處はないといふ、こふ三拍子揃ひも揃つた處など鶴のやうであるが酒の本場である湯澤なれはこそ事實として存在するのだ。

八千代倶樂部　龍之助

八千代倶樂部

花柳地帶を離れた北荒町にお城のやうな構へ主人公は素人義太夫でお馴染の大阪甚一郎氏である。階上の大廣間は種苗交換會に增築して貳百人餘の宴會が優に出來るといふ縣内にも珍らしいといはれ旭の如き盛業を極めてゐる。

石川　和光

割烹石川

縣南業界の古豪であり主人公は組合長の運線當選者である。場所は昔からの位置に大正十四年の大火で輪奐を誇る現在建築成り、更に京野家の祝儀を機會に階上大廣間を擴張し矢張り二百人以上の宴會が樂々出來るのと、間取りの變化に富み好評を博してゐる。

新よし

新開地方面随一の料亭、こゝは階上客間が廣く階下の清楚な「離れ」の氣分よさと女將の年中、時と人によつて態度のかはることのない姐御的な、そして上品な態度が人氣の中心として常に多忙を極めてゐる。

福本家

祇園町へ向つて數間一番手前の左へ折れる小路の奥に福本といふ軒燈が目につく、主人公は素義界の達人阿部福弁氏である。口八丁手八丁の手腕家で、新築した奥座敷ときたら典雅莊麗を極めたもの、その背景に相應はしい粒揃ひの美形を竝べて而かも湯城花界随一の勉强とある。成程行つて見てその忙しさにおどろくものがある。その外には**福富**、**宇治の里**、**新湯樂**、**寶砂家**、**安樂**、**双葉**、**鶴家**等の料亭等何れも千客萬來の繁昌振りは酒の本場、湯澤の景氣が窺はれる。

カフエーでは「まん丙」は斷然光芒を放ちクロフネ、天國など之につぐ。

食堂では大町の**泉食堂**は料理といひ規模といひ女中といひ凡てが東京式の明朗で人氣と好評をうけてゐる。

美登利家　勝太郎

美登利家

湯澤業界の花型ともいふべき同家は大正十一年の創業であるが、大正十四年の太火に類焼し直ちに宏壯華麗な現在の建築を見るに至つた、二十近き清雅な客室、小宴會に相應はしい三階の十八疊のバルコニーからは東に御嶽、西に鳥海の秀嶺を恣にすることが出來る。

吉雄内　小　謙

嬉し野

浦町で、小野之里亭には持つて來いの好位置だが、大正十四年の大火で類焼し、現在の建築は以前に優る瀟洒なものである。主人公は苞丁を取つては縣南業界にその右に出るものなしといはれた小藤重氏、業界稀に見る人格者である。俠客肌の快男子として人氣高いので、常に湯城花街隨一の多忙を極めてゐる。

醸造元の裏手で料

湯澤小唄

帶谷久太郎作詞
鶴澤雛朝作曲

一、町は愛宕の櫻にあける、湯澤よいとこ花の里、ヤレサノ花の里、
花に浮世のくさぐさ捨てて、うたへお城にや、ヤレ花か咲く、
花がさく
二、娘さかりのま心こめて、とつた生糸の艶のよさ、ヤレサノ艶の
よさ、繭はくる〳〵車のまゝに、まはるおだまき、ヤレ繰車、
こひ車
三、もゆる思ひか御嶽の紅葉、湯澤女の心意氣、ヤレサノ心いき、
あつい情についほだされて、お湯の池にも、ヤレ鯉がすむ
四、酒はあふるゝ數ある倉に、咲いて萬石黄金の波、ヤレサノ金
の波、酒屋若勞の米とぎ唄に、情ふか〳〵ヤレ雪がふる、雪
がふる

酒屋唄

1、**米とぎ唄**
米とぎはヤヨイ始まりました
鶴と亀、鶴と亀はヤヨイ流しにおりて舞遊ぶヨイトコリヤ
サノナーヨイ
2、**もろみ返し**
ハア揃ふた〳〵ノヤエ、若衆がそろたナヤエ
秋の出穂よりヤエまだそろた、ハア揃ふた、若衆にヨエ、
半纏きせてナヤエ、この家のお倉にヤエ、酒造るヨ、
3、**酒つくりの唄**
ハアとろりナとろりとヨエ、出た醪なればヨ、醪をナとられた
ヨ　アリア川風にヨ、ハア川のナ鳴瀬にヨ、絹機立てヨ、波
にナ織らせてヨ、アラせにきせるヨ

ハア　灘をなげたノヤエあの兩關はナヤエ
天下はれてのヤエ注連を張るヨ
ハア　男氣立にヤエ櫻の花よナヤエ
春はランマンヤエ花見酒ヨ
ハア　北の寒さをヤエふぶきにうけてナヤエ
花の白梅ヤエ咲きほこるヨ
ハア　霜におかれた大菊小菊ナヤエ
わけて白菊ヤエ色を增すヨ
ハア　昔ながらのヤエ色香もうせぬナヤエ
出羽の國なるヤエ小野の里ヨ
ハア　おもの流れのヤエ川風涼しナヤエ
とけて添ふのもヤエ肌のかんヨ
ハア　可愛い笑くぼもヤエ恥しながらナヤエ
娘十六ヤエ繭小町ヨ
ハア　愛宕咲く花ヤエ櫻のお城ナヤエ
四方にとどろくヤエ瀧の音ヨ
ハア　紅葉色かやヤエ櫻の色かナヤエ
酔ふて金時ヤエ顏の色ヨ
ハア　千兩萬兩のヤエ黄金の山にナヤエ
櫻花さくヤエ酒の町ヨ

西馬音内盆踊

盆踊地口

○時勢はどうでも、世間はなんでも　踊りこ踊たんせ
日本開闢　天の岩戸も　踊りで夜が明けた
○太平山から納豆皿投げたば　西モ内糸だらけ
アメリカやつて來て糸コを買つたば　町中大繁昌
○國史に上つた學者の中にも　すぐれた信淵翁
生れはどこだと尋ねて見たれば　秋田の西馬音内
○子供の踊りは無邪氣たものだよ　拍子はなんでもエ
ドロンの太鼓でオテ、を廣げて　一足出はてゆく
○隣りの娘さ踊コ教せたば　フンドシ禮にもらた

早魃もて來て嬶どさ見せたば　横つらなぐられた
○今年は日照りで西瓜とあぢ瓜　ほんとに當り年
カボチヤもつろたりぶどうも房なり　出ヤ嬶　元なりだ
○雄勝鐵道の　宮車に乘つたら　これだば氣持コえ
雄物川越え　稻穂の波わけ　鳥海雲に見る
○緊縮贅成節約オーライ　ウントテ踊たんせ
踊りの拍子で田の草取つたら　今年は萬作だ
○西馬音内通りをグリット廻たば　蟹が飛んで來た
うまいと思つてギッチリしめヤたば　隣のはげトッチア

横手の花柳界

横手の花柳界は地方民氣質に頓着なく一段も二段も前進を續けてゐる。といふのは交通の便がその躍進を強要するからでもあらう。

然も横手花柳界に於ける料理屋、藝妓屋は劃然たる區別の下に置かれ且つ又此兩者の協調は頗る圓滑に行はれてゐるのも喜ばしい事である。何に分にも哀韻嫋々たる裡にも絢爛たる曲線のリズムを見せる歌調と舞踊の『岡本新内』發祥地であり、大小藝妓六十餘名の藝道への精進は涙ぐましきものさへあり、一方料理方面は赤山水の環境美を背景に絃歌さんざめいてゐるが、殊に一流料理屋は『味覺秋田』を代表すべく歳ふて板前に腕の冴えを揮ひ、通し物一つにも細心の意を注ぎ味覺藝術の創作に努力を傾けてゐる程で此點東北六縣でも屈指の誇りとしてゐる。代表的料亭店は横手倶樂部、山田屋、玉屋、風月等がそれである。

宗木春子

横手料理屋業組合（イロハ順）

一力	大水戸町	電話	三一九番
石川屋本店	横手驛前	同	一三四番
石川屋支店	同	同	四四六番
花月	大水戸町	同	三三番
横手倶樂部	大町中丁	同	三〇七番
玉屋	柳町	同	二六一番
仲よし	同	同	二三一番
中善屋	大水戸町	同	二三一番
桑久	柳町	同	一六番
山田屋	四日町	同	
山口屋	公園		
彌生	寺町	同	四三三番
九玉	馬口勞町	同	五七番
風月	柳町	同	三四七番
喜久代	寺町	同	四五三番
美や幸	柳町	同	
美登利	寺町	四	
自由庵	四日町下町	同	一三三番
志ら菊	馬口勞町	同	四五一番
藥城亭	公園		
鈴廼屋	田中町	同	五〇四番
水月	馬口勞町	同	一五一番

新堀田宗小雪々女

横手小唄

石川謙氏作詞
鈴木民五郎作曲

一、會はねばつらし、會ふても淋し、櫻ばな散る、おぼろ月、
なやみある身に、酔いたが毒か、水は鳴る〳〵横手川、
二、實意ないとて、河鹿か鳴いた、ないても〳〵嘘は嘘、
嘘の鰍文、あの蛇の崎の、淵の河童にくれてやれ、
三、西に鳥海東に御嶽、空はあを空落葉した、稍にのこる一つ柿
この身も孤つ、ぢつと默れば、人戀し、
四、酒にうつるは、逢ひの夢か、
雪はふる〳〵夜は更ける　河原千鳥は何と鳴いた
横手娘を　ほしと言た

新横手小唄

一、戀の蛇の崎花火がある、　年に一度の逢ふ瀬山
顔を明かして花火は消える　鳴かぬ河鹿かうらめしい
二、米を積む〳〵昨日も今日も、　山とつみ出す横手驛
馬はいな〳〵鳥海晴れに、　人氣立つ〳〵軍馬市

宗寿香　御まえに御心こめて、

横手情調小唄

大山順造 作詞
鈴木民五郎 作曲

一、八重か一重かさく山さくら　花のトンネル七つに曲り
　登りつめたる私の心、　吹いて晴らすよな風ほしや
二、若葉吹く風まともにうけて、　郭公鳥なく夜明けの空に
　躍る緋鯉はさつきの幟、　私しや初鰹氣がをどる
三、雪がかゝるよ鳥海山に　脈な辻占わしや氣にかゝる
　たとへ涙に絲あるとても、　せめて東風でも吹けばよい
四、つもる思ひは蛇の崎あたり
　とけぬ深雪に山潮は見えぬ、　鐘か鳴らぬか合圖の鐘が
　様と逢夜は胸が鳴る、

岡本新内

黄金家一寸平

せめて一夜さ假寝にも、妻と一言いはれたら、　此の一念もはれべきに、　どうした因果で片思ひ　脈からしやん十顔見れば、
わたしや愚痴ゆゑ猶可愛い、　せめて雀の片羽根も、　翼あるなら
このやうに、　泣いて焦れはせぬものを、　焼野のきゞす夜の鶴
滋賀唐崎の一つ松、　わたしやこがれてゐるわいな、　思ひたへかね
袖しぼり、　濡れて乾かぬすゞり水、　心のたけを命毛で、　日暮に
書いたる逆り文、　開いて見るやら見ないやら、　更に返事もなくば
かり　ゆふべの風呂のあがり場で、　此の腹帶をかゝさんが、
見つけしやんしてこれお染、
なさけない事して臭れた、　誤りましたよ今度から、　男猫でも抱きやしまいすがる袂をふり放し、口で叱れど心ではおなじ思ひの憂き別れ、　なく蟬よりもなか〳〵に、　なかぬ螢が身を焦す、
三、かたい心を木綿に織つて、
　背なからの紺のよさ
　主に着せろか　艶出をせうか
　横手女のこゝろ意氣
四、法螺が響くよ廻ケ岡に
　させさ梵天ジョヤサノ
　横手男のこゝろ意氣

かへる此の身はなほつらい、　せめて十日か五日でも　船出の延びることならば、　この悲しみもあるまいに、　いつまた逢ふやらわからぬに、　明日は別れの帆を急ぐ、　晴れる天氣がうらめしい
義理の世なれば是非もない、　戀しきお方に遠ざかり、　別れて闇の淋しさを、　せめて御委夢なりと、　くよ〳〵思へば夜も更けて嚊を鳴くや明烏

大曲花柳界

大曲の八幡町といへば、昔から花柳界に於てその豪華な陣營と忙しさに於て南に大曲八幡町、北に能代遊廓と並び稱せられたものであつた。當時八幡町の熊谷樓といへば江戸の吉原なら角海老といつた格で端た金では、前も錄々通れない豪勢振りだつたが星移り物かはつて、そうした制度と華麗な花街は見られなくなつたが、時代の趨移に順應して熊谷樓は藝者屋に轉向、熊谷叶家として一流どころを揃へて幡界に王座を占め、料理家では掬水館は高級宴會場として昔ながらの權威を保ちつゝあるが、近代的の經營と設備によつて巧みに時代精神を攝取して人氣を高め躍進又躍進の好調を行くものに對川閣がある。現在大小妓四十名の彼女達は御神燈ゆらぐ幡界に對川閣や掬水館其他を唯一の職場として活躍してゐる。

叶家玉助

熊谷叶家

大曲幡界に君臨した熊谷樓は明治十一年の創業で、明治十四年に貸座敷の許可を取つた所謂、斯界の老舗であつた、時代の趨勢に鑑みる處あり藝妓家に轉向し、長唄の達者玉助、二三松を初め粒選りどころ大小十餘名繁忙を極めてゐる。

料亭對川閣

旭日昇天の好調を辿りつゝある對川閣は大正十三年九月一日の創業で日淺いにも拘らず幡界隨一の好評と多忙を極めてゐるが主人公は花舘出身の美術家加藤伊三郎

であるる。室數の多いことゝて大小何れの宴會にも恰適し鮮美な調理と相俟つて好評を博してゐる。

料亭　掬水館、みはらし、鶴宮、藤の家、勢喜川
熊谷叶　電話三二番　玉助、かほる、二三松、愛子
新駒、金彌、小仙、玉枝
松叶家　電話二七二番　君松、君太郎
新叶家　電話一三七番　鑢丸
新榮家　電話一〇七番　榮、豆太、千代香、榮太郎
一勇、梅千代、ぼん太
花芳　電話二四五番　花若
美由家　電話二四番　團子、小梅、君代
益よし　電話三〇七番　益奴、益美

割烹　秋田縣大曲町　**對川閣**　電話一七三番

松芳　電話二〇五番　寵々
新萬家　電話四六番　才八、勝丸
鈴本　電話一六六番　桃太郎、小八、力榮
須磨家　電話一四八番　小〆、〆勇、〆千代、〆三
〆太

大曲小唄

田口松園作詞
小田島樹人作曲
花柳珠寶振付

一、丸子橋行きや、　柳が招く招く　春の雨ドントセ
キタサカサイ／／招くサイ／／招く柳に春の雨
二、あすは帆あけて雄物を下る、せめてサイ／／せめて一夜さ泊り船
キタカサイ／／泊り船ドントセ
三、蓋來い／／八幡丁へ　青田サイ／／青田暮れても紅い灯が
キタカサイ／／紅い灯がドントセ
四、おばこ踊ればあんこが謠ふ、里はサイ／／里は祭の人の波
キタカサイ／／人の波ドントセ
五、花火見よなら祭にござれ、●揚るサイ／／揚る花火に笛太鼓
キタカサイ／／笛太鼓ドントセ

益田家　益太郎

六、刈れや黃金の、　百萬石を米はサイ／／米は仙北みのる秋
キタカサイ／／みのる秋ドントセ
七、雁のたよりも古四王さまは飛羽のサイ／／ひだの匠の宮造り
八、霧のゐつゞけ霧間着のまゝで、雪舟をサイ／／そりをやりましよ鮭の納屋
キタカサイ／／鮭の納屋、ドントセ
九、娘十七、かりさん姿、　昔サイ／／昔ながらの紬頭巾
キタカサイ／／紬頭巾、ドントセ
一〇、十五夜ごめんだ、それ曳け綱を、綱にサイ／／、綱に曳く手に月が照るキタカサイ／／月が照る、ドントセ

大曲花火音頭

熊林久司作詞
馬澤龍朝作曲

一、秋田すし米名の出た所サノエ　ヨイサ花火にポン／／
なびく田圃はなびく田圃は黃金の波、
揚かりや、　パラリと咲いてサ
ヨイサ大曲ヨイト／／サヨイトサ
二、み輿お供の武士姿、　サノエ
お茶たりと、　ヨイサ花火にポン／／揚かりやパラリと
咲いてサ、　ヨイサ大曲ヨイト／／サヨイトサ
三、風にくる／／あの矢車が、　サノエ
やがて彦綱、　やがて彦綱とる若衆ヨイサ花火に、　ポン／／
揚かりやパラリと咲いてサヨイサ
大曲ヨイト／／キヨイトサ
四、月は照る／／丸子の橋に、サノエ
立てばおばこの、　立てばおばこの
音頭するヨイサ花火にポン／／
揚かりやパラリと咲いてサヨイサ大曲ヨイト／／ヨイトサ

須磨家　小〆

五、飛騨のたくみが心をこめて、サノエ
宮も古四王に宮も古四王に鑿のあと、ヨイサ花火にポン〳〵
揚がりや、パラリト咲いてサヨイサ大曲ヨイト〳〵サヨイトサ

角館小唄

遊藝社風作詞
吉田勇作曲

一、ショブコ吹く子が、まつ赤な蕗で花場山の人こを呼べば、
ホウと答へる雪の頃にや、そつと芽ぐむよアラ戀心々々
二、螢よぶ聲、ふけゆく夜半の、川に舟うサ語らひあへば、
いつか河鹿の鳴音もたえて、月は小倉のアラ山に入る〳〵
三、大山嚊子、ドドドンと響きや
ウワーと、綱引くアンチヤメ達が
頭張る山車には人形がふろひ、踊るおばこの、アラ氣もふるふ
四、大徳山から、外の山かけて、雪よ降れ〳〵銀の山きづけ
つもる思ひをスキーにのせて、君とドライブアラしてみたい

おばこ節

○、お末娘たぼにたる、此の年暮せば十と七つ、十七おばこなど何し
て花こなど咲かないどた、咲けば實もやなる咲かないば
日かげの色紅葉
○、おばこ來るかやと、橋の袂さ寢て待つた、おばこ來もやせぬ
螢の虫こなど飛んでくる
○、おばこ腰卷、鶏ケ岡の殿さまのしぼり幕、切れた切間から
熊の皮の劍鞘の先見える
○、おばこ嫁にとる、泥鰌の娘など貰たとな、嫁も姑めも腰の
骨こないと見てちよな〳〵と
○、おばこ何處さ行く、太平べここ(牛)さ米こつけて、
べここ(牛)口說くには俺よなつまらぬもの婆婆にあらうば
(あらうか)べここさういふてけな(くれるな)米町そまか(直き)
そこだあべ(歩め)べここ
○、行ぐ潟尻の、太次郎娘のおまこ姉、姿七兩二歩、酌付三兩で五兩
まなく(眼)、それさ惚れたのは田澤の大工達かた惚だ、
○山田三千石、樋の口おはる姉梓ひきだ、梓は引きもせで、
かはい男の袖を行く

ひでこ節

○、十七こな、今年な、初めて山上りなコノヒデコナ
山上りな、山のな、麓の小屋かけてなコノヒデコナ、
小屋かけてな、脊にな、まさかり腰に山刀な、コノヒデコナ
腰に山刀な、いたやな、はなの木三十棚なコノヒデコナ
三十棚な、小澤な、小澤に張込めてな、コノヒデコナ
張込めてな、早くな、出したや出戸濟にた、コノヒデコナ
出戸濟には、積んでな、見たせや我が親にな、コノヒデコナ
(山の麓に小屋かけて、小澤々々に張込めてを省いて謠ふもあり
三十棚の次に伐らせ玉へや山の神を挿むもある)

田澤湖小唄

一、咲いた櫻の影さす波は、變るまいぞえ百歳千歳ネ、エーエ招ぐ
水の色サテ春の湖、
二、咲い白百合谷間の姫よ、闇の靜間に糸引く螢ネ、エーエ招ぐ水
の色サテ夏の湖
三、時雨々々に紅葉は染まる、月はさゝやく深間の秋をネ、エー
エ招ぐ水の色サテ秋の湖
四、つもる白雪スキーに疲かれ、
炬燵ながらに酒酌む宵はネ、ユーエ招ぐ水の色サテ冬の湖
五、辰子いとしやいとしや辰子、永遠の謎だよ神顔の辭ネ、
エーエ招ぐ水の色サテ姫の湖
六、鄙のおばこにさゝやく波は、日がな明け暮れさら〳〵さらりネ
エーユ招ぐ水の色サテ朝の湖
七、月は碎くるオールは動く、戀の小舟はユラ〳〵ユラリネ、
エーエ招ぐ水の色サテ月の湖

秋田の花柳界

秋田に來る人、心コ堅くもて
小野の小町の生れたところ、美人がうーヨうヨ
秋田は美人系統だと言はれる通り全く美人が多い。小野小町の誕生云
々は別としても、秋田を訪ふ人は本當に、心コ堅くして來なければ

たらぬ土地である。東京の或る新聞社員が秋田に數年住んで見ての上、斯んなことを口走つたことがある「實際に住んで見て美人が多いとツタ〳〵思つたよ、斯うして宴會に來て姐さん達を見てからは家の山の神は見られん、僕は一生の貧乏籤を引いたわけなんだ。君達秋田人は全く幸福だよ、美人の中に明け暮れ生活して、よい總買つて、甘味い酒を酌んで……」といふのである。惡口八丁のジヤーナリストの宜ふことから見ても、秋田の美人は如何に現實的魅力に富んで居り且つ多いかは、想像に難くないであらう。

扨て此美人の住家、即ち秋田市の花柳界をのぞくことゝする、花柳界といつても現在は秋田市には三段の別がある。即ち代表秋田美人を蔵するカハバタとアレの專門の常盤町、其又ダークサイドたる米町とがある譯だが、而し此場合秋田市の花柳界と呼び且つ通稱されてゐるところは、カハバタのことである、又た多くの場合此處を指して謂ふのである。

カハバタ即ち川反といふのは秋田市の中央を縱貫する旭川に添ふてゐる爲の地名である。川反三丁目、川反四丁目、川反五丁目、此三丁を母胎として帶の細路、三丁目の鈴蘭通りを相の路に結ぶ田中町、これが秋田市の花柳界の輪廓である。而して此中に彼女等の職場たる料理屋は約三十軒、そして御神燈の下つた彼女等の住家は總べて三十二軒、此中にネオンサインの輝くカツフエ、屋臺店、手輕な一品料理屋、喫茶店が夫々所を得て生活の糧を得てゐる。といつた態裕で、この川反通りは日暮れ頃から客足繁く、午前の二時、三時頃尙ほ絶えぬ賑はいを呈してゐる。

だが、君一杯行かう、といふわけで……とある料亭へ這入つたと假定し給へ、姐さんを二三人呼んでくれと女中に依頼する……彼女は今來る、といふ間を女中のサービスで盃を傾けてゐるか仲々來るといつて、來ない。君莫迦に姐さんが遲いんぢやないかと女中を攻めたてたところで始らないが、來ないものは來ないから已むを得ない。こんな場合、客は此所の家が惡いからだと直感したらそれは大きな誤りである。即ち彼女が何時までも來ないといふのは秋田市の花柳界は見番制度でない――といつたらその理由は判然とするであらう、尤も見番はあるにはあるが、それは金の勘定のみの見番でしかない。

だから彼女等は常に電話の鳴る音に敏感である。一本でも多く線香を賣るとすればする程……とは言ふもの丶然し彼女等を一旦氣持ちを呑み込める程、交際合つたら、それは占めたものである。これは一人彼女等ばかりの特性ではなく東北人の特質である。東北人は否秋田縣人を關西方面では、よく言へば素朴だといふ、惡く謂へばボンクラだといふが、而し一旦使用して見又は交際して見ると初めて言ふに言はれぬ敦厚なる人間味が分り其人情の深きに好感を持てるといふが、彼女等の場合も亦これと同一である「わたし今晩少し酔つてるの、でなくとも……今晩は何處へも行かないワ……ゆつくりやりませう」！

割烹　秋田倶樂部
秋田市龜ノ丁西土手町
電話一〇一・二〇一・三〇一番

名産稻福餅本舗　秋田市土手長町
食堂　稻福
お會合には二階を御利用下さい　電話一、〇六〇番

てなことになつたら、幾等どこから電話が鳴つて來やうが、そんなことは一向相手にせず客の歸るまで、何にかにとサービスして臭れる美點長所を持つてゐる。

尤も秋田市の花柳界には待合がなく、ない爲に一般から不便がられて居り、又彼女等は、ツンと澄まして、どつちがお客か姐さんか分らず而も其上藝なしだなんて小言も食ふことがあるが、又た必ずしもさう許りではない。數ある中には名取りは居り、若い妓は一心不亂に藝を勵んで居るから一時は日本唯一の藝者學校さへ、こさへたことがあり此所に通ふて、セツセとサービス學から常識學にいそしんだこともある位だ、だから必ずしも藝なし猿視する酷評は當らないのである。

此藝者學校が全國的に傳はつた頃は、よく秋田美人其儘を欲して來た人が隨分と多く、學校を面喰はした程であつた。美人國の美人姐さんなればこその申込である所に彼女等の幸福があるといふものだ。

此姐さん達は總べて六十七名、振袖姿の半玉さんは十九名計八十六名。此所數年來は其數に於て變化はないやうだが、それを大正十年前後に比較すると當に半減である。眼前にネオンサインが輝き、キヤバレイ、サービスを唯一の武器としてホールを泳いで居る女給群の日に日に增加する昨今であれば致し方もあるまいがそれにしても……茲數年來は寧ろ彼女等は增加傾向にあると見ることが出來るし、又た本當の秋田美人は對酌歡談して見て初めて分るといふものである。

次郎家　雪津　芳也　玉に　鶴代

秋田倶樂部

國立公園の十和田を持ち、東北唯一と稱せられる千秋公園の地元、まして灌を凌ぐ酒の國、秋田美人の本場として產業往來の頻繁な今日料亭、倶樂部の賑はひは誰しも想像される處だ、こうした環境と趨勢に近來著しく簇生湧出したカフエー街の渦卷にまき込まれることなく飽くまで秋田情趣のサービスを目標に不動の料理王國を堅實に營みつゝ嚴然たる偉容を保ち、吾等の矜持を高からしむるもの秋田倶樂部の存在である。秋田市は本縣文敎、政治の中心であり、景勝殊に近年躍進の產業、景勝觀光の覇客逐年多きを加る時、酒の國秋田の饗宴場として秋田の社交場として倶樂部の存在は益々重要性と發展性を有するものである。

次郎家　雪津　芳也

創業は明治三十四年、總坪數二千五百有餘、建坪八百有餘坪、往時の數掘水面積千五百餘坪を埋立てゝ、さらに大正十三年新館大宴會場を總經費十萬圓を投じて新築、ついで昭和五年經費五萬圓で洋食堂(演舞場附)を新設、龜ノ丁西土手町から土手長町末町に跨る廣大な地域に輪奐の美を恣にし旭川の淸流を脚下に、大庭園は市下水道完成と共に庭內を貫流せる舊下水道を拂下げ面目一新して、大澤布に、深流奇岸怪石をあしらひ晩春の躑躅、夏時の爽凉、秋は紅葉と居ながらにして心の儘の仙境を現出し、林泉の美は東北斯界の名園たるに恥じない、本年中には廣大なる地域を利用し林泉の間間に瀟洒な離れ座敷數棟を建設する豫定である。

大津家　電話三二八番　芳也、小判、千也、鈴也

春の家　電話五七二番　きくや、みのる、濱勇、春美、のぼる、ひな菊

叶家　電話六七二番　きん子、みよか、叶二、

玉本　電話五五四番　やす子、その子、なを子、ふみ子、小八重、秀次、八千代

若竹　電話五一一番　露香、金龍、をはん、一丸、英子、香代子

松末廣　電話九六三番　老松、松千代

福家　電話七四一番　駒子、富菊

鹽よし家　電話一二四番　千兩

竹鶴　若竹　香露

葛家　電話七一〇番　政榮、葛龍

本川家　電話一二八番　慶子、守

川崎家　電話八一六番　妙子

葛よし　電話八五一番　福代、玉太郎

新旭　電話一〇六番　千代菊

亀濱　電話一一七六番　花奴

時吉家　電話六一二番　靜子

末廣家　電話五七番　牡丹、やま子

旭家　電話二五七番　丶助、勝江、小鶴、菊丸

大黑家　電話一三五番　玉蝶、小ゑん、一彌、福壽

若柳　電話五五二番　吉代、若吉、房子

玉よろ津　電話二六二番　こん、誠

玉香和　電話七九一番　千代子、美惠子、のんき
玉家　電話三一二番　八重、たまみ
花旭　電話六二五番　ぼん子、小初、豊香、花榮、花勝、岡香
末よし　電話四一五番　千代香
分大津　電話七四八番　小春、小奴
新吉田家　電話五三二番　小高、高子、ゑつ子
花川家　電話一〇五二番　新子、新奴
富貴の家　電話八五九番　菊龍、京香
玉榮　電話三一四番　とし榮
分春喜　電話四七三番　綾香
壽々本　電話六〇二番　里千代、萬里、澪美子
龜喜　電話六五六番　和光、れん子、小夏、梅丸

食堂稻福

高級にして、而かも氣輕に食事が出來る特色ある食堂として斷然群芳を壓し旭日昇天の業績にあるもの食堂稻福の現況である。稻福は秋田名物稻福餅の本舗で、食堂を開始したのが、つい近年のこと、場所は縣廳近くの旭川のほとり、こゝ許りは酒を用ゐない食堂でありて（但しビール等は注文によつて出す）上品な、そして安心の出來る食堂といふので、紳士、淑女、學生或は家族連れの客が公然と出入する、ほゝ笑ましくも朗かな食堂として市民が多年要望したものゝ現はれとして喜ばれてゐる。

「秋田へ行つたら稻福」にといふことは縣下一般に氣持のよい常識として知られてゐることも、こうした特異の經營なればこそである。和洋食の一切、稻福餅を初め市名産の珍菓等御注文次第何でも、美しい女給さんにチップの心配もなく悠くり召し上られるといふので、縣廳、警察、市役所、鐵道方面等の酒や藝者入らずの宴會は常に獨占を極めてゐる有樣である。

分春喜　綾香

朝日亭

土手長町から南へ夜の秋田を漫歩する人は紘猷の茫を映すネオンの殿堂朝日亭を見るであらう、これぞ東北カフエー街の王座朝日亭の美觀である、經營者は上野大助氏といふ鶴岡出身未ださんざめく川反の掌裾を流るゝ旭川に靡然たる光四十前の奮闘盛り立志傳中の快人物だ、昭和三年舊主人の後を襲ふて朝日亭なる洋食屋を開業、忽ち信用を得て現在の場所に工費諸設備品二萬數千圓を投じて市廳一のカフエーを開業したが昭和六年であつた爾來諸調度に意を注ぐと共に神戸肉を取り寄せ一層の好評を博し遂に店舗の狹隘を告ぐるに至つたので昨年投資二萬圓階上大小和洋室八つ和室の廣間五十人、洋室廣間五十人の宴會が出來、バーは二十八テーブルあり女給の數四十名を算し、名實共に東北一の偉容を整ふるに至つた、更に支店「大朝」をも經營し和洋食の外鍋類、本縣名物切タンポをも調進し、尙ほ將來の飛躍を念願經營に腐心してゐる。圓滿の人格の中に仁俠に富み舊主人荒木氏の靈を實父以上に祀つてゐるなど、氏の人氣と今日の成功を頷かせるものがある。

朝日亭

カフエー鳥久

川反のやうな柳暗花明の場所とは異るが、川口方面に近い新城町にコンクリート洋館の屋上高く翩翻とはためく鳥久の旗が目につく、盛り場のカフエーが開散でも竝ばかりは常に多忙であり朗かにさゞめく賑かさを絶たず業者羨望の的となつてゐるか、何が鳥久の人氣を高からしめてゐるか、つまり經營者の努力であり商賣熱心である。盛り場に負けないといふ熱意、それがお客の經濟に料理の味覺に、女給のサービス等各方面に現はれて大衆心理を確把するのだ。飽くまで顧客本位の同店では昨年から「東京生そば」專門部を設けて人氣を博してゐるが、經營主鈴木久

喜久子

治氏は推されて同業の組合長として業界に貢献してゐる敏腕の人である。

その他市内には秋田倉館、カフエー石川、カフエーナショナル、カフエーバツカス、カフエー平和、カフエー孔雀等二十軒近くある。

食堂では、秋田食堂、村山食堂、公園食堂等何れも繁昌を極めてゐる。

秋田縣民謡

佐藤健一作詞

一、りんとな、りんとりんりん、　秋田御城下二十萬石佐竹様、
赤い日の丸扇の御紋、　さつさ招けば日が昇る、　はーさて、
ちよつきりよい秋田、　ちよつきり、ちよつきり、よい秋田
二、りんとな、りんとりんりん、　山は鳥海、　桔梗咲いたに、
雪化粧、傘がほしけりや、　露とりなされ
くるりかざせば、濡れやせぬ、　はーさてちよきりよい秋田、
ちよつきりよい秋田
三、りんとな、りんとりんりん、　湖は田澤湖、水晶溶かした、
水の色、　たたけ船ばた、　お酒も自慢、　酒のさかなにや
おばこ節、　はーさてちよつきり、　よい秋田、　ちよつり
ちよつきりよい秋田
四、りんとな、りんとりんりん、男鹿の出船は、男度胸の見せどころ
濱は時雨が、ちら〳〵灯り、　とれよ雷魚海の幸、　はーさて
ちよつきりよい秋田、　ちよつきりちよつきりよい秋田
五、りんとな、りんとりんりん、　茂る浴(よく)並(なみ)松、　月の青さに、
夜がふけて、　町ぢやあの子が雪袴(ゆきはかま)で待ちやる
いそぐ馬橇の鈴のおと、　はーさてちよつきりよい秋田、
ちよつきりちよつきりよい秋田

酒の秋田

小島筱雄作詞
中山晋平作曲

一、朝にや米とぐナー、　朝にや米とぐ米とぎ水の、白くながれて、
雪となる、　秋田米の國テサテサテさて酒の國、　くんで行かんせ、一夜さは
夜があける、　秋田米の國テサテサテさて酒の國、
くんで行かんせ、一夜さは
三、ふねにや醪をナー、　ふねにや醪をどと汲みいれて、
ぎゆつと　しめればかねの水、　秋田米の國テサテサテ
さて酒の國、　くんで行かんせ一夜さは
四、樽になる杉ナー、　樽になる杉ふか雪そだち、　つめるお
酒も雪そだち、　秋田米の國テサテサテさて酒の國、
くんで行かんせ一夜さは

秋田自慢

花岡青鳥作詞
曲は「酒の秋田」と同じである

一、春にやお城ナー、　春にやお城の
櫻の花に、　ぱつと心が、若かへる
秋田米の國テサテサテさて酒の國
海と山とのさちの國
二、夏にや行きましよナー、　夏にや行きましよ、
十和田の湖へ、　神のめぐみの青あらし、
秋田米の國テサテサテさて酒の國、　海と山とのさちの國
三、秋にや見せたやナー、　秋にや見せたや、
見わたす限り、　お國じまんの、稻の波
秋田米の國テサテサテさて酒の國、海と山との、　さちの國
四、冬にや降るふるナー、　冬にやふる〳〵ふる雪晋に、
語りつきせぬこたつ酒、　秋田米の國テサテサテさて酒の國
海と山とのさちの國

牛なべと
御料理
秋田市川反三丁目
丸勢
電話四四八番

川端小唄

一、秋田よいとこ、お米が出來て、　お米潰して酒作る、
ヨイ／＼ヨイトナノナ

二、酒がよければ、女もよくて、　小野の小町の種切れぬ、
ヨイ／＼ヨイトナノナ

三、杉に名高く、櫻の花も皮も　美くし樺細工、
ヨイ／＼ヨイトナノナ

四、金銀細工と、女の心、交じりないのを賣りものに
ヨイ／＼ヨイトナノナ

五、掘れば湧き出る、石油の力、自動車飛ばすも私ゆゑ、
ヨイ／＼ヨイトナノナ

六、歌へ踊れや、川端柳、　音頭飽きたらオバコ節
ヨイ／＼ヨイトナノナ

七、蕗の傘、相合傘に、　どうせ濡れましよ破れ傘
ヨイ／＼ヨイトナノナ

八、紫紺の布團に、八丈のドテラ、　世帶もつとは夢らしい
ヨイ／＼ヨイトナノナ

新秋田音頭

佐藤豐之助作詞
佐々木紅華作曲並編曲

一、ハア、盛る秋田は佐竹さま、　千兩萬兩の米どころ、
ハア千秋公園花どころ、　サテヨイトキタサ、

二、ハア、ねぶり流しの勢ひは、　秋田ヨイ／＼ヨイトコリヤサ
ハア燈す土崎雄物川　とめてとまらぬ雄物川、

三、ハア、能代木材でもつ川でもつ、思ひきる氣か切らぬ氣か、
ハア思ひきる氣は更にない

四、ハア、小野の小町は、國の花、　あたしや男鹿で、海の花
ハア逢ふてならんで、エクリ舟

五、ハア、小坂戀しや、顏見たや、　つきぬ情の、露天掘
ハアつきぬ寶の露天掘

六、ハア、意氣ぢや大館、　日本一、　可愛毛並は、秋田犬、

ハアいとし毛馬内秋田犬

七、ハア、さして行きましよ、蕗の傘、大湯大瀧お湯の雨、
ハア大湯大瀧戀の雨

八、ハア、雪は本莊か、置炬燵、　ぬしは象潟、合歡の花、
ハアぬしはとろりと、合歡の花

九、ハア、綺麗よいのが秋田富士、　春は横手の、花かすみ、
ハア大曲から、うす化粧

十、ハア、明けりや湯澤の、春景色、秋田娘は、雪の肌、
ハア酒は人肌雪の燭

土崎の花柳界

此町の花柳界は昔時の港ッ子氣分の餘風をうけて美人も多く、遊興氣分が面白い爲に、秋田市から態々泊りに行く人や、秋田に泊らずに土崎に泊りに行くといふ粋人も少くない、大正の末期から昭和の初葉への盛んな時代は藝妓が六十名も居つたものが現在は四十名足ずである、しかし昔の船着き氣分が殘つてゐて、快活でそして俠氣と情味に富み、座持ちのよいことは、他の追隨を免ないものがあり、所謂藝者氣分なくお客と一緒になつて遊ぶといふ藝者の特徴がある、而も秋田が近く川反藝者と顏を合せることもあるので藝道精進は大したもので、東京から一流の師匠を聘して不斷の研究と努力をつゞけてゐる。一流どころでは何といつてもぼん子、千成、照千代、清香などが港美人の代表であり**ぼん子**は咽喉自慢で、岡本新内の名手、陽春四月東京有樂座に於ける水谷八重子の舞踊に同僚八千代の三味線でぼん子が歌手として出場することゝなつた。

常盤屋　ぼんこ

千代子　本代子　成子

千成　美貌な上に年增の女盛り、彼女も唄ときては天性の美聲で、ポリドール其他へ幾度か吹込みして天禀は普く知られ、而も元氣潑剌ヘナ／＼男子を蹬蒼たらしめるものがある。

照千代　上品な美人型で、彼女の踊と來ては天下一品、斯道では名取の域に達してゐる。

清香　彼女の盛なりし時の美貌は誠に秋田美人の典型として多く

の人の羨望の的となり侯爵君倉其張氏が、彼女の美貌に滞留數月歸るを忘れしめたといふロマンスは土崎花柳街のプライドとして當時相當騒がれたものであつた。

池鯉亭　何處の町へ行つてもその町を代表する料亭があるが、秋田で倶樂部といへば土崎では誰しも池鯉亭を聯想する、同家の創業は今から八十年許り前、船問屋たりし祖父越中屋松之助氏が新屋武士板垣武助といふ人から現在の場所を買上げ別莊としてゐたが、依頼さるゝ儘に料理を客へ出したのが因縁で本物の料理家になつて了つたといふ、船問屋迄した祖父の時代から金にあかして造作した典雅な客間、贅澤な調度、大規模の庭園、庭園には同家々寶たる加藤清正が朝鮮征伐から持つて來たといふ大手洗石長九尺六寸巾二尺一寸高三尺二寸がある。清正が凱旋後豊公に獻じたものを秀吉から東家佐竹大和へ賜はり明治二年廢藩置縣と共に當亭に賜はつたものである、早くからこうした斯界の名家である丈一世の宰相犬養毅氏が名妓お鐵との往事を追憶した有名な詩、憶昔曼陀羅坊中選の文中に「猶記旭川春雨夜、又記池亭別離時」の池亭は池鯉亭である、如何に同家が業界に於ける權威であつたかゞ頷かれる。

池鯉亭の庭園

當り矢　土崎の花柳界に池鯉亭に對抗し得るものは武田亭であつた、同家が廢業したことは一種の驚愕と一沫の寂寥を感じさせたが彗星の如く現はれ經營至難の業界に獨自の經營圖に當り、躍進正に先進の壘を摩せんとするもの剽窃當り矢の現況である、何が當り矢をして當り得しめたか、それは一度行つて見ることによつて初めて頷かれること勿論であるが、こうした業界は何といつても氣分である。比較的經濟的に而も氣分よく遊んで來られるといふことが、人氣を湧さたゝせる第一の要諦である。こうした氣分の當り矢の前途益々洋々たるものがある。

みなと小唄　西條八十作詞　中山晋平作曲

一、港よいとこ佐竹さんの御門、
　長いまた廊下が、チヨコチヨイサカチヨイ／＼／＼
　長いまた廊下が雄物川、
　ヤレキタ秋田ノ港町置イテケ積ンデケ、
　ギツチラホ
　濱邊サ荷ノ山エタントタント、　ハアオタントタント
二、立てた勳の名も高清水、　眠りまたさますな、チヨコチヨイサカチヨイ／＼／＼
　眠りまたさますな沖津風
三、湊よいとこ降る雪よりも、　白いまたお米の
　チヨコチヨイサカチヨイ／＼／＼、
　白いまたお米の船が出る
四、根雪や流れる土藏石ア沈む、　晴れのまた築港も、
　チヨコチヨイサカチヨイ／＼／＼、
　晴れのまた築港も近くなる
五、樣の來る夜は宵から知れる、　かんだまたブリコの、
　チヨコチヨイサカチヨイ／＼／＼
　かんだまたブリコの音のよさ
六、春が戀しきヤサバグチ出しやれ
　曳けばまた曳かれてチヨコチヨイサカチヨイ／＼／＼
　曳けばまた曳かれて春も來る
七、春の立つ日の男鹿山見たさ
　雪にまた顔出すチヨコチヨイサカチヨイ／＼／＼
　雪にまた顔出す露の鑿

分武春　謹子繪　代作

雲　演

ハタハタ音頭

金子洋文作詞
小松平五郎作曲
石井漠振付

トレダエハタ〳〵、　ハダ〳〵大漁ダ
一、沖にや雷魚、　霰コころころん、　小寒大寒
　姉さんどさ行ぐす、　トレダエ、ハタ〳〵、　ハタ〳〵大漁だ
　ヨンシヨ、ヨンシヨ、ヨンシヨ、ヨンシヨ、エンヤラホイ、
　ヨンシヨヨンシヨヨンシヨヨンシヨエンヤラホイ
二、波をけやぶり、　出て行く舟よ、
　いさむ鉢巻、　鴎も一緒だえ
三、大漁だ、　大漁だ　ハタ〳〵大漁だ
　唄へはやせや、　濱邊はお祭だ
四、戀のハタ〳〵、　はらみごハタ〳〵
　まんつみごとだ、　鹽汁貝鍋だえ

秋田縣土崎港町

當り矢

電話一二五番

割烹

五、白子の貝鍋だ、　お兄さんお母さん、　嫁コ兄さん
　仲よく食べれしやえ
六、吹雪の音やら、　ぶりこの音やら
　なんとうめすべ　頻べダコおちるすべ
替唄‖何とお前はん、だんだん酔つて來たす
七、秋田の名物、　鹽汁貝鍋だ
　すしのハタ〳〵何處でも大評判

船川の旗亭

恵比壽家（組合長）　電話一〇一番
旭　家（副組合長）　電話六九番
八千代倶樂部　電話一三八番

萬　家　電話一一二番
叶　家　電話一一八番
大黒家　電話一〇二番
丸　家　電話四六番
第一新開亭
堀　亭　初　香
カフエー小春
カフエー吉野家

能代小唄

能代藝妓見番作詞
古賀政男作曲
花柳徳三郎振付

一、能代よいとこナー、　木材港、
　杉の匂ひにエー、　金が降る、
　サッサソレソレヨーイサ、ヨイヨイ
二、煙たなびく、　米代ほとり、　あれは能代の製材所、
　サッサソレソレヨーイサ、ヨイヨイ
三、祈る誠は、　濃い紫に、　神代ながらの藤が咲く、
　サッサソレソレヨーイサ、ヨイヨイ
四、能代若衆の、裸の群は、　山王みこしじや、ヤレ囃せ、
　サッサソレソレヨーイサ、ヨイヨイ
五、太鼓とどろく、笛の音流る、七夕燈籠に、夜が更ける、
　サッサソレソレヨーイサ、ヨイヨイ
六、能代をなごと、　春慶ぬりは、淡い色香で、慕はれる、
　サッサソレソレヨーイサ、ヨイヨイ
七、能代梨なら、　甘露の味よ、たべるたびごと、身が溶ける、
　サッサソレソレヨーイサ、ヨイヨイ
八、能代公園、眺めはつきぬ、　沖の白帆に、浪の花、
　サッサソレソレヨーイサ、ヨイヨイ

つちざき　はなわ

九、公園下には、松原つゞく、　玉の松露に、黄金茸、
　サッサソレソレヨーイサ、ヨイヨイ
一〇、昔廓の、面影のこる、　色香つきせぬ柳町、
　サッサソレソレヨーイサ、ヨイヨイ

新大館小唄

三村雄吉作詞
大村能章作曲

春、春にや花咲くお城の跡は
　昔ながらのきりようよし、　水が化粧するさくら花、
　ハア大館よいとこ花の町
夏、夏にやうれしい長木の水べ、
　月の出しほに十和田の歸り、歸り迎へて灯がともる、
　ハア大館よいとこ月の町
秋、秋にやよせ來る小菊の波を、
　お倉一ぱい八千石は、菊見の國の切たんぽ、
　ハア大館よいとこ菊の町
冬、冬にやつむ雪スキーですべる、
　桂男の子は雪そだち、　意地ぞ見せたや秋田の犬を
　ハア大館よいとこ犬の町

花輪小唄

瀧杉露堂作詞
小田島樹人作曲

一、花の名どころ、お酒の出どこ
　鹿角花輪は、うたどころ、　サーアサ花輪は唄どころ、
二、たてたいさをの、名も櫻山、
　昔名殘の、　鐘が鳴る、　サーアサ名殘の鐘がなる、
三、にらのかけ橋、ひにもえさかる、
　ねむり流しの勇肌、　サーアサ名殘の勇肌
四、ドンと叩いた太鼓の拍手、
　甚句をどりの、あだ姿、　サーアサ踊のあだ姿
五、岸は灯の町、新山端に、　ぬれて見たさを、
　逢ひにくる、　サーアサ見たさを逢ひにくる
六、躍るスキーに、おもひを乘せて、　雪の西山、
　誰をまつ、　サーアサ西山誰をまつ

本莊三組業合長　檜岡新五郎氏

その昔――といつても、さまで古くはない。日本海岸の要津として新潟酒田などゝ共に股賑を誇つてゐた古雪港は、千石船が横附けになつて由利全郡の物資を一手に引受けてゐた。其處には又幾多の秘話情史が當然織り込まれてゐらねばならぬ……華かな波戸場風景や何かと夢のやうに偲ばれるといふ『昔を今にするよしもがな』とは言へ乍ら、決して出來ない相談ではない。町理事者の奔走全町民の熱望はある程度の奏功して、子吉河畔の築堤となりわが古雪港（本莊港と改稱さる）の荷上場の改修となつて、今一息で河口の開濬も實現すやうとしてゐる。

町を縣を、そして國を動して此處までに至らせた隱れた恩人に町議檜岡新五郎氏を見る。彼氏は町政に參與する外、其宰する三業組合の振興發展に對し日夜苦心してゐる。新名勝地としての菖蒲園に寄せた心つくしは等しく知られ、又所謂藝者學校を開設して其向上を圖るなど、懷古類慶の氣分體型を排し明朗本莊の建設に一役買つてゐる。

隗より始めて其經營にかゝる旗亭の内外を完備し近代化した施設とサービスは多とすべきであらう。

はなわ　ほんじょう

本莊追分

○本莊名物燒山のわらび、
　燒けばやくほど太くなる、　キタサー
○あちらこちらに野火つく頃は、
　栁も櫻もともにさく、　キタサー
○出羽の富士見て流れる筏、
　つけば本莊であかり酒、　キタサー
○本莊名物夕陽か赤い、
　濱の玖瑰なほ紅い、　キタサー
○本莊よいとこ海邊の町よ、
　山のたからを船で出す、　キタサー
○江戸で關とる本莊の米は、
　おらが田圃の田でそだつ、　キタサー
○本莊名物燒山のわらび、
　小首かたげて思案する、　キタサー
○本莊名物燒け山の蕨、
　折る人なければほだとなる、　キタサー
○花はさく／＼御手作堤、
　心一重の花かさく、　キタサー
○布團着たよな日住の山に、
　帶こといたよな子吉川、　キタサー
○立石堂の立石堂の坂で、
　ホロリ泣いたり泣かせたり、　キタサー
○本莊追分聞かせておいて、
　生きた魚を食はせたい、　キタサー

臼挽唄

○送りませうか送られましよかエー
　せめて矢走の茶屋までもエー
○婆も婆だしおけさもおけさエー
　今朝の鹽辛汁鹽があまいエー
○臼のろくろさ小豆餅上げたエー
　廻るたんびに一とかじりエー
○淺いけれども硯の海よエー
　深くかき出す筆の先きエー
○裏の小窓から萱蘭玉投げたエー
　今夜來るとのしらせだかエー
○山で風引いて馬から落ちでエー
　泳ぎ知らないで燒けになたエー

本莊の旗亭

自山亭、　かもめ、　サンロ春、　和樂美、
松芳櫻、　吉能家、　一よし、　甚能亭、

本莊小唄

若松太平調作詞
小島餃謹作詞
小田島樹人作曲

一、花は、花は鶴舞お城の跡に、
　崩ゆる蕨は燒山に、　燒山にほんに本莊はネ、
　ほんに本莊はよういとこ
二、町は、町は子吉の川風吹いて、
　朝市通ひも主のため、主のためほんに本莊はネ
　ほんに本莊はよういとこ
三、かたい、かたい約束わしや石の脇、
結ぶ二人は橋の月、橋の月、　ほんに本莊はネ
　ほんに本莊はよういとこ
四、寄を、寄をふる雪積ろとまゝよ、
　ほんじよう

ほんじょう
やがて炬燵にとける仲、とける仲、ほんに本荘はネ
ほんに本荘はよういとこ
五、アヂヤコ、アヂヤコ行きまほお城の山さ、
たぼかバッケが生いたやら、　ほんに本荘はネ
ほんに本荘はよういとこ
六、夏の、夏の涼みは新由利橋で
月の出頃を待つがよい待つがよい、ほんに本荘はネ
ほんに本荘はよういとこ
七、がにの、蟹の赤さが貞實たらば、
蝦の赤さも伊達じやない、伊達じやない
ほんに本荘はネ、ほんに本荘はよういとこ
八、光る、光る銀盤スキーは躍る
止めて止まらぬ涯までは、涯までは、
ほんに本荘はネ　ほんに本荘はよういとこ

城は二石萬

小島夜雀作詞

一、城は二萬石今咲く花に
昔戀しと鳴くひばり
二、雲雀鳴くなく春野の小徑
それを知らずに逢うた人
三、人を手吉の河口近く
夕日うけうけ歸る船
四、船が歸ればかもめが迎る
何をお臭れと泣いて迎る
五、めぐる小車因果の車
とめてとまらぬ戀車

人と事業

（順序不同）

秋田は天産豊かであると共に人物も多い、而し茲に掲載するものは必らずしも偉人とか人物とか稱せられる人々に限らない、只秋田（或は全國）を背景に活躍してゐる現代の凡ゆる方面の人々、即ち政治家、慈善家、實業家等を掲載したものであるが一方的に偏し一小部分であることを遺憾とする

湯澤町長
雄勝郡町村長會長

今泉秀理氏

湯澤町
明治四年一月二十日生

産業の町、躍進途上の潑溂たる活況を呈する湯澤町の町宰として、本年又滿場一致で三期目の當選を克ち得た今泉秀理氏は亡秀實氏の長男に生れた、今泉家は昔から佐竹南家の重臣で、今でもお邸（佐竹男爵家）のことは大小となく顧問相談役の地位にある。少壯時代は漢學は井上沈流先生や秋田の稲川直清先生に學び劍道は、三好種武、坂野貞照兩教士に學んだ、早くから町會議員に當選し、郡會議員にも郡制廢止まで諤々の辯を振つたものである。昭和三年一月推されて町長に就任、爾來精勵恪勤、一吏員と異らず、殖産町勢刷新に努め長年紛爭した女學校問題も、氏在職中解決を告げ南線道路及鋪裝道路の完成並に多年不自由と不體裁を忍んで來た湯澤驛の改築等氏在任中の功績として讃へべきであらう。氏は刀劍の鑑定家として知られてゐる。

錦平酒造組合長
町會議員

伊藤仁右衛門氏

湯澤町前森
明治十六年一月一日生

兩關本舗の主人公として氏の名は全國的に知名であるが海外に迄知れ渡つてゐるのは銘酒兩關の進出によるものである。しかし個人的の

伊藤氏は兩關をして今日あらしめ醸造家として偉大な存在であるが、更に崇高な人格者であり偉大な德望家として鄕黨の信望を一身に蒐めてゐることである。氏は先代仁右衛門氏の長男として一月一日の吉日に生れた。銘酒兩關が斯界の王者たることは既述の如くであるが氏は衆望により先代の後を繼ぎ雄平酒造組合長で繼續今日に及んでゐる。表面的に立ちことを好まず、しかし町民の輿情もたし難く町會議員として永らく町政に參與し重きをなしてゐる、令嗣　一太郎氏は横川の醸造試驗場に入り醸造の蘊奥を究め、中から藏前高工を出で滝野川の醸造試驗場に入り醸造の蘊奥を究め、大正十二年十二月一年志願として秋田歩兵十七聯隊に入營、除隊後昭和二年少尉に任官、同年四月推されて雄勝聯合分會長に就任したかその後中尉に昇進、引續湯澤體協副會長、湯澤町農會長等々多士濟々の湯澤町に於て名譽ある公職は凡て氏に白羽の矢が立てられ父君の血を引く氏は表面的のことを好まないが斷るに斷りかねる純情の人格者である。趣味は劍道、弓道等男性的方面何でも御座れの天才的であり特に將棋は五段で郡内は勿論縣内に於ても有數の強豪として知られてゐる。尚は同家は昭和四年九月陸軍大學の將校演習の際、朝香宮殿下御泊り遊はされ御滿足の御言葉を賜はつた光榮の家である。

湯澤消防組頭
湯澤商工會長
湯澤町會議員
山内三郎兵衛氏
湯澤町　吹張町
明治十九年六月十五日生

縣南切つての素封家といふより德望家として知られてゐる現代山内三郎兵衛氏は同家今日の基礎を築き慈善家として慈父の如く町民から慕はれた五代目三郎兵衛氏の令孫に當り、幼にして父君に別れ此偉大なる祖父によつて人と成つたのである。祖父三郎兵衛氏は理財の道に傑出し本縣財界の横綱格たる辻、本間兩家の基礎を築いた先代金之助氏及兵吉氏の令兄に當つてゐる。一面博愛仁慈の志厚く「おのが家の衰へ如何に人の爲、世の爲、盡せ世の中の人」と詠んで石に刻み之を信條として終生慈善に努めた、湯澤町に於て碧蒼末に、澄り主不明な白米が極貧者數十戸の家にサンタクロースの如く三十年近く配られたといふ床しい偉大なる行爲は餘りに著名なことである。この血統を受繼ぐ現代三郎兵衛氏は、湯澤町が從來火災多く、一瞬にして巨萬の資を灰燼に歸する町民の恐怖を除くべく推さるゝ儘に大正六年消防組頭となり、從來の腕用ポンプを全部ガソリンポンプに替へ、大正十四年の大火に鑑み、町に數萬金を貸與して自動車ポンプを購入せしめ、尚ほ故障などの萬一を慮り、自費を以て冬期專用ポンプを購入、更に使用人を以て帶三消防隊を組織して町民の安全感を強固にしてゐる。消防は機械より人である。即ち消防精神の作興にあるとて公設消防手百數十名に自費を以て保險に加入せしむるといふ徹底振りであるが、こうした徹底した社會奉仕の精神は各方面に及び幾多の美事德行に對し警察部長、及知事より幾度か表彰された。氏の德望を慕ふ人々によつて山内會、恩顧を受けた人々によつて帶三會が組織される等ほゝ美ましい感恩報謝の花を咲かせてゐる。

湯澤銀行監査役
湯澤消防協會々長
小川辰之助氏
湯澤町　大町
明治二十八年六月一日生

縣下財閥の雄、湯澤銀行頭取たる小川長右衛門氏の御曹子辰之助氏は慶應大學出身の平民的な紳士で、父君を代理する銀行の多忙の傍ら推されて昭和三年以來湯澤體育協會長として獻身的な努力をしてゐる外に雄勝郡議會特別議員として郡議事の改良發達に寄與する所頗る大なるものがある。近年農村の疲弊その極に達し田園正に荒蕪に歸せんとするとき、父君と共に農事の改良發達に意を注いだが昭和六年には年々旱害に惱む明治村の爲、自費三萬圓を投じて同村堀之内に大貯水地を築造し、同地方農民をして旱害の憂なからしめ、いたく感謝されてゐるが、更に昨年縣下にセンセイションを捲き起した快ニュースは、氏は現下の世相に鑑みる處あり、私財十萬圓を提供して小川報恩會を設立し、郡内貧困者の醫療救護、湯澤町居住者の災害罹災者救護、湯澤町小學校貧困兒童保護學用品給與、其他社會事業を援助するといふ計畫であり、かねて財團法人として設立申請中の處、本年二月愈々設立認可と

なつたので、同氏の今後に於ける實業的社會的活動こそ刮目に値するものがある。

縣是秋田製絲株式會社專務取締役
秋田木工株式會社取締役
增田水電會社取締役
湯澤町會議員
小川德助氏
湯澤町金澤
明治十三年一月十四日生

縣是秋田製絲、增田水電、秋田木工、湯澤運送株式會社、長坂商れ湯澤鐵工場等縣南有力會社の社長、專務、監査役等である小川德助氏は縣南實業界の逸材である。氏は湯澤町久四郎氏の二男として生店たが、令兄市太郎氏は長らく大阪毎日に健筆を揮ひ樞要の地位を占めた人で本邦言論界の雄であつた。令弟たる氏は學歴とて湯澤小學校を出た丈で、卒業後京野呉服店に奉公した、明治三十七八年には第八師團兵站部付として出征し凱旋後再び京野呉服店に勤務した、四十三年辭して雄勝製糸會社に行つたが、實業家として活躍する大スタートは此時切られたのであつた。本縣隨一の養蠶郡雄勝を根據として本縣蠶糸業界に盡した業績と功勞は、郡是製絲の波多野鶴吉翁にも比肩すべきである。氏は白哲溫潤のうちにも商機敏活而も氣宇濶大、大山前に劇るゝとも動ぜぬ度量の持主であり、氏の前途は未だ〳〵洋々たるものがある。

秋田醸造株式會社專務取締役
伊藤忠吉氏
湯澤町前森
明治十年三月十日生

灘の銘醸を滲駕し、秋田酒をして業界に君臨せしめた功勞者、本縣醸造界の父として斯界敬慕の的となつてゐる伊藤忠吉氏は横堀町戸澤了然氏の二男西南戰爭の年に呱々の聲を擧げた人で、明治三十四年伊藤家へ養子となり醸造業に從事した。醸造こそは氏に惠まれた偉大な天分であつたのか忽ちにして入神の技を會得し東北一の名杜氏として

先づ兩關をして日本一たらしめ、次いで縣外輸出を目的とした燗漫の專務取締役として同酒の醸價を高からしめたのも、皆な氏の力に依るものであることを誰が否定し得やう、さればこそ氏の教を受けたもの東北に於て數百名に達し又東北、全國の清酒品評會に於て審査員たること數十回に及んでゐる。尙ほ秋田杉の清酒樽材適否試驗を昭和四年より三年間に亘り試みて、吉野杉同樣價値ある折紙を附したことも氏の一大功績である。昭和十年兩關第二工場落成と共に新宅に移り兩關及君德の醸造に精進してゐる。

前縣會議員
雄勝中央病院專務理事
入江五郎氏
湯澤町
明治三十年六月十八日生

入江家は湯澤町の名家である。一門宗族からは松井庫之助中將、國士で國體擁護聯盟を主宰する入江種矩氏や直情經行の入江大尉(三郎氏)を令兄に持ちながら、かつては無產運動に身を投じ活躍した變り種であつた。無產運動から手を引いたもの、惠まれざる人々を以て味方とし、それ等の人々に慰藉と安心を與へることは氏の念願であり、使命である處から敢然挺身大衆醫療の殿堂、雄勝醫療組合を完成せしめた。創造と剛志滿々たる氏は之のみを以て滿足するものでない、今後の氏の躍進こそ刮目すべきであらう。

湯澤總思議理事
婦宗
奥山六右衞門氏
湯澤町吹張
元治元年九月十二日生

愛宕公園建設者として知られた先代六右衞門氏の長男、小學校卒業後、泉勸農服店の店員となり、壯年時代はよく政治を談じ、町會議員郡會議員としても重きをなし、湯澤區裁判所復活問題等では山内三郎

横堀酒造合資社々長
鷹之湯温泉株式會社々長
横堀消防組頭町議會長

小山田八兵衛氏

横堀町　明治十一年四月廿二日生

和製エヂソンのネームを奉られる丈け發明、考案の天分に恵まれた人で、銘酒名月、鷹之湯温泉を經營して今日の隆價を博する多忙の傍ら大正二年五月小山田式液體濾過器の專賣特許を初めとし蒸口消火器、空壜洗滌器、八明燈、電燈反射笠、液體自動樽詰器等の外昭和七年には、米の乾燥に黎明を齎した小山田式穂鳥覆笠を發明して郷農界に多大の貢献をなし等百數十件に及ぶ功績により昭和六年十月帝國發明協會長より表彰されたことは同家永代の光榮である。

令嗣兵太郎氏は、秋中から早大を出で、家業たる銘酒名月の醸造と鷹之湯温泉の發展に献身してゐるが、名月も鷹之湯も逐年好評を博し多忙を極めつゝある。

横堀町々會議員
横堀學務委員
陸軍人事分會顧問
方面委員

小山田文八郎氏

横堀町　明治廿二年十月廿四日

雄勝郡木炭同業組合長として不朽の功績を残した氏は同町の素封家小山田八之助氏の甥として生れ、明晰なる頭脳と流暢の辯を持ち、行く處として可ならざるなき才腕の持ち主として郡南一切のこと、氏の關せざるものない程各方面に關係して重きをなしてゐる。

氏は明治四十四年近衛四聯隊を除隊するや、翌年收入役に擧げられたが、二期にして退職した、其後秋田薪炭株式會社を創立し社長となつて木炭業界に活躍したものであつた。秋の宮温泉境に至る役内川護岸道路の完成は氏の與つて力あるものである。時代は氏の如き人物の輩起と躍進を待望して已まない。

銘酒鶴島醸造元
稲住温泉主

押切永吉氏

横堀町　明治四十年一月一日生

本縣有數の林業家であり、縣會議員として令名を馳せた先代永吉氏の長男に生れ、秋中から北大農學部林學科に學修中父君の逝去により退學し、爾來家業の酒造業を營み一方祖母ヤス刀自と共に稲住温泉の經營に當り、今日の大瀧泉を形成するに至つたが、温泉の功勞者たるヤス刀自は昨年逝き、本年又母堂を失つたことは、家庭的に重なる悲しみであつた、しかし父祖の遺業を繼いで活躍する氏の責任は重大であると共に若き氏の前途は實に洋々たるものがある。

西馬音内町長
從六位　飯塚彦四郎氏
西馬音内新
明治六年二月廿二日生

佐藤信淵先生を生んだ町、近くは盆踊りで著名な西馬音内町の名町長として鮮かな自治行政振りを發揮してゐる飯塚彦四郎氏は廿四代目彦四郎氏の長男として生れ秋田中學慶應普通部を經て東京藏前高工を卒業し、宮城縣廳から岩手縣技師に轉じ縣立染職講習所長として全縣工業界に貢献したといふ經歴を持ち雄勝郡随一のインテリ町長である。明治四十四年嚴父の不幸に逢ひ官途を辭し歸來、專ら郷土の振興開發に意を注き、郡西部の交通不便なるを痛感し雄勝鐵道會社の創立に奔走し大正十四年會社創立と共に社長に就任、郡西部の文化と產業に寄與する處大なるものがあつた。金融方面では、羽後銀行支店長として、農業方面に於ては農業倉庫、耕耘利用販賣組合の設立等同町振興の施設一として氏の息吹きのかゝらぬものなく、最近に於ては燒大後郡内稀に見る小學校の建設、或は公設質屋、公設浴場等も完成した。資性温厚、好個の紳士として町及郡民の信望を高めてゐる。

雄勝鐵道株式會社々長
田代郡役所庶務課長
田代村村長
田代消防組頭
長谷山泰三氏
雄勝郡田代村
明治廿一年七月廿四日生

雄勝郡有數の素封家であり、地方功勞者として聲望を一身に聚めて居る氏は社會公共の爲寧日なき多忙を極め活動をつゞけてゐるが、その中でも雄勝鐵道に對する氏の功績は永久に沒しべからざるものがある。經濟恐慌の嵐に一時危殆に瀕した同社の社長を引受け神野專務と共に革新のメスを振り更生躍進遂に昭和十年二月巷歸迄の延長開通を見るに至つた。更に電信、電話の開通及七曲峠の改修工事等凡て氏の飽くなき郷土愛の賜物として感謝されてゐるが、又居村議長が年々蒙る旱害を救濟すべく耕地整理組合を組織し、組合長となつて大貯水池を築造し旱害から免るゝことを得た。其他消防組頭としては名譽ある金馬藤を獲得する成績を擧げ、青年團長としては郷黨青年を指導し幾多の功勞により昭和四年勳八等に叙し瑞寶章を賜はり同六年十二月從七位に叙せられた、越えて七年二月知事より名譽ある表彰に預つたが同年新嘗祭供御献粟献納の榮譽ある命により、精勵克く其任を完了し、武部知事より感謝狀を贈られ、同十月十四日精粟献納を了して畏くも宮中賢所拜觀の光榮に浴した。氏の如きは眞に社會奉仕の權化とも言ふべきであらう。

株式會社羽後新報社取締役
羽後新報社社長代理
芳賀匡氏
湯澤町南荒町
明治廿九年十月十五日生

芳賀家は湯澤町に於ける名家で祖父織右衛門氏は戊辰の役に酒田清左衛門や早川輔四郎氏等と共に奮戰勤功を表はし　後、湯澤初代の町長を勤めた人であり父君恒介氏は本縣政界及實業界に活躍し各方面に不朽の足跡を殘せる名士として普く知る處である。氏はその嗣子として生れ東京開成中學から早大理工科に學び二年にして政治經濟科に轉科したが、父君の血を亨く熱血漢たる氏は三年在學中ストライキ事件で退學し、現代議士鈴木正吾前代議士簡牛凡夫氏等と東洋時論を起し自ら論壇を擔任して健筆を振ひ東洋豪傑を以て自ら任じたが資金難で惜しくも廢刊した。後辯護士たるべく日本大學三年に編入々學したが關東震災で意を轉じ復興局技手として腰辨に甘んじた、大正十四年退職歸郷、父君の社長たる羽後新報に入り傍ら階級戰線に活躍、教育部長、書記長、青年聯盟會長等の重任を擔當したが、昭和三年思想轉向し專ら父君を補けて羽後新報改善に努力中父君の逝去に遇ひ、爾來社長代理として全力を献げて新聞報國に專念しつゝある、氣宇濶大名家の流れを酌む逸才として今後の活躍を期待される。

横堀町長

戸部仁左衛門氏

明治十四年七月二日生

役場の書記から助役、町長等三十年の間町自治の爲に捧げて來た氏は横堀町の生字引たることは言ふまでもなく一生を郷土の發展に捧げた地方自治の功勞者である、先代仁左衛門氏の代迄は釀造業を營んだもので氏はその長男として生れた。昭和三年推されて町長に就任以來、今猶は興望を繋き町長として各種公私團體の首班に擧げられ町の振興に盡してゐるが、在任中部落有財産の統一、役内川護岸道路工事の實現等、其他幾多の功績を擧げ郡内中の名町宰として信望を博してゐる。

横堀町山林地主

金澤忠兵衛氏

明治十五年三月廿五日生

本縣林業界の大立物、金魚及色鯉輸出の重鎖として普く知られてゐる氏は、先代忠兵氏の長男として生れ幼名を紺助と稱し、秋田中學を出て歸郷以來專ら林業に從事數百町歩の山林を有する本縣林業界の重鎖となり家督相續と共に各種の名譽職に擧げられ傍ら養鯉業の農家の副業に好適なるを唱導して遂に今日の横堀鯉の名を成すに至つた。その他方面委員會長として、或は農業倉庫の創設者として各方面に大なる事績を殘したが、十一年感ずる處あり郷關を背にして上京悠々自適の生活を送つてゐる、嗣子此助氏父君の血を享け、資性豪快そのつ々の辯は四筵を壓するものがある。郷關に止まつて、農業倉庫理事として重きをなし外、本年横堀町信用組合を創立し庶民層の金融に擧明を興へ感謂されてゐる。

湯沢市療組合横堀診療所

西村清藏氏

文久三年十月十二日生

古稀の齡を已に越し、而も若翁と自ら稱し各方面に活躍して元氣溢溯尚ほ壯者を凌ぐもの西村清藏氏である。氏の一生は實に波瀾重疊を極め或時は鐵山に、或は警視廳に入り高等係として黒田清隆、星亨、尼崎行雄等の護衛係となり或は、福島縣廳會計屬となり、帝國生命本莊主任中信望を得て同町助役になり、歸郷後は町會議員、郡會議員たること多年、晩年は政治生活から足を洗ひ大衆保健の爲、全生命を捧げ雄勝醫療組合の成立に非常なる努力をした功勞者である。

雄勝教育後援會長
湯沢市會議員

高久多吉氏

明治五年一月十三日生

教育家出身でもなければ、役人上りでもなく、而も是ぞといふ學歴もなくして、全部知識階級によつて成る郡教育會の會長たること三十年を越る高久多吉氏の如きは全國にも珍らしいといはれる、氏の述懷する處によれば、小學校も錄々卒業しないといふ。それは小學校在學中餘りに腕白少年であつたので、時の校長芳賀勝安氏から退學を强要されたので、負けず嫌ひの氏は爾來心境一變して松井庫之助中將や原田時也家塾、芳賀格之助家塾に學び寢食を忘れての勉强は、同級生を拔く處か、天晴一人前の漢學者と成り了せたのであつた。明治二十二年志を抱いて上京、各方面の大家を叩いてその說をきゝ、學叢一段と進境を見るに至つたが、父君の逝去で歸郷し、家業たる小野之里釀造の經營に當りつゝ而も研究勉學を忘らず、帝國憲法、心理學を研究、詩は本邦屈指の詩人本田種竹氏、書は日下部鳴鶴氏に學び、春邨と號し本縣屈指の詩人であり書道の大家である。町會、郡會に籌を置き、郡

會議長たること多年拙稿安辭常に群芳を壓するの慨があつた、書畫、刀劍を好み、年中禪書と詩作にふけり、傍ら小野之里の經營に精進してゐるが、學殖潔遠人格高邁、氏の如きは地方稀に見る人傑として士人の鑑とするに足る、嗣子修一郎氏は横中から早大大學部政治經濟部を拔群の成績で出で、卒業後近衛師團に入營したが除隊後は父君を輔けて家業の小野之里の發揚に專念して一切他を省みず、自分を低うして多くを語らずされど意一度動けば高談雄辯四筵を驚かすものがある。弓道を嗜み禪の研究にふけつてゐる。

湯澤町農會長
湯澤町會議員
高橋安藏氏
明治十七年十月廿八日生

縣南切つての米穀、肥料問屋高常商店の若主人公たる氏は、湯澤小學校卒業後明治三十六年笈を負ふて上京、慶大商業夜學校に學び歸鄉後、間もなく補充兵として日露役に參加、北樺太に出征し勳八等瑞寶章を賜はる、除隊後は專ら令兄を輔けて家業の發展に努力高常商店の今日あるは氏の奮鬪預かつて力あるものである。

昭和四年以來町會議員として、常に千里透徹の識見を有し町會に嶄然たる重きをなしてゐる。昭和十年衆望を擔ふて湯澤町農會長に推され、曳滯した町農會に對し快刀亂麻の鮮かな手腕を以て多年の研究と經驗とによる大革新を斷行し計畫何れも的中して絶讃を博した。氏は鐵火の如き義氣と一片梗々の俠骨を包藏し、正義を愛し、弱者を救ふ現はれとして、氏によつて救はれた多くの人及小作人はその潤大の氣宇と慈眼愛腸に心服せざるものはない、氏の秘書には頭腦明徹、努力奮鬪の士高畑貫氏あり、氏今後の活躍こそ眞に刮目に値するものがある。

湯澤町會議員
三輪農士學園々長
秋田銘醸株式會社常務取締役
京野利助氏
明治廿四年三月生
湯澤町田町

僅か廿九才で縣會議員に當選し、爾來當選する度毎に最高點で當選するといふ人氣と敏腕を持ち乍ら華やかな政治生活に見切りをつけて、專ら實業と、農村救濟の念願として青年農士の養成に全靈を捧げてゐる京野利助氏の母堂は、慈善の權化ともいふべき先々代山内三郎兵衛翁の令妹に當り、その血統に繋る氏は或時は無料巡回病院、或時は貧人眼病者檢診に、或は育英事業と幾多の社會事業に努力と犧牲を惜まなかつたが、最後の一生の事業として選んだのは農村更生の原動力となるべき青年農士の養成たる學園經營であつた。學園からは已に二回の卒業生を出し、京野氏の意を體して農村の更生に活躍して居り、氏の理想も年と共に實現されつゝあることは農村の欣びであるのみならず國家的にも視聞すべきことである。

湯澤町助役
湯澤農業組合長
湯澤同窓會長
從七位
木口敬助氏
湯澤町下町
明治十六年一月十五日生

湯澤の木口助役と言へば多藝多能の才子肌の人として縣下に知名である。二十餘年の役人生活は鄉里雄勝の上席郡書記、青森縣三戸郡書記拜命第一課長を勤め、秋田縣でも庶務課、土木課に入つて主席屬となり勳八等瑞寶章まで授與されてゐる。憲望されて實業界に入り弘前市倉田製糸の支配人となつたが、會社解散の爲、鄉里に歸り、名譽助役に押され再選に再選今日に至つて居る。氏の家は佐竹侯水戸から秋田へ遷封の際、御供して湯澤に來り居を定めた名家で氏は種穂氏の三男に生れた、助役としては女學校新築移轉問題其他の功勞を殘し、社會方面に於ても幾多の貢献をなして町民から感謝されてゐる。

東海林文之助氏

湯澤郵便局長

湯澤町西郷
明治十九年一月十日生

本縣郵便局長中に於ても古參級であり、その業績と人格に於て重きをなす東海林文之助氏は湯澤町藥種業界の老舗として知られてゐる東海林與右衛門氏の養子となり、大正元年十月七日岳父與右衛門氏の後を襲ふて湯澤郵便局長となり精勵恪勤數十名の局員配達夫を指揮督勵して成績の向上に努め特定三等局として斷然重きをなすに至つた。大正十四年五月湯澤町の大火に同局も類焼したが、局員一同災厄に善所して通信事務を遺憾なからしめ以前に增した堂々たる現在の建築を見るに至つた。昭和六年勳八等を賜はり翌七年從七位に叙された。氏は社會の表面に立つたことを好まず名譽職は一切、辭退して一意專心、通信事業の圓滑發達に努力してゐる。資性剛滿明朗の人格者として鄕黨の信望高く趣味としての謠曲は素人の域を脱し、西馬内町の鞍馬會の人々と共に仙臺放送局から數回放送した程である。

湯澤田町郵便局長

山脇茂太郎氏

湯澤町田町

縣内局長中に於ては若手組に屬する同氏は湯澤町屈指の素封家山脇久助氏の長男として生れ、植手中學を出でゝ、東都に遊學したが、世の大地主の御曹子が、親の送金で樂々と勉强してゐるとき、氏は自ら勞働に從事し第三階級の生活を味ひつゝ獨立獨行勉强したといふ變り方である。明朗濶達のうちに犯すべからざる强固なる信念を藏してゐるのは、こうした社會的體驗によつて修養せられたものか、昭和十年嚴父逝去の後を襲ふて局長に就任し鋭意通信事務の向上、刷新に努めてゐるが、少年時代からの運動家で、湯澤體協の前身湯澤青年運動會や湯城青年倶樂部は京野利助氏等と共に創立者であり常に陸上競技部長として活躍し、今猶ほ縣南スポーツ界に貢献してゐる。趣味の團碁は湯澤に於て屈指の强豪として知られ、釣に至つては三度の食事も忘れる程熱中することがある。

雄勝の木炭

雄勝の木炭と言へば、中央市場に於ても無條件で好評を博し、雄勝物を目指して注文殺倒の有樣であるが、何が雄勝の木炭をして今日の聲價あらしめたか、それは昭和二年以來組合長として寢食を忘れ雄勝木炭改良の爲に奮鬪された高田主一郎氏の賜物である。氏は從來の檢査一點張りの消極的方針より根本的改革に躍進、即ち製炭竈の改良、專任教師の常置、製炭實地講習又講話會或は木炭品評會、包裝材料品評會の開催等により品質の向上に努め、更に業者共同の副利增進の爲に木炭改良組合を組織せしめ、一方販路の擴張、生産又出荷調製、販賣檢査の協定を目的として、木炭移出組合を組織せしめ、その助成をなしてゐる。組合では本年度から經濟的事業として資材林造成の模範林を設け又縣内でも初めての製炭競技會を開催して技術の向上と檢査の統一を計り從々雄勝物の聲價を大ならしめた。尙ほ雄勝郡で生産される木炭は十年度に於て約二、四四〇、六三六貫で、之を生産する組合員は一、六二一人小賣商人は三五〇人である。組合長高田主一郎氏は秋田炭移出の創始者高田韋雄氏の長男として東京に生れ、新潟縣立巢津中學卒業後、大正二年院内町に移住して父の業に從事したが大正四年兵役に入り除隊後木炭同業組合代議員、木炭檢査査定委員、大正十五年には郡木炭同業副組合長に擧げられ、小山田組合長と共に、雄勝木炭と組合の刷新に偉大なる功績を擧げ、後小山田組合長の後を襲ふて組合長に推され、再選今日に及んで居る。氏は軍人分會の役員及陰審員にも當選し各方面に貢献する處大なるものがある。

高田主一郎氏

茶　封　宇

柴田與之助氏

西馬音内町

西馬音内の柴與といへば郡内切つての素封家であり名望家としては全縣的に知られてゐる。一門宗族は何れも富豪揃ひで同家はその宗家に當り現代與之助氏は三代目與之助氏の長男として生れ幼名を貞藏と稱した。初代與之助氏は文化年間同町墨澤八郎兵衛家より柴田家へ養子となり、後獨立して木綿業を營み、孔々夢々勤儉力行資産を造成し、柴田家今日の基礎を築いたものと傳へられてゐる。二代目三代目も初代の遺志を繼いで勤儉産を修め、益々同家の基礎を確立する一方、各種の社會事業を行つて貧しき人々を救ひ又小作人を優遇して神の如く尊敬され町民からは慈母の如く慕はれてゐる。

當主與之助氏は四代目で、若かりし頃は軍人として日露の役に參加した勇士であるが、溫厚篤實、實に神の如き風格の人で、公職の如きは一切受けず、凡てのことは、令弟政藏氏や榮助氏に代理せしめてゐるが社會事業や町の發展振興のことに付ては努力と犧牲を惜まず、貢獻してゐる。氏亦實業界、社會事業に對しての功績は到底枚擧に遑なく、從つて表彰されたことも數知れず、町民及小作人は同家の萬代不易を念願してゐる。

三輪郵便局長
土木請負業

柴田養藏氏

雄勝郡三輪村大久保
明治廿五年十一月生

雄勝郡出身土木建築請負業界の巨星として推しも推されもせぬ磐石の地歩を築き上げた柴田養藏氏は、縣内業界に於ても重きをなしてゐる。金藏氏の長男として生れ、明治四十四年弘前輜重兵第八大隊に入營し、在營中模範兵として下士適任證を授與され、大正三年照憲皇太后陛下の御大葬に當り同隊より選拔され代表として參列の光榮に浴した。除隊後嚴父の業を繼承し、こうした溫健剛實の人格は一事業毎に聲望を充揚し事業は大小枚擧に遑ないが、平鹿堰の八萬五千圓、三輪小學校の三萬六千圓、縣直營高松川毒水排除工事の擔當者として難工事を完成した。居村三輪村の通信の不便なるを感じ犧牲を拂つて郵便局を設立して局長となり、又推されて消防組頭をも勤めてゐる。居村を流るゝ雄物川の沿岸はケダニの棲息地として年々多くの犧牲者を出してゐるので、同犧牲者も傳染病死亡者同樣簡易保險金額拂戻出來るやう、猛運動をなし遂にその努力が報ゐられて同規則の改正を見非常に感謝されてゐる。清廉潔白、溫厚の親分肌であり、村民より敬愛され使用人からは慈父の如く慕はれてゐる。

岩崎町長

高橋七之助氏

明治五年九月十二日生

東北有數の模範町村として、昭和九年富民協會より表彰され、昭和五年には優良農會として帝國農會から表彰された町農會其他幾多の表彰と矜持に滿ちる岩崎町は現町長高橋七之助氏が町長就任以來努力奮鬪の賜物である。その自治體の擴充と郷土發展の施設は縣内中特異の創造として氏の立案に成り何れも美事に成功し明治四十二年には大日本農會總裁より名譽賞狀を授與され其他地方産業發展に努めた功勞、或は明治十四年九月明治大帝東北御巡幸の際御駐輦遊ばされた同氏宅庭園を記念すべく東郷元帥揮毫による御聖蹟記念碑を建立した、資性溫厚の德望家として上下の信望を高めてゐる。

秋田縣議會議員
秋田縣町村長會副會長
稲庭酒造石灰會社長

佐藤有秀氏

明治十五年八月生
稲庭町
電話　八番

秋田縣々會議員中に於ける人格者として又た旋腕の政治家として重き

をなす佐藤有秀氏は稻庭町の名家多治兵衛家の分家に生れ嚴父は早世して祖父の手に育てられた。明朗闊達そのものゝやうな氏も少年時代から今日名を成すまでの波瀾萬壘を極めた人生行路は到底常鱗凡介の徒の忍び得る處ではない。名家に生れた氏も、小學校を出るや呉服店の店員から、祖父に無斷で上京して染職工場の職工となり、凡ゆる苦難を經て法政大學の前身たる東京法學院に學んだ。その後、宮古辯護士に寄寓して法律を研究し、或は、大阪市役所に入つた等社會の各方面を經驗して、明治三十七年歸國し、間もなく日露役に補充兵として陣太に出征したが三十八年凱旋除隊後再び上京、大阪、朝鮮等に活躍したが、大正二年鄉黨に懇望されて歸國、町長に推されて紛亂した町政を刷新し、それより本縣實業界政界に活躍して大正八年縣會議員に當選今日に至つてゐるが、參事會員副議長等常に樞要の地位にあり、本縣政界の巨人として尊敬されてゐる。

土木建築請負業
横手絵馬工業株式會社々長
田村一隆氏
南秋田郡小屋町
明治三十一年八月生
湯澤町
電話二二四番

雄勝郡に於ける土木建築請負業界の精鋭として信望ある氏は角館町の名譽助役として令聞ある田村田助氏の二男で小學校卒業後能代寫裁判所に勤めたが其後嚴父に就て土木請負業を習得した。大正十三年湯澤町に事務所を構へて活躍するに至つたが横手田村組に令兄耕造氏あり仙北に嚴父田助氏業界に飛躍し正に縣南三郡を田村組によつて縣貫するの觀がある。氏は名門の風格を備へ、溫厚篤實、使用人を見ること家人の如く傭者その恩情に感激してゐる。氏は道路改修、護岸、橋梁、行く處として可ならざるなく、氏の前途實に洋々たるものがある。

土木建築請負業
高久彦太郎氏
明治三十年十月生
湯澤町稲小屋町

氣宇宏量、嚴父の血を享け生れ乍らにして棟梁の風格を備ふる高久彦太郎氏は雄勝郡土木建築界の逸材として聲價を昂揚しつゝあるが、かつて燃料節約器を發明した高久房吉氏の長男として湯澤町に生れ、建築工業は多年嚴父の實地指導で練與を會得した、大正十二年の關東大震災では丸ビル、松屋、東京帝燈などの下請負で手腕を揮ひ、大正十四年の湯澤大火で歸鄉し町家百餘軒を請負つて活躍し賞讃をうけ、彼の湯澤高女問題では、失業救濟を兼ねた勞働組合を結成して組合長に推され、各方面に奔運勞をなし現在の場所に設立するゝに至り工事擔當者として失業救濟の初期の目的を貫徹したので落成式當日町より感謝狀を贈呈された。宏量仁侠の性格は部下及一般の信望を蒐めてゐる、餘技の義太夫は龍司と號し已に素義の域を脱してゐる。將來の勇躍こそ刮目に値する。

土木請負業
前田利八氏
湯澤町前森
電話一一二番

雄勝郡に於ける土木建築業界の長老として重きを成すに至つた氏は前田兵助氏の長男として生れ、湯澤小學校卒業後は農業に從事してゐたが、嚴父の業たる木材業に手傳つてゐるうち斯界の眞髓を會得し、大正十三年四月湯澤驛附近に鈴木又五郎氏を補佐して丸合製材所を創立し、爾來その業務主任として大に發展に努力し製材界にも重きを成すに至つたが、傍ら土木建築請負業を兼營し、その請負工事に對しては、その實質の上に期限の上に責任ある工事を行つたので、一工事毎に信望を高め、日淺きにも拘らず業界に重きを成すに至つた。資

性豪放、悠揚として迫らず、清濁併呑の大氣宇を藏し衆望を集めてゐる、釣を以て唯一の趣味として閑暇あれば一竿を携へて大公望を味ふを樂しみとしてゐる。

特選石材販賣
土木建築請負
小林猪一郎氏
雄勝郡院内町

石屋といふ硬い職業に土木建築といふ堂々たる職業を兼營する小林氏を　知らない人は如何樣に想像するであらうと職業的に、嚴めしい容貌と堂々たる體格が聯想されるが氏は稀に見る穩和な好々爺で見る人をして驚かせる、そして童話に至つては道に入つたもので、今では小學校や男女青年團にまで頒まれて、一席辯じ小學生達から、おらが町の久留島さんと懷しまれてゐる、孫のやうな子供達の少年少女の團長となつて、神社の境内を掃除したり道路を掃除する等の奉仕作業をして樂しみとしてゐる。如何なる時、如何なる人と遇つても、年中かはることがない謂はば奇人といふよりも生佛のやうな性格の人として親まれてゐる。それでゐて、本業の方は忙しいと見る殆んど家に居ることなく東奔西走をつゞけてゐる。

皆瀬町會議員
高橋宇吉氏
明治十二年三月十日生

氏は同町石川勘左衛門氏二男に生れ、本縣の代表銘酒峰廼旭本舗先代高橋宇吉氏の養子たり、挺身努力同酒今日の基礎を建設した人である。氏は日露役に出征して金鵄勳章の帶勳者であり、雄平酒造組合長として組合に對する功勞顯著なりとして、昭和二年日本釀造協會東北支部長より、大正四年奥羽聯合清酒品評會長より表彰された。大正十年以來町會議員に擧げられ、同十三年よりは、消防組頭に就任し、ガソリンポンプ一臺寄附模範消防組として金馬廉三條を獲得した。其他各方面に盡した功勞枚擧に遑ないが、八幡神社境内接續地二千三百坪を買收し更に巨費を投じて千年公園を開設し、之を世に開放したことは氏が社會事業中永久の記念である。

鎮守府第二兵團中尉
湯沢消防副組頭
土木建築請負業
山脇太郎吉氏
湯沢町柳町
明治十九年十月十二日生

失業救濟王として知られてゐる山脇新八翁の長男として生れ横手中學校を卒へ一年志願として弘前幅重兵大隊に入營、明治四十二年少尉任官、大正十一年中尉累進、町にあつては軍人分會長、消防副組頭其他各方面に渉り氏の關せざるものなく、大正四年大湯澤の助役となり歴代中の名助役として幾多の功績をのこした、大正九年以來土木建築請負業に從事、其他各會社に關係、多忙なる活動をつゞけてゐる。責性豪放のうちに義太夫を趣味とし芙蓉と號して縣下素義界の巨星として知られてゐる。嚴父新八翁は古稀の齡を已に過ぎたれども元氣尚ほ鄙錬、失業者を救けて山谷の開墾や、蛇野公園、及御大典記念事業たる御獄山の公園化完成の爲に餘生を捧げてゐる。翁は非常な慈善家で、蛇野公園に飼育する數十頭の牛から出る牛乳を窮民に無料給與したり御獄山神社の初穂や燈明を蓄へて之に自分の米を補助して貧しい病家に惠んだりして樂しみとしてゐる。

三輪村消防組頭
三輪村會議員
建築請負業
藤野寛治氏
三輪村赤袖
明治二十八年一月九日生

藤野家は中川家と共に三輪村の名家であり多くの人材を輩出する。父君貞助氏は本縣々政史に縣會に於ける議長以上の名議長として鳴らした人であり、伯父理吉氏は海軍一等主計正(大佐相當官)長兄長一氏

は早大から英國牛津大學に學び卒業後、英京倫敦に米國紐育等に或は藤野貿易商會を起し或は國際汽船紐育支店長等縱横に手腕を揮ひ邦人の爲に氣を吐いてゐる。氏は眞助氏の三男に生れ、東京暁星中學出身、大正四年弘前砲兵八聯隊に入營、再役して軍曹となり除隊後、村會議員、學務委員、郡農會議員、大正十三年消防組頭に推され、全縣及東北六縣組頭會議に於て常に本縣消防界の爲に氣を吐き、郡内組頭中の白眉である。氏が就任以來名譽の金馬籐四條を獲得したのを見ても、氏の信望と指導宜しきを窺ふことが出來る。

縣會議員
湯澤町會議員

佐藤吉治氏

湯澤町前森
明治廿二年十二月廿二日生

雄勝から選出された縣會議員中、近年に於て政黨政派を問はず選擧民の信頼を滿足せしめるものは稀庭に佐藤有秀あり、湯澤に佐藤吉治氏がある。氏は湯澤町の舊家久四郎氏の長男として生れ、小野之里醸造元の丁稚奉公から書籍商、運送業等凡ゆる方面に活躍したが最も傑出したものは政治家であつた。大正十年町會議員となり爾來再選又た再選今日に至り消防小頭にも擧げられ、昭和六年縣會議員に立候補して雖なく中原の鹿を射とめ、問もなく參事會員となり、救農、土木、山谷峠改修、高松川毒水排除其他身を挺して地方民の倚託に努めて人氣高揚、昭和十年の選擧では最高點を以て當選した。鐵火の如き熱情を藏する氏は昭和十一年の衆議院議員選擧黨反に問はれ目下上告中にあるが、誰一人として氏の無罪を祈らぬものはなく、こうした人氣と信望こそ眞の政治家として敬に値するものである。

雄勝郡農會副會長
三輪村長

中川常藏氏

明治廿六年一月十二日生

郡西部切つての素封家であり、代々肝煎を勤めた豪家で、菅江眞澄の雪の出羽路にも、同家に滯在したことが記されてある丈け舊家である。氏は小學校を出てから東都に出で、郁文館中學に學び歸郷するや村農會長、郡農會議員、大正十三年村長に擧げられ引つゞき今日に至つてゐるが、氏の在職中の功績は枚擧に遑なく、郡内有數の現在の小學校の大改築、村道の改修、十數年來納税完納村として仙臺税務監督局より表彰されたのを見ても氏が就任以來の功勞の足跡が偲ばれる。昭和七年には新嘗祭供御献穀田耕作の光榮を見事に終了奉仕した。其他郡農會副會長として、農會創立者として、雄勝鐵道の創立者として各方面に齎らした功績大なるものがある。毋堂ふさ子刀自は明治四十四年の囚作に石川理紀之助翁を招き知事と共に勤儉力行を說き全村を巡回し伏見宮貞愛親王及秦縣知事から農村功勞者として表彰された人である。

秋田市會議員
市政友倶樂部幹事長
矢留國防青年團長

辯護士

小山章氏

秋田市手形谷地町
明治廿六年生

氏は熊谷禮吉氏の二男として湯澤町二五〇番地に生る。父君は湯澤小學校に奉職、關羽嶺のうちに慈照溫容の先生として神の如き尊敬を博し母君はマサノと稱し、湯澤小學校開設以來の名女教員として今猶ほ當時教を受けた人々の語り草となつてゐる。少年時代青雲の志を抱いて東都に出で苦學力行明治大學に學び三年在學中に辯護士試驗に及第したといふ秀才振りであつた、間もなく近衛歩兵四聯隊に入營除隊後、現小山家の養子となり辯護士を開業、常に多忙を極めてゐる。昭和八年市の衆望を負ふて市會議員に當選、市政友クラブ幹事長として活躍、公平無私、市政に關與信望を博してゐる。氏の祖先は由井正雪の肱股で湯澤に隱遁して來た熊谷三郎兵衛氏であるが、氏に接する人は何處かしら巨人の血緣たるを頷かせられるものがある。

秋田民政倶樂部調査會長
醫學士　菊地德左衛門氏
秋田市西根小屋町
明治二十年六月生

由利郡上川大内村蓮四郎氏長男として生れたが祖父及嚴父は同村の村長及局長を勤めた程の名家で、氏は大正寺村新渡高等小學校から秋田中學に學び明治三十八年同校を四年にして退學、志を立てゝ上京明治大學に學び、明治四十五年卒業した後、創立當時の中野電信隊に入營して特科教育を受け、大正三年一月歸郷して郷村上川大内村の村長に推され當時紛亂した村政を改革したが鮫蹟は、何時迄も池中のものでなかつた。大正七年再び上京して帝國地方行政學會に入り、法律の編輯に當つたが大正十一年東京に於て辯護士を開業、超えて翌十二年秋田市に開業、昭和四年推されて市會議員に當選爾來今日に及び、民政倶樂部副會長として政界、法曹界に重きをなしてゐる。

茶、紙問屋、酒商店
合資會社秋津酒造所
代表社員　那波伊四郎氏
明治十三年六月生
秋田市茶町海ノ丁

秋田市茶町梅ノ丁に茶、紙の專問の那波商店の名は餘りにも著名となつた。店主伊四郎氏は雄勝郡人會長として秋田市在住雄勝出身者中に重きをなしてゐるが出生地は酒の本場湯澤町で湯澤町の實家酒塚酒内氏の三男として生れ、幼名を酒太郎と稱した。明治三十八年秋田市の那波家に養子となり、岳父歿するや家名を繼ぎ、合資會社秋津酒販所を創立してその社長となり職工數十名を使用して秋田縣一流の印刷所とし資本の豊富と設備の萬全は到底他の追隨を許さゞるものあり官衙、學校、會社等に絶對の信頼を博し事業年と共に膨脹、昭和十一年工場全部を改築し縣下隨一の印刷所としての偉觀を備ふるに至つた。又た氏は秋田市印刷業組合長に推されて同業間に重きをなし、茶町梅ノ丁納税組合長として貢獻してゐる、資性温厚にして人格高潔同店の信望亦實なる哉である。

土木建築請負業
土木協會評議員
齋藤鉉吉氏
秋田市手倉谷地町下町
明治十一年生

親の代から士族の嚴格の家に人となつた氏は嘘を吐かざることを信條とする人格な人で愛知縣刈分郡土肥家二萬三千石の城下に生れたら明治二十八年茨城縣太田鐵道當時私鐵の請負を振出しに、明治三十三年鹿渡、鶴形間の工事に廰澤組と共に來秋、その他幾多の鐵道工事に於て經驗を積み明治三十九年六月自分名儀によつて青森縣車場機關車庫二十萬餘圓を完成し、四つ小屋驛、三關、泉田等は土臺から建築まで氏の請負によつて成つたものである。四十三年以來青森市に出張所を置き本縣と二ヶ所で營業を行つてゐるがその後本縣では、木内雜貨店、醫療組合、市役所、記念圖書館等目星しい工事は大抵氏によつて遂げられ大正十四年には秋田鑛山專門學校燃料科教室及實驗室約廿萬圓の工事も氏によつて完成、現に縣土木課及耕地課の工事も請負、土木協會に於ても重きをなし評議員の位置にある。

萬金物商
恤六軍東北營兵
恤六商會主
佐藤善助氏
秋田市川反一丁目九番地

金物屋の御主人、恤六商會主たる同氏は從七位勳六等の有位勲者であるのみならず陸軍歩兵中尉として市軍人聯合分會評議員、消防小頭、旭北小學校保護者會副會長等々嚴めしい肩書多數の所有者である。氏は雄勝郡須川村の出生で、明治三十八年十七歳補充兵隊に入營し、四十一年十二月軍曹で戸山學校に入學、四十三年聯隊付となり四十四年曹長に昇

進、翌四十五年二月朝鮮に行き大正三年四月歸隊、同年十二月特別賈長に任ぜられ、大正六年八月士官學校(四ヶ月)に入學、卒業の際は步兵科の首席として恩賜の銀時計を賜はり十二月少尉に任官した。大正九年病氣の爲休職、大正十四年豫備役に召集せられ中尉に累進した、現在位六組東北發賣元として、こうした人格の人丈けに信望を博し業勢繁忙を極めてゐる。

秋田市上中城町二ノ二　電話七九六番

堀　金五郎氏

支店　岩前市旭田字大野二〇　電話一〇五一番

氏は明治五年新潟縣に生れ今から四十年計り前に本縣に移住して土木建築請負業として、本縣下に活躍した人である。令息勇氏は明治二十六年金五郎氏の長男として生れ、小學校卒業後秋田工業學校機械科に入り大正十一年卒業、爾來父君を輔けて業界に雄飛してゐるが、工事の主なるものは大正十三年市内五丁目橋二萬四千圓、第八師團管下指定請負人として大正十一年泰步兵第十七聯隊の廐、二萬八千圓の工事も氏によつて完成、又た文部省指定請負人として秋田鑛山專門學校寄宿舍一萬圓の工事も近く完成せんとしてゐる。其他仙臺鐵道局、新潟鐵道局及市役所、營林局、逓信局等權威ある官衙の指定請負人たるを見て如何に信望敦いかを偲かせられる。(寫眞堀　勇氏)

大秋田新聞社長

佐々木市松氏

秋田市楢山陰小路　明治三十五年生

秋田市には大小幾多の新聞がある、但し大は魁一つで、餘り大なる爲か群小豆新聞は殆んど見えなくなつた觀がある中に、逐年擡頭光鋩を加へ、馬鹿にならぬ新聞として刮目せられて來たものは週刊大秋田新聞である。經營者は元秋田時事新報記者から營業部長、それから秋田旭に轉じた佐々木市松氏、間もなく同社をも辭して翌年昭和七年八月大秋田新聞を創刊した。旬刊が二回となり月一回となる新聞經營難の秋田市に於て創刊二年後には日刊の保證金を供託して週刊に改める躍進振りである。彼氏は正義の士であり熱の人である。毀譽褒貶の埒外に立ち思ふことを勇敢に遂行し得る彼である、來る四月には鐵火の熱辯を以て市會にデビューすべく傳へられ五月から愈々日刊を敢行すべく準備中であるが讀賣の進出にも似た彼の今後こそ刮目に値する。

前橋手商工會長

星野金五郎氏

横手町四日町　明治十八年七月生

氏は富治氏長男として明治十八年七月生れ横手小學校から横手中學校に入り明治三十七年卒業、爾來横手町呉服業界の老舗加賀谷圓右衛門氏方に勤務主任として勤續三十年に及んでゐる、その間大正十四年以來町會議員に當選現在に至つてゐるが、大正十年以來商工會副會長として貢獻する處尠からず昭和三年商工會長に擧げられ、中止の憂を呈した秋の横手物産即賣會を復活せしめて今日の盛大を來し又た觀櫻會を盛大ならしめて外客誘致に努むる等氏在任中の功績頗る大なるものがあつた。

横手町會議員
横手商工會副會長
東北ゴム工業株式會社々長

佐藤長太郎氏

横手町驛前　明治二十一年生

旭日昇天の如き躍進途上にある東北ゴム工業株式會社々長として、昨年又た商工會副會長に推さるゝ等、昭和八年町會議員當選以來積極的に有計に入つた觀がある氏は、雄勝郡明治村大澤、佐藤廣吉氏の長男として生れた、最初小學校教員たるべく雄勝郡立准教員養成場に入つたものだが、千里透徹の識見を有する氏は大正二年實業に志し挺身

努力今日の成功を克ち得た立志傳中の人である。尚ほ醫療組合理事、信用組合監事にも推されてゐる。

横手合同運送株式會社々長、横手株式會社々長、羽後銀行横手支店監査役、横手信用組合理事、商組合組合長、平鹿郡郡長會々長

横手町長　和泉喜代松氏

横手町　明治八年十一月十一日生

縣南隨一の都邑横手町の町長として重きをなす和泉喜代松氏は先代喜代松氏の長男として生れ、少年時代即ち十五歳の時から兵隊檢査迄、同町渡久商店に丁稚奉公をなし檢査後家業たる先々代よりの海産業に從事し、精勤努力今日の家運の隆昌を見るに至つた。大正十四年以來繼續三期町會議員に擧げられ、現在所得稅調査委員、相續稅審査委員を兼ね、政治、實業兩方面に多忙を極めてゐる。

横手消防組頭、商工會副會長、町會議員、平鹿郡人分會顧問、株式會社横手館社長、醫師組合、信用組合、消費組合各理事兼仁會支部長

小松重兵衛氏

横手町四日町　明治六年五月生

大横手町の政界、實業界其他になくてならぬ偉大な存在となつた氏は、增田町佐藤千代松氏の二男に生れ少年時代湯澤町高久多右衛門（當時海産問屋）方に奉公し兵役に入つては日清戰爭に參加して勳八等、日露戰爭に從軍して勳七等を授けられ上等兵として凱旋した。先代重兵衛氏の養子となり小松家に入つて以來、家業發展と共に横手町に於て逐年重きをなし昭和六年消防組頭に推され、同時に町會議員に當選爾來繼續今日に及び商工組合創立當時から幹事として盡力、商工會創立以來會長を辭退して副會長として町經濟界に盡した功勞大なるものがある。昭和三年地方功勞者として知事より表彰、同年模範軍人分會員として帝國在鄉軍人會長より賞狀を授けられ分會長より感謝狀を贈られた。昭和四年には道路愛護會の功勞に對し知事より金參拾圓授與されたが直ちに道路に寄附して町民から感謝された、御大典に際しては消防組頭として參列の光榮に浴したことは氏末代の光榮とする所である。

横手郵便局長　正七位勳六等

須藤貞吉氏

横手町馬場端町　明治十五年十月生

縣南實業界の巨人長坂又兵衛氏は先代又兵衛の長男として同町に生る。明治十八年戸主となり幼名晉吉を改めて又兵衛を襲名一家の經營に當る、即ち農業の傍ら蠶業を營み桑蠶業に關する研究をなし、特に桑園の改善に意を注ぐこと多年、自ら各地斯界の先輩を歷訪してその卓見を求め幾多の苦心研究の結果、遂ひに秋田式桑樹仕立法の發明を完成し之が普及に專念した爲に大正十四年七月帝國發明協會から優等賞を授與せられ、その功績を表彰された。實業方面では株式會社長坂商店、增田水力電氣株式會社、縣是秋田製糸株式會社、株式會社增田鐵工場、日の丸醸造株式會社、增田酒造株式會社、株式會社長坂商會等を順次創立し現に取締役社長又は取締役として經營の任に當つてゐる。

長坂商店、十文字運送、長坂運輸株式會社取締役社長、增田水電、秋田縣是製糸、日の丸醸造、增田酒造、增田鐵工場、長坂商店各取締役、信用購買組合理事

長坂又兵衛氏

町會議員　明治元年四月十七日生　增田町

三浦農園

秋田縣仙北郡花館村

農業兼山林用　苗木生産販賣　合資　農業　三浦農園

振替貯金三〇六二番

行詰つた農山村の更生は稻作の改良增收と蔬菜、小麥の栽培や木炭收入では容易でない。今迄見捨てられた原野や緩傾斜の山地を開墾し、又は邸内の空閑地を利用し、その收入の途を計るより途はない。水源涵養と副業奬勵の趣意から農林省では一段歩以上の新植、二段歩以上の補植に對し輕費の三分の一を補助することゝなつたから大に之を利用し水源涵養と共に家産增收の途を計るべきである。それには苗木の選定は最も重要であるが本縣では東北に誇る三浦農園を有することか、實地觀察指導並に輸送等に如何に惠まれてゐることであらう。

同園苗木の特徴

一、年々畑地を輪作する爲、杉苗の最も恐ろしき赤枯病は絶對にない。

一、苗木の株間を遠くして、絶對に連効性追肥しないから徒長せず堅實な苗木である。

一、畜力掘取器による爲、鋏傷、根裂なく植付後の活着良好である。

一、追肥を施さぬ爲降雪前に伸長が完全に休止しても心枯の憂はない

同園の苗木は獨特の完全荷造法により、苗木到着後の取扱及一本も枯さぬ秘法等のパンフレットを無料で送呈してゐる。

秋田土木協會副會長
土木建築請負業

高橋八重治氏

明治十七年生
秋田市長野下新町

請負業の生活に入つて二十年、隨分多くの人を使つたが一人も怪俄人を出したことがないといはれ、工事に對しても其筋からカレコレ言はれたことのない高八重組、その棟梁たる氏は十二歳の時父君に別れ、十三歳の時から大森町大工大沼富吉氏の弟子にやられ、こうして大工學を研究すること十餘年、三十二歳の時建築請負業に着手したが、之では一方的だといふので大正十三年即ち四十二歳の時秋田へ出て土木請負を兼營することゝなつた。金足農學校の八萬圓、縣釀造試驗場の二萬圓、寺町專念寺の二萬圓、大曲、本荘線改修一萬六千圓、秋田療養院(一部)一萬六千圓、縣警察部一萬七千圓、强首小學校二萬圓、寺舘小學校一萬五千圓等はその主なるものである。鄉里では村會議員、學務委員、信用組合理事などやつた丈けに二十ケ年で其基礎を築いた手腕力量は各官衙に定評のある處、溫厚誠實な人として信望が高い。

秋田土木協會副會長
土木建築請負業
木材類材販賣業

堀井永助氏

明治十四年生
秋田市長野下新町二六
電話 四四九番
五四二番

蓋世の英雄奈破翁が、「不能といふ語は愚人の辭書にあり」と言つたがそれと同じやうな「自分は何事もやつて出來ないことはない成ると否とはつまり心の持樣如何にある」と、こうした確固たる信念を有し秋田土木協會の副會長として重きをなす氏は家の都合で一年も祿々學校にやられなかつたと述懷してゐる。十一歳の時から奉公にやられ毎日土崎まで荷車を輓かされたものである。誠に困難汝を玉にすと、氏の嚴丈な肉體と鐵の如き意志はこの苦練によつて錬へられ今日の榮光に到達し得たものといへやう、二十一歳の時下濱小學校の工事監督にやられたが算盤を知らないので二晩も眠らずに練習して間に合せたものだ。又た父の命で阿仁鑛山に建築請負にやらせられ時、父に代つて鑛山の人と多數の使用人に挨拶せねばならぬので、人の居ない山塊で練習したものだといふ。氏の如き勝れた頭の持主であればこそである。師範學校、中學校、女師附屬小學校、秋田市高等女學校等氏の手によつて建築されたもの相當數に上つてゐる。

第甲善信組組元

仙葉善治氏

明治二十一年四月生
新屋町押切

前町長であり新屋商工會長、地主會長、所得稅調査委員、青年團長、國防後援會長等々枚擧に遑ない公職に關係付けられる處氏の人望は偉大なものである。仙葉善之助家の分家で、小學校を了へるや向學に燃ゆる氏は東京に遊學し、歸町後二十六歳の時分家して醬油業を營み亀甲善を醸造し、北海道主要都市就中函館、室蘭に支店まで置き、室蘭に支店まで置き、室蘭製鋼所を得意とし或は小坂鑛山、鐵道購買等に大量取引する迄の躍進を見るに至つた。昭和四年町會議員に當選、同七年衆望を以て町長に擧げられ在任中鐵橋附近の舗裝道路の完成、國立農倉の設立等幾多の功績をのこしたが嗣子善作君未だ若冠にして家業に專念することゝなつて家業を托するに足らず得意先の切なる懇望により榮職を辭して家業に專念することゝなつた。令夫人は市内佐野家より出で賢夫人の聞え高く方面委員として町の世話をやき、公益質屋の倉を自宅に引受け無報酬で奉仕する徹底振りである。夫君の趣味は多方面に亘るが義太夫は素人の域を脱し實に堂々たるものがある。

第　封　号
河邊郡聯合青年團長

仙葉善之助氏

明治四十二年五月生
新屋町押切

仙葉家は、今から三百年前加賀から移住し連綿今日に至つた舊家である。現主善之助氏は先代善之助氏の長男として生れ父君の逝去により昭和四年十月二十歳で家督を相續し家名に襲名した。日新小學校から秋田中學に入り更に東都に遊學して日本大學に學び、歸町後は家政を見、其後再び上京して府下小金井村に居住してゐたが、昭和九年夏郷里に歸住した。昭和十年河邊郡聯合青年團長に推され就任したが責任感強き氏は郡内を巡つて郡及青年團の視察調査をなし、その實情に立脚して施設を講じ郡勢の振興に寄與したいといふのが氏の抱負であり念願である。氏はその資性温厚、長者の風格を備へ、純直にして如何なる人とも胸襟を披いてよく語りよく談ずるといふ明朗な性格の持主として尊敬されてゐるが其將來を嘱望されてゐる。

和田町消防組頭
元和田村村長

佐々木義久氏

明治三十二年四月生

佐々木家は元祿年代からの舊家で現主義久氏は九代目に當つてゐる。舊藩時代公共の爲に盡した功勞により佐竹公から苗字帶刀御免の御沙汰を蒙つた名家で佐々木姓を名乘るに至つたものである。當家磐石の基礎を築いたのは六代目三助氏で、八代目廉助氏は勤儉家産を治め河邊郡に於て比肩するものなき素封家として多額納稅資格を有するに至らしめたるもの一に三助、久吉、廉助氏等父祖の力大なるものがある。當主義久氏は秋中を卒業し早稻田大學に學び、歸郷して大正四年家督を相續し、爾後縣畜産組合惣代會議員、所得稅調査委員等に擧げられ十數年繼續してゐる昭和三年には村長に其後村會議員、青年團長、消防組頭等に擧げられたが何れも短期にして辭し、村長の財産を保護する消防組頭丈けは就任盡力してゐる。同家邸は明治十四年明治大帝の御休所たりし聖跡で氏は之を記念保存の敬念から記念碑を建立した。

横手商工會長

尾張謙吉氏

明治九年生
横手町四日町

今でこそ納稅額から言つても横手町屈指の資産家であるが、氏は貧しい家庭に生れ十四歳のとき丁稚奉公に出され世の荒波に向つてスタートした。十九の年獨立して呉服店を開いたが、適齢となるや合格して日露戰爭に出征して勳功をたて凱旋後は一心不亂十數年の間血みどろ

た健闘をつゞけて漸く店の基礎も安定となり爾來好調に拍車をかけ一代にして今日の地位を築いた立志傳中の人である。永年商工會副會長として貢献する處あつたが、昭和十二年商工會長に押され氏の活躍を期待される。

氏は文弁と號し実義界の重鎮で、秋田放送局からも二、三回放送した程、道に入つたものである。

秋田土木協會理事長
土木建築請負業

和賀眞一氏

明治二十六年生
秋田市保戸野

嚴直謹嚴を以て業界並に處世の天精神となし、土木協會理事長として本縣土木建築請負業界の刷新向上に寧日なき努力をつゞけてゐる氏は雄勝郡岩崎町の出身である。秋田工業建築科を出で、東都に遊學すること三年、僅か二十一才の時駒形小學校の建築請負を振り出しに、二十五、六才の頃は由形市に於て活躍、高等學校や市内の官衙、學校等凡て氏の手によつて建築され當時請負年額百數十萬圓に上つたといはれる。震災の頃は再び東京に出で、郷里の大先輩水野錬太郎氏や清浦奎吾、小橋一太諸氏の知遇を得て内務省、遞信省の指定請負業者として花々しい飛躍を試みたものであつた。其後數年で秋田へ來て内務省土木出張所を初め建築物の大なるものは大抵氏の建築に成つたものが多い。責性剛直にして沈毅事に當つては孰慮精徴よく四圍の事情を洞察して斷行する氣魄あり、邪惡不正を嫌ひ、責任感强く、やると心がけたことは最後までやり遂げねば止まぬといふ性格の持主で、將來の活躍期して待ちべきものがある。

秋田商工會議所議員
秋田土木協會常務理事
土木建築請負業

荒澤永吉氏

明治二十四年生

土木協會の常務理事として業界の刷新に缺拿し、大秋田市の商工會議所議員として秋田市の進展に寄與しつゝ期日の最も精確を期せればならぬ請負業界に悠々として片つ端から處理して行く荒澤永吉氏は確かに業界の麒麟兒である。氏は秋田市の人秋田工業機械科を出で若冠二十六才を以て土木請負業に身を投じ、些事も忽にせぬ熱誠は一工事毎に好成績を收め各官衙の信望日々に昂り創業十有八年にして磐石の基礎を確立するに至つた。業跡の主なるものは神宮寺小學校の十萬圓、森岳、豊岩兩小學校、富根橋二萬六千圓秋田中學の一部二萬圓も氏の建築に成るものである。又時代の動向に燻服なる氏は昭和四年秋田市街自動車の營業を開始し二十餘名乘り大型バス十三臺を運轉し、市内は勿論新屋間をも運轉して市の交通文化に貢献する處大なるものあつたが、バスは秋田電車に譲渡し貨物自動車だけは繊續營業してゐる。濕臭の中に毅然たる信念を確保する氏の今後活躍こそ待望に値する。

縣下俳壇の大御所格、柴田政太郎氏は刀匠として全國的に有名である。「果」と銘打つたその逸品は畏れ多くも皇后陛下に御嘉納あらせられた程の光榮に浴してゐる。全國の一流旅館、料亭、温泉などで箸を取る時、高雅なてん刻のした逸さ通るやうなパラピンスの箸に、言ひ知れぬ手觸りの感じよさ、味覺に一段の冴えを覺え、初めて箸の使命の尊さを感ずる、氏のこの事業は一面社會奉仕の現れで地元町村に家庭的な内職を行渡らせ度いといふ趣意からこの内職に支拂ふ賃金が月額五百圓にも上るといふ。氏の天才は正に超人的であり、柔道も劍道も四段の免許、謠に於ても旗を取つては東北切つての達人である。氏の如きは、全國にも珍らしいものである。

柴田政太郎氏

明治十七年　月　生
西馬音内町

外觀の割合に、地主の少い町否た漸減した横手町に於て内藤家の如きは最も堅實な地主として家運益々隆昌に赴きつゝあるが、總資産二億圓を突破する帝國生命の代理店として年々飛躍的成績を擧げ横手町民の信望が高い、令息勝治郎氏の趣味から出發した縣南スキー製作所を創立し品質强靱で好評を博し、年製産額一萬圍を突破する盛業にある。令息勝治郎氏(三二)は横手中學を卒業して早稻田大學政治經濟部を出で嚴父の事業を補佐してゐるが、スポーツは各種目に趣味を有し弓道は三段の免許を有してゐる。同家の將來は誠に頼かしきものがある。

帝國生命保險株式會社横手代理店
主宰　**内藤慶藏氏**
横手町大町
電話一三二番

鮎川倉庫株式會社取締役、秋田銀行副頭取、
羽後銀行取締役、秋田貯蓄銀行取締役、秋田感恩
講理事、同兒童保育會々長、秋田市會議員

加賀谷長兵衛氏

明治十七年一月生
秋田市川口

本縣の多額納稅者である加賀谷長兵衛氏は、先代長兵衛氏の長男として明治十七年一月生る、幼名金治大正十三年家督相續をなして襲名加賀谷家の祖先は遠く三百年前加賀國より移住した武家である。北秋田郡前田村庄司家祖先等と同行し現住所の市内上川口町に居を構へて以來當主まで七代輝ける歳月あり自ら品位備はり縣下間多しと雖も堂々たるその大家の風格は欽仰すべきものがある。然して邸宅は約二百年を經た豪壯なる古風建築物で稀に見るもので寡藩時代に船人役木山方を勤務した、昔ながらの素封家を偲ぶに十分なものがある。

先代長兵衛氏は秋田銀行副頭取として今開あり皆瀧川水力電氣開發に功績を殘し又、秋田感恩講理事に推されては同講が兒童保育院創設に參畫し明治三十六年八月子弟教育事業調査のため上京親しく調査研究を遂げ且つ内務省其の他要路と大いに折衝を重ね實現の緒を獲し歸省初代の同院々長に推薦され同三十九年四月四日開院式を擧ぐるに至つた、大正十三年一月皇太子殿下御成婚の御慶典に當り秋田感恩講に對する多年の功勞により御紋章附銀盃一個及び金二百圓下賜の恩命に浴したが故人になつてゐるので當主長兵衛氏これを拜受し面目を施した。

當主長兵衛氏は元秋田瓦斯株式會社重役たりし外に現在は秋田銀行副頭取として將た又羽後銀行秋田貯蓄銀行の各取締役たると共に船川倉庫株式會社々長である。縣財界實業界の首腦者として活躍を續け性格極めて篤實且つ謙讓の德に富み衆望を負ふ所多く昭和三年七月市の行啓記念社會事業資金壹萬七千圓寄附せるにより紺綬褒章を賜ひ全國にも歴史を誇る秋田感恩講理事同保育院々長に推され多くの社會的事業に貢獻するところが多く陸軍歩兵少尉の軍職を帶び正八位に叙せられてゐる。

木材商
土田喜代治氏
明治三十七年三月生
土崎港町

如何なる人と雖も、成功と致富を望まないものはない。人生行路は須らく成功と榮達を目標としての精進努力の行進曲である。本縣木材界の新進士田喜代治氏の今日あるは苦難を超克した努力と精進の結果である。氏は寺内村に生れ、父君を喜久松と稱し、その四男に生れた。寺内小學校を卒業するや土崎港町木材界の巨頭前田材木店に入り二十一才迄一勞働者として働いた。昭和三年僅か五百圓の資本を以て木材商を開業し、挺身努力の發展は正に先進の壘を摩せんとするに至つた、その開業五周年に際しては先進の高顧に報ふべく二萬金を投じた堂々たる邸宅に數十名を招待して饗宴を催した。怱忙夢寐のうちにも、母校を忘れず高清水小學校の創立記念日に際し學校旗(百五十圓代)を寄附し、又信用組合に時計を寄附した彼氏であつた。氏は一切製材を行はず商品は一流會社に仕入れ、一手販賣を行つてゐるが、その取引先は東北六縣新潟、長野、群馬、東京各問屋で毎月三十車宛の取引してゐることは個人經營として素晴らしい躍進である。本縣木材界に於ける氏の將來誠に洋々たるものがある。

秋田指物業組合組合長

瀧田利助氏

明治二十六年十二月生
秋田市城町

秋田市指物、家具、工藝は優秀なる工作と近代的意匠を以て定評があり、年産額三十五萬圓を突破し二、三年中に五拾萬圓を目標とする躍進途上、名譽ある組合長として瀧田利助氏の責任重大なるものがある。氏は父の代まで酒類販賣業であつたが、慶父の見込で指物業に志し秋田及東京で多年修業、大正十年獨立創業と共に優秀なる製品は忽ち好評を博し、市内及郡部の官公衙の備品として採用され縣外は近縣及創業迄多出しつゝある。秋田指物業組合創立當時より評議員として業界進展の爲に寄與して來たが、昭和八年衆望を以て組合長に推され再選今日に至つてゐる。本年からは市生産組合聯合會副會長に推薦され、産業組合聯合會評議員を兼ね活躍してゐる。

秋田土木協會常務理事會計
土木建築請負業

佐々木惣一郎氏

明治三十九年生
秋田市蛭頭

多忙なる請負業を營み、協會の常務理事のうちでも殊に面倒な會計係を擔任し而も「吾々業者は勉强が足りない」と忽忙のうちに新刊書を繙く彼氏は秋田商業から長崎高商出身のインテリで而も此言を聞く、昭和三年校門を出でゝ父業を繼續し、業者中の若冠組ながら身を持する温良恭儉、而も事に處しては正々堂々やつてのける氣魄の所有者である。騎兵少尉として稽山分會副會長、市郷軍聯合分會の副會長稽山青年團長等に擧げられてゐる所を見ても氏の人格が窺はれる。仕事に於ても、縣工事は申までもなく鐵道、營林局、聯隊等に出入して確固たる信任を博してゐることは普く人の知る處である。氏は些末のことゝ雖も忽緒にせず一仕事毎にその成績を精細に記入して他日の用に供へてゐる周到振りである。

文才あり辯もよく讀書にもスポーツにも趣味各般に亘り好個の紳士として將來を嘱望されてゐる。

土木建築請負業

佐藤金之助氏

明治十三年生
秋田市牛島町
電話一〇五九番

氏は磯吉氏長男として生れ、小學校を卒へるや父の業たる大工職を手傳ひ、立派なる大工として世に立つやうになつた。大正八年以來建築請負業を志し仕事の堅實と期限の精確なることが信望を博するに至り、大正十二年横手驛西萬三千圓の工事は横山豊吉氏の請負せるものなるが、横黒線開通目前に迫り保線所長より特に懇望されて引受け、豫定より五十餘日前に完成して業界を愕かした。斯うした手腕を認められて昭和五年旭川道路工事を柏澤氏の下請負として完成、獨立後は土崎女子小學校三萬八千圓の工事は栗原源藏氏より請受け之も期間内に美事に完了し一層聲價を高めた。其他幾多の工事に於ても一工事毎に信頼を高め業勢逐年多忙を極むるに至つた。

縣會議員
木材商

齋藤彌太郎氏

わが郷土が產める新進作家小島健三氏が齋藤氏を『經濟界に於ける由利の信玄』と評され、地の利をさへあらば京師に上つて天下を握つたであらうといつたのは肯定される。盤根錯節の辛苦を乘越えて今日の富を擁するに至つた彼氏には經濟界に對しても卓見を持つて居り、根强い實行力を藏してゐる。

家業の醸造は草創以來三十年前後よりたゝないが『由利正宗』の名聲は遠く響き其販路は廣い。幾多の審査品評會には何時も優秀の成績をあげてゐる。

郡酒造組合長、縣酒造組合の副組合會長に推されてゐるのも宜なる哉である。

而して彼氏は政治家である。出でゝは縣議、入つては町議、古稀の壽齡を越ゆること正に兩三なから青年の如く飛廻つてゐる。本郡政友會の大御所として自他共に任じ、新國會議事堂へ參ずるも遠くあるまいといはれてゐる。

令嗣磯次氏は專ら家業一切を預つて益々隆昌、

今や、富、德、名の三拍子揃つた幸福境にある。

縣會議員

佐藤李之助氏

本莊町

本莊の代表的な人々――富豪、紳商、篤行家、等々……各方面の濟々多士に伍して此處に颯爽として登場した新人に縣議佐藤李之助氏がある。職業は運輸業といふから何かと思つたら自動車屋さんで、市内の乘合と岩城々下亀田町への定期運轉をしてゐるが、いづれも大した儲けもないらしい。本莊中學卒業、輜重兵中尉、町議であり、郡政友會幹事長である。この幹事長の榮職？に絡るエピソートがある。先年の縣議職の砌り同志が亂立して本部ではこの愛すべき清貧青年候補をオミットしやうとした。『今まで慘々椽の下の力持をさせ乍ら非公認とは何事だ。いやしくも幹事長とあらば正統を繼ぐべき御曹子ではないか』と俄仕立のモーニングの尻を如實に捲り上げて獅子吼したものだ、その意氣、その熱がかはれて、東京市會議長何伯爵とか何々代議士とかゞ持辯當で馳付け應援されたので、先輩を尻目にかけて堂々とゴールインに這入つた。ことほど左樣に政治を愛する彼氏だ。熱情と仁侠、それに目今の所謂政治家に不足な正義倫德の感念を多分に持つてゐるし、年齒も漸く不惑に達したばかりであるから明日の政治家として將來を約束されてゐる。

本莊の園藝

百合園藝會

本郡海岸は一帶に氣候が温暖な爲めに農產物や菜果が豊であり、他に比して餘程早く市場に出せるが、本莊町石脇區のそれに特に有名である。苺、甘藷、の栽培が盛んであり殊に近年露地メロンの育成が目覺しく毎年盛夏の頃には秋田市等へ進出して味覺の王座を占めてゐる。會長佐藤李之助縣議は熱情仁侠を以て知られ之れが宣揚と助成のため努めてゐる。

秋田市木材商組合

昭和十二年迄繼續した秋田市木材同業組合を商工會議所内に於て商工省令によつて現代に適するやう改組したのが同組合で事務所を商工會議所内におく。その目的とする處は、資材の共同購入、販賣價格の統一、製材の合理化等で、同組合の首腦部は次の人々である。理事長中田豊太郎、副組合長藤澤藤之助常務理事佐藤康治、理事狐崎爲治、森田末治、堀江永助、佐川金司、監事藤井常松、廣島清治組合員三十一名

秋田木材商組合常務理事

佐藤康治氏

秋田木材業界に重きをなす氏は市六丁目川反に事務所を構へ工場も事務所の近くにあり、早くから氏の製品には定評があり、市を中心として全縣的に販賣し活躍してゐる現在の狀態では注文に應じ切れぬ狀態にあるので、近く躍進を試むべく待期中にある。

秋田市木材商組合理事

狐崎爲治氏

木材商

業界、組合切つての智囊であり常に組合の雜幕に參して刷新向上に寄與してゐる氏は商人といふより政治家肌の人であり、言ふところ理路整然、その熱調を帶びるや高談雄辯四筵を驚かすものがある。清廉潔白氏の如き人こそ、今後業界政界にその活躍を期待すべきである。

水野龜藏氏

木材商

秋田市の材木町とも言ふべき土川口に店舗並に工場を有し、市を中心に本縣木材界に活躍する業界の精鋭たる氏は商機敏戈、或は堅實に或は積極に臨機の所置を誤らず多士儕々の業界に伍して逐年販路を開拓し事業隆昌を極めてゐるが、同店の柿板は獨特のものとして好評を博

してゐる。

大小クラブ

本莊の「大小倶樂部」といふ團體の名はよく新聞などに報じられてゐるが、何かの選擧の時にだけ蘇つて政黨の御先棒を承る政治的結社でもなければ、また、世事辛いこの世とは緣の遠い社交團體でもない。而しこの町にとつては重要なる役割をもつてゐる團體で創立以來二十有餘のかゞやかしい歷史を持つて居りわが文化の秋田には是非加へておかねばならぬ存在である。大正四年十月三十日に御大典を記念して創立され會員の智德を增進し且相互の親喜をを敦うし進んで公益に關する問題を講究し、町振興發展を圖るを目的とし少壯有爲の中堅人士に依つて組織された。爾來多少の入退かあつたが依然として五十名前後の會員を擁し、いづれもが粒選りの人傑だけに、他のグループのやうに牛耳するとか、牽つて何かものにするといふやうな事もなく役員は一年交代を原則として互選してゐるので何時も潑溂たるものがある。會員の三分一は直接町政に參與してゐるし、創立以來毎月會合しては眞劍になつて町民の福利を研討し町理事者に建進し或は名士を聘して講演會を開くとか郡の雄辯大會の主催となつたり、全郡の實業野球大會又はボートレースを催してスポーツの奬勵をしたり、近年は子吉河畔に花火大會を主催するなど文字通り大小となく關係してゐる。叙上の如く固苦しい町政の問題や數々の活躍をなしてゐる反面に港ッ子の氣魄を遺憾なく表してゐるものは觀櫻會の假裝行列である。日頃はもつたい振つてゐるお醫者さんや紳商と敬はれ若旦那とかしづかれてゐる面々も此の日ばかりは天下晴れてのはめはづしで、(かはたれ)夕雨宗匠の「花ちるや假裝の顏を洗ふ時」の一句、よく其情景を躍如たらしむるのである。その硬軟使ひわけのあざやかさ、渾然たる團結力とこの傳統的なわか〳〵しさは永く繼承されるであらう。

萩谷旅館
秋田縣雄勝郡院内町驛前

院内町唯一の旅館

秋田縣雄勝郡院内町
特産石材販賣
土木建築請負業
小林龜治商店

秋田木工株式會社
秋田縣湯澤町驛前
電話六六番

曲木、椅子、卓子・曲木コタツ
曲木ハンドル・スキー

秋田縣湯澤町驛前
湯澤製材株式會社
電話二五番
電略(〇チカ)又ハ(チカ)

秋田縣湯澤町
山内吳服店
電話一八番

吳服
太洋
雜貨品物
湯澤町大町
京屋
電話一七〇番

湯澤町柳町
桐谷吳服店
電話二六番

秋田縣湯澤町柳町　電話二三七番
京 あのきや吳服店
榎本恒治

湯澤町大町
萬荒物
石油
砂糖
富谷治助商店
電話一四番
振替東京一一四七番

王子製紙會社製品特約店
パイロット萬年筆代理店
紙類と學用品
富谷松之助商店
電話四九番

秋田縣湯澤町柳町
株式會社 湯澤銀行
電話一三番

湯澤町大町
株式會社 第四十八銀行湯澤支店
電話一一四番

湯澤町大町
株式會社 羽後銀行湯澤支店
電話九番

湯澤町大町
株式會社 平鹿銀行湯澤支店
電話三三番

銘酒爛漫大賣捌
鹽元賣捌
肥料問屋 又 鈴木又五郎商店
秋田縣湯澤町大町
電話五〇番

愛國生命保險
東京海上火災保險代理店

增田水力電氣株式會社
湯澤出張所
主任 高岡隆治
湯澤町大町
電話一一〇五番
一五二番

鐵道省、稅務監督局
秋田縣廳、仙臺地方專賣局 各指定旅館
旅館 高田屋本店
館主 高橋光兵衛
湯澤町大町(電話二三番)

秋田縣湯澤町大町

旅館 柳澤本店

店主 柳澤常吉

電話四一番

湯澤町田町

高吉商店

一印醤油味噌醸造元
荒物雑貨、和洋菓子

電話三〇一番

湯澤町大町

富谷德治商店

肥料、雑貨
養雞、飼料
麩、荒物

電話一二一番

湯澤町大町

丸善商店

萬金物、各種塗料、洋敷物、文房具、化粧品
川運工、藝漆器
運動具、硝子器
日用雑貨、靴類

平田善之助

電話一〇三番

湯澤町大町

渡部病院

湯澤町内館
電話三〇番

顧問醫學士 渡部恭助
外科 院長 醫學博士 渡部均
內科 醫學博士 木村茂
産科婦人科 醫學士 佐藤齊

三輪分院

大阪醫學士 石田宏

湯澤町大町 電話三一四番

田中齒科醫院

齒科醫 田中六郎

湯澤町大町丸京向

各種藥種商 白土藥舗

處方調劑 藥劑師 白土隆一

湯澤町柳町郵便局隣 電話一一六番

与舛與藥局

藥劑師 東海林虎治

醫療組合 **雄勝中央病院** 湯澤町前森裏 電話二六・三五五番

組合長 藤木勇太郎　副組合長 佐藤長藏
常務理事 戸島乾太郎　專務理事 入江五郎
内科 院長 醫學博士 佐藤武雄
小兒科 レントゲン科 物理療法科 副院長 醫學士 佐伯鐵男
産婦人科 醫學士 大谷博信
醫學士 櫻井信
醫學士 高橋啓一郎
醫學士 伊藤正夫
明治藥學士 坂井清　レントゲン技師 河合勇
産婆 齋藤タエ子　産婆（囑託） 石川鶴子

横堀診療所 常務理事 醫學士 坂井清織　顧問 醫學士 徐相哲

湯澤町元郡役所通電話二一四番
佐藤齒科醫院
齒科醫 佐藤英夫

湯澤町北荒町電話二一番
吉田齒科醫院
齒科醫 吉田三益

湯澤町下町
山本齒科診療所
齒科醫 山本政太郎
福地斌

洋燈、硝子器、帶氣器具、板硝子各種 セトモノ類、ニューム類
湯澤町柳町
井川春吉商店
電話三六番 振替東京五〇七六五番

各地産合資 瀨戸物商會社
湯澤町下新地
近江竹治商店
電話二〇五番

製材販賣 木炭商
大野製材所
大野重太郎
秋田縣湯澤驛前 電話一〇二番

宮田自轉車、ノーリツ自轉車 東洋車輪、木ホイール 各特約工場
湯澤町柳町 電話三四七番
鈴木自轉車店
鈴木京助

畳表、筵筒 建具、家具
湯澤町柳町 畳製造問屋
小田原豊治
電話三〇七番

湯澤町驛前

鈴木材木店

鈴木繁郎

電話二五七番

各種製函工場

大深瀬材木店

湯澤町材木町

電話三四八番

營業種目

土木請負
建築材各種
電柱並橋材
特選突木羽

製材工場

鈴木易藏

電話五二番

湯澤驛前

酒樽製造 **御影樽工場**

安田藤治郎

電話一二五番

土木建築
社寺請負 **匠家 高久彦太郎**

湯澤町根小屋町

電話一七一番

土木建築請負業 **田村組**

湯澤町根小屋町 電話二二四番

田村一隆

秋田縣湯澤町淸水尻

工場南新町

甲州屋材木店

齋藤勝二郎

電話一七二番

本院　湯澤町北荒町　電話一六七番

山田眼科醫院

山田顯一

分院　横手町榮通町　電話六番

耳鼻咽喉科
外科
レントゲン科

秋田縣湯澤町內館
電話五番

湯澤病院

院長
醫學士
金光巽

醫學士
宮川二郎

入院隨意

湯澤町元郡役所前

藤井醫院

藤井順

電話二二五番

內外米雜穀、砂糖
麥粉、麩類問屋

皆川仁藏商店

本店　湯澤町吹張町
電話一二二番
卸部　湯澤驛前
電話四七番

菓子問屋

芳賀好之助商店

秋田縣湯澤町大町
電話三一六番

雜穀、果實、甘藷問屋

大沼商店

店主　大沼平次郎
湯澤町大町　電話一二九番

湯澤町南新町（驛前通）

一運送店

高橋辨之助

電話三〇九番

貸切自動車　湯澤町下新地

小峯タクシー

阿部長松

電話四五番

貸切自動車　湯澤町田町

星光タクシー

手塚忠吉

電話一一一番

湯澤町南新町（驛前通）

古谷運送店

古谷富之助

電話三一九番

適地分場飼育に依る强健蠶種

合資會社 **秋田蠶種共進社**

高畑貢

秋田縣湯澤町御園地町

秋田縣湯澤町（驛前通）

電話一三六番

雄勝共同販賣購買利用組合 **農業倉庫**

驛前支庫　電話三三〇番

横堀支庫　電話六番

洋服業界の權威 **澁谷洋服店**

秋田縣湯澤驛前通

電話三二二番

四季の洋品はイトウを見てから
値も、品も、
確かな

イトウ
湯澤町柳町　電話一六五番

日本ビクター蓄音器
日本コロンビヤ蓄音器
日本キングレコード蓄音器
各會社特約店
マルヰ時計店
今井勇七
湯澤町浦町　電話　呼出二三五番

文房具　湯澤町吹張橋畔
書籍
運動具
帶久商店
電話二四四番

流行
菓子
湯澤町柳町十文字
加賀谷菓子店
電話二三一番

湯澤町大町
菓子商　倉田辨四郎商店
電話二五三番

湯澤町柳町
小西洋裝店
電話二三二番

秋田名物
蕗砂糖漬　森永ベルトラインストアー
秋田諸越
芭蕉煎餅
琳瑯堂菓子店
佐藤源治
湯澤町大町　電話一三四番

牛豚、鳥肉、鎌倉ハム、牛馬商
合資會社
齋藤虎之助商店
湯澤町柳町　電話六七番

秋田縣湯澤町根小屋町
電話一六四番
長谷川寫眞舘
舘主　長谷川清八郎

湯澤町柳町　電話一六二番
海産物問屋　俵谷商店
俵谷恭三

湯澤町田町
米穀輸出問屋　山内儀助商店
電話四八番

秋田縣湯澤町下新地
和洋菓子舗　佐藤群玉堂
佐藤文七
電話三一五番

湯澤町下新地
洋品とメリヤス
化粧品と雜貨
ミマツ
電話一五九番

湯澤町吹張　電話四九番
奥山印刷所
奥山雲平

湯澤の代表的印刷所

湯澤町根小屋町
沼倉印刷所
沼倉義廣

湯澤町南新町
湯澤タイムス社
島崎福三郎

湯澤、上院内間
五大溫泉聯絡　乘合自動車
藤原自動車
湯澤町愛宕町

秋田縣雄勝郡三輪村大久保
土木建築請負業　柴田養藏

三輪村清水
割烹　清水倶樂部
高橋旅館

三輪村驛前
三輪産業組合
農業倉庫

西馬音内町
保證責任西馬音内
販賣購買利用組合　農業倉庫
電話四二番

製造販賣
川連漆器　阿部健吉商店
秋田縣雄勝郡川連町
電話一番

奥羽本線十文字驛前

十文字運送株式會社

電話〜一一九 一一三番

秋田縣十文字町角

丹尾旅館

電話一五番

秋田縣增田町

林旅館

電話四一番

秋田縣平鹿郡增田町

增田水力電氣株式會社

秋田縣增田町增田一四八番地

株式會社 羽後銀行

秋田縣橫手町

和洋酒罐詰 食料品 柏谷商店

電話長五二番

橫手町

亀甲忠 味噌 醬油 醸造元 内藤忠四郎

電話一五四番

秋田縣橫手驛前

保證責任 共同販賣 購買利用組合 平鹿農業倉庫

電話二三九番

秋田縣橫手町

木材各種 土木建築 業 武茂商店

電話長二一三番

橫手町

祝發刊 黑丸健吉

奥羽本線 秋田縣横手驛前

横手共同運送店

Ⓣ 計 交計

電話二四電略○トモ又ハトモ

鐵道省指定運送取扱人

E 通 E **横手合同運送店**

電話（到着三六）（發送一一〇）（庶務長四）

秋田縣横手町

横荘鐵道株式會社

電話一七〇番

横手町大町上

大仁、幸福印 ゴム靴問屋 **藤井元治商店**

電話特長二九四番

横手町大町

ビクター、コロムビア ポリドール、キング 各社特約

時計商 **蜂谷時計店**

電話二三三、振、仙二四〇二

大日本人造肥料株式會社 我妻製肥所特約店

内外肥料 改良農具 **黒丸友治**

特製ツヤメント（滑油ノ素）横手特約店 秋田縣横手町驛前

横手町富士見町

横手商事合名會社

営業種目

建材部 小野田セメント、小野田白色セメント 石綿スレート、石綿煙突 タイル衛生陶器、石灰、壁材料

燃料部 石炭、コークス 豆炭、煉炭 フクロクストーブ、平壽

鈴木廣治商店

電話一九五番 振、仙二一五二番

秋田縣横手町

横手製麹合資會社

代表者 佐々木長十郎

電話一七四番

公債株式現物問屋

瀬田川株式店

横手町平城 電話二八三番

秋田縣横手町富士見町
醤油味噌釀造元 畑良商店
電話二九九番

横手町
辯護士 中村耕三

帝國生命保險株式會社横手代理店
主管 内藤慶藏
横手町大町
電話一三二番

横手町下根岸
斯界の權威 長谷川寫眞舘
長谷川清
電話三七番

那波吳服店
電話 特長七五〇番
一八番
振、東三四〇七一番

秋田市大町二丁目町
辻吳服店
電話 ㊟七七五五番
振替 東京二〇六六一番
仙臺一二〇六番

本金商店
電話 ㊟一〇二五番
二五番
振 仙四九六三番

支店 仙台市東一番丁（電話二八五〇番）
能代港町島町（電話五三八番）
秋田市大町（電話三〇番）
木内の商品券御利用さい
秋田市廣小路
木内百貨店
電話 一〇・六四〇・六一〇番
振、仙五八七四番

大日本電力株式會社
秋田事務所
秋田市中谷地町五六番地ノ二

秋田市茶町扇ノ丁
盛岡電燈株式會社
秋田支店
電話四五三番 一一〇一番

秋田組合病院
秋田市古川堀反町
電話五一九番

縣會議員
辯護士 岡部秀溫
秋田市古川堀反町
電話六〇六番

辯護士 酒井英次郎
秋田市龜ノ丁東土手町一
電話八二番

辯護士 高橋唯雄
秋田市西根小屋中丁
電話三〇八番

秋田土木協會々長
土木建築請負業 栗原源藏
秋田市龜ノ丁東土手町

秋田土木協會副會長
土木建築請負業 相澤重吉
秋田市西根小屋町

秋田市大町三丁目
株式會社 日本勸業銀行秋田支店
電話 一、〇九七番

秋田市大町三丁目
株式會社 秋田銀行
電話 一二番 四三三番 一〇〇番 六〇九番

秋田市茶町菊ノ丁
株式會社 第四十八銀行秋田支店
電話 四八番 四八〇番 八一二番

秋田市本町四丁目
株式會社 安田銀行秋田支店
電話 七二八番 三番

秋田市大町三丁目
株式會社 三和銀行秋田支店
電話 一七五番 六四〇番

秋田市本町五丁目
株式會社 秋田貯蓄銀行
電話 二二番 六六番 一、〇三四番

秋田市茶町梅ノ丁
秋田信託株式會社
電話 一、九一三番 一、〇〇一番

秋田市大町三丁目
秋田手形交換所
電話 四二九番

株式會社 星野組專務取締役
土木建築請負業 **酢谷政五郎**
秋田市虎ノ口堀反新町
電話一一四六番

土木建築
請負業 **松澤勘助**
秋田市龍ノ丁虎ノ口一
電話㊟九二一番

清酒、洋酒、味淋、
飲料水、
燒酎、
煉乳、
醬油、
罐詰、清酢、食料品
合名會社 **河周商店**
秋田市茶町梅ノ丁二七番地
電話積㊟一一〇〇・八八七番
振・口・東八六三一番

銘酒 **親玉** 醸造元 **野口酒造店**
秋田市上通町
電話二六〇番

鐵道省御指定
便利で静かな **木村旅館**
秋田市驛前
電話六九番

秋田市茶町扇ノ丁
市の中央卓上電話 **今野旅館**
電話六七番

第八師團御指定
鐵道省御指定
關根屋旅館
秋田市驛前
電話六三・八九七番
御家庭の延長として
お心安く御利用下さい

大弓場 旅館 **大弓館**
玉突臺
秋田市驛前
電話九一四番

秋田縣教育會、秋田縣自治協會指定

宿料低廉
茶代拜辭

中村旅館

秋田市大町丁目
電話九一四〇番

秋田市大町三丁目
電車終點側
コンクリート三階

三浦旅館

三浦齒科醫院
電話一三六番

秋田市大町四番地

山留旅館

電四七〇番

秋田市本町四丁目
秋田（郵便局向）

扇屋旅館

電話五四七番

秋田市川反一丁目
電話六二一番、振東五四七一番

愃六商會東北本店

店主 佐藤善助

秋田市馬口勞町

種苗
農具

高井南茄園

店主 高井善吉
電話一〇二四番
振、仙七一六番

秋田市大町二丁目
秋田名産 樺細工各種

藤木秋田支店

藤木啓吉
電話二四七番

・各種漆器一式
・營業木工家具雜貨
宣德銅器鐵瓶
種業木盃名入調製
目記念品名入調製
曲木椅子テーブル
スキー及兩杖作製

秋田木工株式會社東北一手特約
秋田市茶町扇之丁

齋藤漆器店

電話三六〇番
振替〈東三五五四五番
仙二六四六番

秋田市本町六丁目

和洋家具指物
婚禮道具一式
諸官衙御用

せ

清水養吉商店

電話六四八番
振替仙臺二四四九番

秋田市三丁目橋通

石井萬年堂

電話一、一二六番

秋田市大町一丁目

鈴木テント店

電話四六三番

秋田市大町三丁目

秋田名産
金銀細工

商 佐藤福藏商店

電話五四〇番　振東五〇六五二番

秋田市川尻一丁目橋通

洋服既製品 菅新洋服店

秋田市六丁目川反

木材商 佐藤康治

電話八二二番

秋田市上川口三四

木材商 水野龜藏

電話一、〇八七番

秋田市川口下裏町

木材商 狐崎爲治

電話三六八番

秋田市室町

土木建築請負業 船木鶴治

電話五二九番

今村組代人

土木建築請負業 高橋雅治

秋田市長野下堀反町二二番地

秋田市龜ノ丁西土手町二〇番地

映畫殿堂 秋田松竹館

電話一、二一六番

秋田市十人衆町

旭館

電話五四八番

酒銘
刈穂　神宮寺酒造株式會社
秋田縣神宮寺町

酒銘
福乃友　福の友酒造店
秋田縣神宮寺町

亀甲姫醤油　東北醤油株式會社
秋田縣神宮寺町

角館町
祝發刊　佐藤作治

秋田縣大曲驛前
有限責任　仙北醫療購買利用組合
電話二五一番

秋田縣大曲驛前
大曲合同運送株式會社
電話五四・五九番

食堂　水月
大曲町掛子河畔